

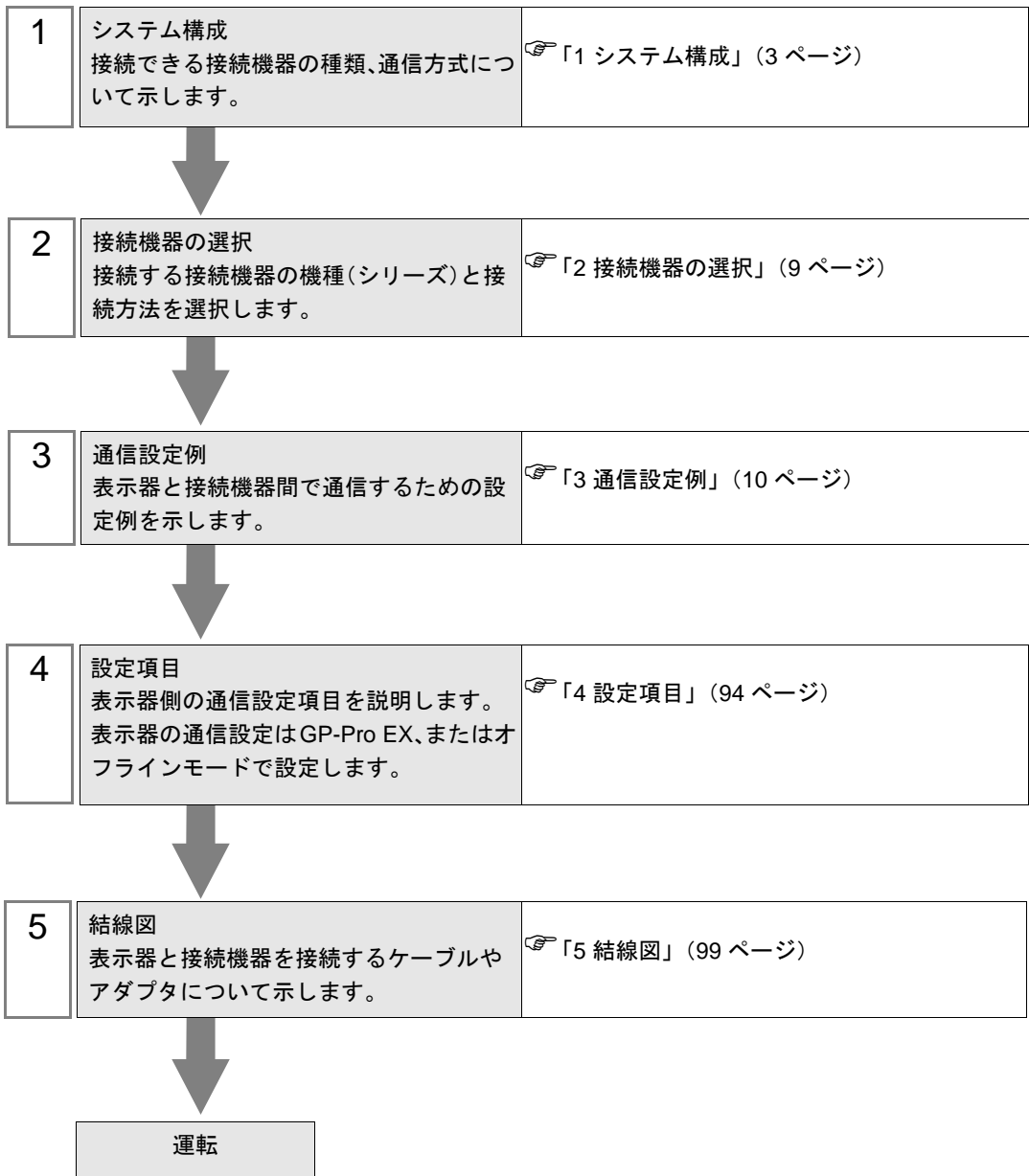
# H シリーズ SIO ドライバ

1	システム構成.....	3
2	接続機器の選択.....	9
3	通信設定例.....	10
4	設定項目.....	94
5	結線図.....	99
6	使用可能デバイス.....	209
7	デバイスコードとアドレスコード.....	216
8	エラーメッセージ.....	219

## はじめに

本書は表示器と接続機器を接続する方法について説明します。

本書では接続方法を以下の順に説明します。



# 1 システム構成

日立産機システム製接続機器と表示器を接続する場合のシステム構成を示します。

シリーズ	CPU	リンク I/F	通信方式	設定例	結線図
H (伝送制御手順 1)	H-20, H-28, H-40, H-64	CPU ユニット上のポート	RS232C	設定例 1 (10 ページ)	「結線図 1」 (99 ページ)
	H-200(CPU-02H) <sup>※1</sup> H-250(CPU21-02H) <sup>※1</sup> H-252B(CPU22-02HB) <sup>※1</sup>	CPU ユニット上のポート	RS232C	設定例 1 (10 ページ)	「結線図 1」 (99 ページ)
	H-252C(CPU22-02HC) <sup>※1 ※2</sup>	CPU ユニット上のポート	RS232C	設定例 1 (10 ページ)	「結線図 1」 (99 ページ)
	H-300(CPU-03Ha) <sup>※1</sup> H-700(CPU-07Ha) <sup>※1</sup> H-2000(CPU-20Ha) <sup>※1</sup> H-2002(CPU2-20H) <sup>※1</sup>	CPU ユニット上のポート	RS232C	設定例 1 (10 ページ)	「結線図 1」 (99 ページ)
			COMM-H COMM-2H	RS232C	設定例 2 (12 ページ)
		RS422/485 (4 線式)	設定例 3 (14 ページ)	「結線図 2」 (102 ページ)	
	H-302(CPU2-03H) <sup>※1</sup> H-702(CPU2-07H) <sup>※1</sup> H-4010(CPU3-40H) <sup>※1</sup> H-1002(CPU2-10H) <sup>※1</sup>	CPU ユニット上のポート	RS232C	設定例 1 (10 ページ)	「結線図 1」 (99 ページ)
			COMM-2H	RS232C	設定例 2 (12 ページ)
		RS422/485 (4 線式)		設定例 3 (14 ページ)	「結線図 2」 (102 ページ)
	H (伝送制御手順 2)	H-300(CPU-03Ha) H-700(CPU-07Ha) H-2000(CPU-20Ha) H-302(CPU2-03H) H-702(CPU2-07H) H-2002(CPU2-20H) H-4010(CPU3-40H) H-1002(CPU2-10H)	COMM-2H	RS232C	設定例 4 (16 ページ)
RS422/485 (4 線式)				設定例 5 (18 ページ)	「結線図 2」 (102 ページ)

シリーズ	CPU	リンク I/F	通信方式	設定例	結線図		
EH-150 (伝送制御 手順 1)	EH-150(EH-CPU104) EH-150(EH-CPU104A) EH-150(EH-CPU208) EH-150(EH-CPU208A) EH-150(EH-CPU308) EH-150(EH-CPU316)	CPU ユニット 上のシリアル ポート 1 CPU ユニット 上のシリアル ポート 2	RS232C	設定例 6 (20 ページ)	結線図 3 (109 ページ)		
	EH-150(EH-CPU308A) EH-150(EH-CPU316A) EH-150(EH-CPU448) EH-150(EH-CPU448A) EH-150(EH-CPU516) EH-150(EH-CPU548)	CPU ユニット 上のシリアル ポート 1	RS232C	設定例 6 (20 ページ)	結線図 3 (109 ページ)		
			RS422/485 (4 線式)	設定例 7 (22 ページ)	結線図 4 (112 ページ)		
			RS422/485 (2 線式)	設定例 8 (24 ページ)	結線図 5 (119 ページ)		
	EH-150(EH-CPU516) EH-150(EH-CPU548)	EH-SIO ユニッ ト上のポート 1※ <sup>3</sup>	CPU ユニット 上のシリアル ポート 2	RS232C	設定例 6 (20 ページ)	結線図 3 (109 ページ)	
				EH-SIO ユニッ ト上のポート 2※ <sup>3</sup>	RS232C	設定例 9 (26 ページ)	結線図 12 (188 ページ)
				RS232C※ <sup>4</sup>	設定例 10 (28 ページ)	結線図 12 (188 ページ)	
				RS422/485 (4 線式)※ <sup>4</sup>	設定例 11 (30 ページ)	結線図 6 (131 ページ)	
	EH-150 (伝送制御 手順 2)	EH-150(EH-CPU104A) EH-150(EH-CPU208A)	CPU ユニット 上のシリアル ポート 1	RS232C	設定例 13 (34 ページ)	結線図 3 (109 ページ)	
		EH-150(EH-CPU308A) EH-150(EH-CPU316A) EH-150(EH-CPU448) EH-150(EH-CPU448A) EH-150(EH-CPU516) EH-150(EH-CPU548)	CPU ユニット 上のシリアル ポート 1	RS232C	設定例 13 (34 ページ)	結線図 3 (109 ページ)	
RS422/485 (4 線式)				設定例 14 (36 ページ)	結線図 4 (112 ページ)		
RS422/485 (2 線式)				設定例 15 (38 ページ)	結線図 5 (119 ページ)		
EH-150(EH-CPU516) EH-150(EH-CPU548)		EH-SIO ユニッ ト上のポート 1※ <sup>3</sup>	EH-SIO ユニッ ト上のポート 2※ <sup>3</sup>	RS232C	設定例 16 (40 ページ)	結線図 12 (188 ページ)	
				RS232C※ <sup>4</sup>	設定例 17 (42 ページ)	結線図 12 (188 ページ)	
				RS422/485 (4 線式)※ <sup>4</sup>	設定例 18 (44 ページ)	結線図 6 (131 ページ)	
				RS422/485 (2 線式)※ <sup>4</sup>	設定例 19 (46 ページ)	結線図 7 (138 ページ)	

シリーズ	CPU	リンク I/F	通信方式	設定例	結線図	
MICRO-EH (伝送制御 手順 1)	MICRO-EH(EH-D10□□□) ※5 MICRO-EH(EH-A14□□□) ※5 MICRO-EH(EH-D14□□□) ※5	CPU ユニット 上のポート 1	RS232C	設定例 20 (48 ページ)	結線図 3 (109 ページ)	
	MICRO-EH(EH-A23□□□) ※5 MICRO-EH(EH-D23□□□) ※5 MICRO-EH(EH-A28□□□) ※5 MICRO-EH(EH-D28□□□) ※5	CPU ユニット 上のポート 1	RS232C	設定例 20 (48 ページ)	結線図 3 (109 ページ)	
			RS422/485 (4 線式)	設定例 21 (50 ページ)	結線図 8 (150 ページ)	
		CPU ユニット 上のポート 2	RS422/485 (2 線式)	設定例 22 (52 ページ)	結線図 9 (157 ページ)	
			CPU ユニット 上のポート	RS232C	設定例 20 (48 ページ)	結線図 3 (109 ページ)
	MICRO-EH(EH-A64□□) ※5 MICRO-EH(EH-D64□□) ※5 MICRO-EH(EH-A40□□) ※5 MICRO-EH(EH-D40□□) ※5 MICRO-EH(EH-A20□□) ※5 MICRO-EH(EH-D20□□) ※5	EH-OB232 ※6	RS232C	設定例 23 (54 ページ)	結線図 3 (109 ページ)	
			RS422/485 (4 線式)	設定例 24 (56 ページ)	結線図 10 (169 ページ)	
		EH-OB485 ※7	RS422/485 (2 線式)	設定例 25 (58 ページ)	結線図 11 (176 ページ)	
			MICRO-EH(EH-D10□□□) ※5 MICRO-EH(EH-A14□□□) ※5 MICRO-EH(EH-D14□□□) ※5	CPU ユニット 上のポート 1	RS232C	設定例 26 (60 ページ)
	MICRO-EH (伝送制御 手順 2)	MICRO-EH(EH-A23□□□) ※5 MICRO-EH(EH-D23□□□) ※5 MICRO-EH(EH-A28□□□) ※5 MICRO-EH(EH-D28□□□) ※5	CPU ユニット 上のポート 1	RS232C	設定例 26 (60 ページ)	結線図 3 (109 ページ)
RS422/485 (4 線式)				設定例 27 (62 ページ)	結線図 8 (150 ページ)	
CPU ユニット 上のポート 2			RS422/485 (2 線式)	設定例 28 (64 ページ)	結線図 9 (157 ページ)	
			CPU ユニット 上のポート	RS232C	設定例 26 (60 ページ)	結線図 3 (109 ページ)
MICRO-EH(EH-A64□□) ※5 MICRO-EH(EH-D64□□) ※5 MICRO-EH(EH-A40□□) ※5 MICRO-EH(EH-D40□□) ※5 MICRO-EH(EH-A20□□) ※5 MICRO-EH(EH-D20□□) ※5		EH-OB232 ※6	RS232C	設定例 29 (66 ページ)	結線図 3 (109 ページ)	
			RS422/485 (4 線式)	設定例 30 (68 ページ)	結線図 10 (169 ページ)	
		EH-OB485 ※7	RS422/485 (2 線式)	設定例 31 (70 ページ)	結線図 11 (176 ページ)	
			EH-WD10DR	CPU ユニット 上のシリアル ポート	RS232C	設定例 32 (72 ページ)
Web コン トローラ (伝送制御 手順 1 お よび 2)		EH-WA23DR	CPU ユニット 上のシリアル ポート	RS232C	設定例 40 (88 ページ)	結線図 3 (109 ページ)
				RS422/485 (4 線式)	設定例 41 (90 ページ)	結線図 13 (190 ページ)
	RS422/485 (2 線式)			設定例 42 (92 ページ)	結線図 14 (197 ページ)	

シリーズ	CPU	リンク I/F	通信方式	設定例	結線図
EHV (伝送制御 手順 1 お よび 2)	EHV-CPU128 EHV-CPU64 EHV-CPU32 EHV-CPU16	CPU ユニッ ト上のシリアル ポート	RS232C	設定例 33 (74 ページ)	結線図 3 (109 ページ)
			RS422/485 (4 線式)	設定例 34 (76 ページ)	結線図 4 (112 ページ)
			R422/S485 (2 線式)	設定例 35 (78 ページ)	結線図 5 (119 ページ)
		EH-SIO ユニッ ト上のポート 1※8	RS232C	設定例 36 (80 ページ)	結線図 12 (188 ページ)
		EH-SIO ユニッ ト上のポート 2※8	RS232C	設定例 37 (82 ページ)	結線図 12 (188 ページ)
			RS422/485 (4 線式)	設定例 38 (84 ページ)	結線図 6 (131 ページ)
			RS422/485 (2 線式)	設定例 39 (86 ページ)	結線図 7 (138 ページ)

※1 CPU モジュールのペリフェラルポートへ接続してください。

※2 CPU ユニッ ト上のペリフェラルポート 2 が使用されている場合、8 ピンコネクタと D-sub15 ピンコネクタとの間に(株)日立産機システム製 CNCOM-05 変換ケーブルが必要です。

※3 EH-SIO のソフトウェアがバージョン 2.0 以降の場合は Procedure 1 を、バージョン 2.1 以降の場合は Procedure 2 をサポートしています。さらに、EH-CPU548 (Ver.E402 以降) /EH-CPU516 (Ver.E202 以降) のみ EH-SIO を使用できます。

※4 Bit8 はポート 2 のインタフェース選択 (RS232C あるいは RS422/485) に使用します。

※5 接続機器の機種番号“□”は各接続機器の仕様によって異なります。

※6 通信ボード (RS232C) です。CPU バージョンが Ver.0101 以降の CPU で使用できます。

※7 通信ボード (RS422/RS485) です。CPU バージョンが Ver.0100 以降の CPU で使用できます。

※8 EH-SIO のソフトウェアがバージョン 2.0 以降の場合は Procedure 1 を、バージョン 2.1 以降の場合は Procedure 2 をサポートしています。

## ■ IPC の COM ポートについて

接続機器と IPC を接続する場合、使用できる COM ポートはシリーズと通信方式によって異なります。詳細は IPC のマニュアルを参照してください。

### 使用可能ポート

シリーズ	使用可能ポート		
	RS-232C	RS-422/485(4 線式)	RS-422/485(2 線式)
PS-2000B	COM1 <sup>※1</sup> 、COM2、 COM3 <sup>※1</sup> 、COM4	-	-
PS-3450A、PS-3451A、 PS3000-BA、PS3001-BD	COM1、COM2 <sup>※1※2</sup>	COM2 <sup>※1※2</sup>	COM2 <sup>※1※2</sup>
PS-3650A(T41 機種)、 PS-3651A(T41 機種)	COM1 <sup>※1</sup>	-	-
PS-3650A(T42 機種)、 PS-3651A(T42 機種)	COM1 <sup>※1※2</sup> 、COM2	COM1 <sup>※1※2</sup>	COM1 <sup>※1※2</sup>
PS-3700A (Pentium®4-M) PS-3710A	COM1 <sup>※1</sup> 、COM2 <sup>※1</sup> 、 COM3 <sup>※2</sup> 、COM4	COM3 <sup>※2</sup>	COM3 <sup>※2</sup>
PS-3711A	COM1 <sup>※1</sup> 、COM2 <sup>※2</sup>	COM2 <sup>※2</sup>	COM2 <sup>※2</sup>
PS4000 <sup>※3</sup>	COM1、COM2	-	-
PL3000	COM1 <sup>※1※2</sup> 、 COM2 <sup>※1</sup> 、COM3、 COM4	COM1 <sup>※1※2</sup>	COM1 <sup>※1※2</sup>

※1 RI/5V を切替えることができます。IPC の切替えスイッチで切替えてください。

※2 通信方式をディップスイッチで設定する必要があります。使用する通信方式に合わせて、以下のように設定してください。

※3 拡張スロットに搭載した COM ポートと接続機器を通信させる場合、通信方式は RS-232C のみサポートします。ただし、COM ポートの仕様上、ER(DTR/CTS) 制御はできません。接続機器との接続には自作ケーブルを使用し、ピン番号 1、4、6、9 には何も接続しないでください。ピン配列は IPC のマニュアルを参照してください。

### ディップスイッチの設定：RS-232C

ディップスイッチ	設定値	設定内容
1	OFF <sup>※1</sup>	予約 (常時 OFF)
2	OFF	通信方式：RS-232C
3	OFF	
4	OFF	SD(TXD) の出力モード：常に出力
5	OFF	SD(TXD) への終端抵抗挿入 (220Ω)：なし
6	OFF	RD(RXD) への終端抵抗挿入 (220Ω)：なし
7	OFF	SDA(TXA) と RDA(RXA) の短絡：しない
8	OFF	SDB(TXB) と RDB(RXB) の短絡：しない
9	OFF	RS(RTS) 自動制御モード：無効
10	OFF	

※1 PS-3450A、PS-3451A、PS3000-BA、PS3001-BD を使用する場合のみ設定値を ON にする必要があります。

## ディップスイッチの設定 : RS-422/485 (4 線式)

ディップスイッチ	設定値	設定内容
1	OFF	予約 (常時 OFF)
2	ON	通信方式 : RS-422/485
3	ON	
4	OFF	SD(TXD) の出力モード : 常に出力
5	OFF	SD(TXD) への終端抵抗挿入 (220Ω) : なし
6	OFF	RD(RXD) への終端抵抗挿入 (220Ω) : なし
7	OFF	SDA(TXA) と RDA(RXA) の短絡 : しない
8	OFF	SDB(TXB) と RDB(RXB) の短絡 : しない
9	OFF	RS(RTS) 自動制御モード : 無効
10	OFF	

## ディップスイッチの設定 : RS-422/485 (2 線式)

ディップスイッチ	設定値	設定内容
1	OFF	予約 (常時 OFF)
2	ON	通信方式 : RS-422/485
3	ON	
4	OFF	SD(TXD) の出力モード : 常に出力
5	OFF	SD(TXD) への終端抵抗挿入 (220Ω) : なし
6	OFF	RD(RXD) への終端抵抗挿入 (220Ω) : なし
7	ON	SDA(TXA) と RDA(RXA) の短絡 : する
8	ON	SDB(TXB) と RDB(RXB) の短絡 : する
9	ON	RS(RTS) 自動制御モード : 有効
10	ON	



## 2 接続機器の選択

表示器と接続する接続機器を選択します。



設定項目	設定内容
接続機器数	設定するシリーズ数を「1～4」で入力します。
メーカー	接続する接続機器のメーカーを選択します。「㈱日立産機システム」を選択します。
シリーズ	接続する接続機器の機種（シリーズ）と接続方法を選択します。「H シリーズ SIO」を選択します。 「H シリーズ SIO」で接続できる接続機器はシステム構成で確認してください。 ☞「1 システム構成」(3 ページ)
ポート	接続機器と接続する表示器のポートを選択します。
システムエリアを使用する	表示器のシステムデータエリアと接続機器のデバイス（メモリ）を同期させる場合にチェックします。同期させた場合、接続機器のラダープログラムで表示器の表示を切り替えたりウィンドウを表示させることができます。 参照：GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア（ダイレクトアクセス方式専用エリア）」 この設定は GP-Pro EX、または表示器のオフラインモードでも設定できます。 参照：GP-Pro EX リファレンスマニュアル「システム設定 [ 本体設定 ] - [ システムエリア設定 ] の設定ガイド」 参照：保守 / トラブル解決ガイド「本体設定 - システムエリア設定」

### 3 通信設定例

(株) デジタルが推奨する表示器と接続機器の通信設定例を示します。

#### 3.1 設定例 1

##### ■ GP-Pro EX の設定

##### ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)日立産機システム シリーズ H シリーズ SIO ポート COM1

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

伝送制御手順 伝送制御手順1

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定

接続可能台数 16台 [機器を追加](#)


No.	機器名	設定
1	PLC1	シリーズ=H シリーズ

[間接機器追加](#)

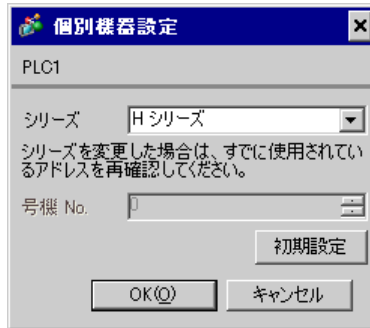
##### MEMO

- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定 (CPU ユニット上のポート : H-4010 のみ)

通信設定は CPU ユニットのスイッチで行います。通信設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ モード設定スイッチ

## • DIPSW1

ディップスイッチ	設定	内容
SW03	OFF	ポート 1 の伝送速度 : 19,200 bps
SW04	OFF	ポート 2 の伝送速度 : 19,200 bps

**MEMO**

- その他の伝送速度の設定は以下のとおりです。

ディップスイッチ	設定	内容
SW03	ON	ポート 1 の伝送速度 : 38,400 bps
SW04	ON	ポート 2 の伝送速度 : 38,400 bps

## 3.2 設定例 2

## ■ GP-Pro EX の設定

## ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)日立産機システム シリーズ H シリーズ SIO ポート COM1

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

伝送制御手順 伝送制御手順1

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定


接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No.	機器名	設定	間接機器追加
1	PLC1	シリーズ=H シリーズ	<a href="#">+</a>

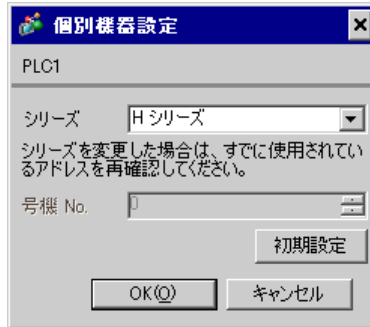
## MEMO

- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定 (COMM-H、COMM-2H)

通信設定はリンク I/F ユニットのスイッチで設定を行います。通信設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 通信設定スイッチ

ディップスイッチ	設定	内容
01	OFF	ビット長：7ビット
02	ON	ボーレート伝送速度：19,200 bps
03	ON	
04	ON	
05	ON	パリティ有/無：有
06	ON	パリティ偶/奇：偶数
07	OFF	ストップビット長：1ビット
08	ON	サムチェック有/無：有

## ◆ 局番設定ロータリスイッチ

ロータリスイッチ	設定	内容
× 10	0	接続機器の局番 (+ の位)
× 1	0	接続機器の局番 (- の位)

## ◆ モード設定ロータリスイッチ

ロータリスイッチ	設定	内容
MODE	2	伝送手順：伝送手順 1

### 3.3 設定例 3

#### ■ GP-Pro EX の設定

##### ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)日立産機システム シリーズ H シリーズ SIO ポート COM1

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

伝送制御手順 伝送制御手順1

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定

接続可能台数 16台 [機器を追加](#)


No.	機器名	設定
1	PLC1	シリーズ=H シリーズ,号機 No.=0

[間接機器追加](#)

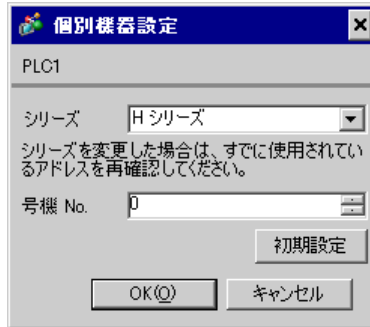
#### MEMO

- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定 (COMM-H、COMM-2H)

通信設定はリンク I/F ユニットのスイッチで設定を行います。通信設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 通信設定スイッチ

ディップスイッチ	設定	内容
01	OFF	ビット長：7ビット
02	ON	ボーレート伝送速度：19,200 bps
03	ON	
04	ON	
05	ON	パリティ有/無：有
06	ON	パリティ偶/奇：偶数
07	OFF	ストップビット長：1ビット
08	ON	サムチェック有/無：有

## ◆ 局番設定ロータリスイッチ

ロータリスイッチ	設定	内容
× 10	0	接続機器の局番 (+ の位)
× 1	0	接続機器の局番 (- の位)

## ◆ モード設定ロータリスイッチ

ロータリスイッチ	設定	内容
MODE	2	伝送手順：伝送手順 1

## 3.4 設定例 4

## ■ GP-Pro EX の設定

## ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)日立産機システム シリーズ H シリーズ SIO ポート COM1

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

伝送制御手順 伝送制御手順2

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定

接続可能台数 16台 [機器を追加](#)


No.	機器名	設定	間接機器追加
1	PLC1	シリーズ=H シリーズ	<a href="#">+</a>

## MEMO

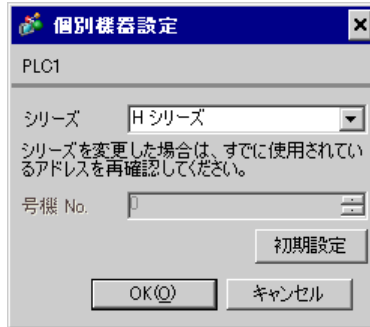
- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。



## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定 (COMM-2H)

通信設定はリンク I/F ユニットのスイッチで設定を行います。通信設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 通信設定スイッチ

ディップスイッチ	設定	内容
01	OFF	ビット長 : 7 ビット
02	ON	ボーレート伝送速度 : 19,200 bps
03	ON	
04	ON	
05	ON	パリティ有 / 無 : 有
06	ON	パリティ偶 / 奇 : 偶数
07	OFF	ストップビット長 : 1 ビット
08	ON	サムチェック有 / 無 : 有

## ◆ 局番設定ロータリスイッチ

ロータリスイッチ	設定	内容
× 10	0	接続機器の局番 (+ の位)
× 1	0	接続機器の局番 (- の位)

## ◆ モード設定ロータリスイッチ

ロータリスイッチ	設定	内容
MODE	9	伝送手順 : 伝送手順 2

## 3.5 設定例 5

### ■ GP-Pro EX の設定

#### ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)日立産機システム シリーズ H シリーズ SIO ポート COM1

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

伝送制御手順 伝送制御手順2

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定


接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No.	機器名	設定	間接機器追加
1	PLC1	シリーズ=H シリーズ,号機 No.=0	<a href="#">+</a>

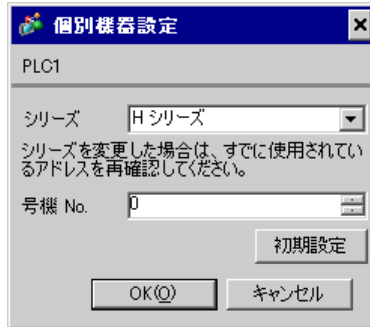
#### MEMO

- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定 (COMM-2H)

通信設定はリンク I/F ユニットのスイッチで設定を行います。通信設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 通信設定スイッチ

ディップスイッチ	設定	内容
01	OFF	ビット長：7ビット
02	ON	ボーレート伝送速度：19,200 bps
03	ON	
04	ON	
05	ON	パリティ有/無：有
06	ON	パリティ偶/奇：偶数
07	OFF	ストップビット長：1ビット
08	ON	サムチェック有/無：有

## ◆ 局番設定ロータリスイッチ

ロータリスイッチ	設定	内容
× 10	0	接続機器の局番 (+ の位)
× 1	0	接続機器の局番 (- の位)

## ◆ モード設定ロータリスイッチ

ロータリスイッチ	設定	内容
MODE	9	伝送手順：伝送手順 2

## 3.6 設定例 6

## ■ GP-Pro EX の設定

## ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)日立産機システム シリーズ H シリーズ SIO ポート COM1

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

伝送制御手順 伝送制御手順1

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定


接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No.	機器名	設定	間接機器追加
1	PLC1	シリーズ=H シリーズ	<a href="#">+</a>

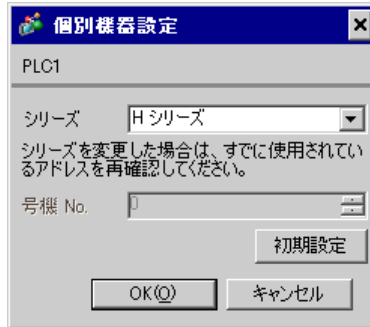
## MEMO

- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定 (CPU ユニット上のシリアルポート)

通信設定は CPU ユニットのスイッチで設定を行います。通信方式はラダーソフト (LADDER EDITOR for Windows) でアドレス WRF037 に 8000(H) を入力することで RS232C (伝送制御手順 1) に設定されます。通信設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ モード設定スイッチ

ディップスイッチ	設定	内容
SW03	ON	ポート 1 の伝送速度 : 19,200 bps
SW04	OFF	
SW05	ON	ポート 1 の動作 : 専用ポート
SW06	OFF	ポート 2 の伝送速度 <sup>※1</sup> : 4,800 bps または 19,200 bps

※1 ポート 2 の伝送速度を 19,200 bps または 38,400 bps に設定する場合はポート切替スイッチを High(ON) にしてください。

ポート 2 の伝送速度は SW06 と PHL スイッチで設定されます。

## ◆ ポート切替スイッチ

PHL スイッチ	設定	内容
PHL スイッチ	ON	ポート 2 の動作

## MEMO

- 切替スイッチが ON の場合、PHL 信号が High(ON) になります。
- その他の伝送速度の設定は以下のとおりです。

< ポート 1 >

SW03	SW04	SW05	伝送速度
ON	ON	ON	4,800 bps
OFF	ON	ON	9,600 bps
OFF	OFF	ON	38,400 bps

< ポート 2 >

SW06	PHL	伝送速度
OFF	OFF	4,800 bps
ON	OFF	9,600 bps
ON	ON	38,400 bps

## 3.7 設定例 7

## ■ GP-Pro EX の設定

## ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)日立産機システム シリーズ H シリーズ SIO ポート COM1

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

伝送制御手順 伝送制御手順1

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

初期設定

機器別設定

接続可能台数 16台 [機器を追加](#)


No.	機器名	設定
1	PLC1	シリーズ=H シリーズ,号機 No.=0

間接機器追加

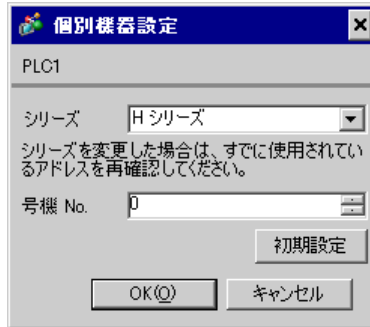
## MEMO

- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定 (CPU ユニット上のシリアルポート)

通信設定は CPU ユニットのスイッチで設定を行います。通信方式はラダーソフト (LADDER EDITOR for Windows) でアドレス WRF037 に A100(H) ※1 を入力することで RS422/RS485 (伝送制御手順 1) に設定されます。通信設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

※1 終端抵抗を有効にする場合には、B100(H) を入力してください。また、A100 (または B100) の下位 2 桁には、表示器側で設定した号機 No. を入力してください。

## ◆ モード設定スイッチ

ディップスイッチ	設定	内容
SW03	ON	ポート 1 の伝送速度 : 19,200 bps
SW04	OFF	
SW05	ON	ポート 1 の動作 : 専用ポート

## MEMO

- その他の伝送速度の設定は以下のとおりです。

SW03	SW04	SW05	伝送速度
ON	ON	ON	4,800 bps
OFF	ON	ON	9,600 bps
OFF	OFF	ON	38,400 bps

## 3.8 設定例 8

## ■ GP-Pro EX の設定

## ◆ 通信設定


設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

**MEMO**

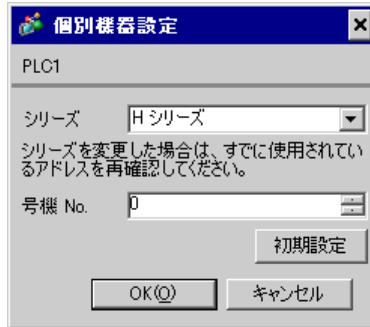
- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。



## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定（CPU ユニット上のシリアルポート）

通信設定は CPU ユニットのスイッチで設定を行います。通信方式はラダーソフト（LADDER EDITOR for Windows）でアドレス WRF037 に A200(H)※<sup>1</sup>を入力することで RS422/RS485（伝送制御手順 1）に設定されます。通信設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

※<sup>1</sup> 終端抵抗を有効にする場合には、B200(H)を入力してください。また、A200（または B200）の下位 2 桁には、表示器側で設定した号機 No. を入力してください。

## ◆ モード設定スイッチ

ディップスイッチ	設定	内容
SW03	ON	ポート 1 の伝送速度：19,200 bps
SW04	OFF	
SW05	ON	ポート 1 の動作：専用ポート

## MEMO

- その他の伝送速度の設定は以下のとおりです。

SW03	SW04	SW05	伝送速度
ON	ON	ON	4,800 bps
OFF	ON	ON	9,600 bps
OFF	OFF	ON	38,400 bps

## 3.9 設定例 9

## ■ GP-Pro EX の設定

## ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)日立産機システム シリーズ H シリーズ SIO ポート COM1

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

伝送制御手順 伝送制御手順1

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定


接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No.	機器名	設定	間接機器追加
1	PLC1	シリーズ=H シリーズ	<a href="#">+</a>

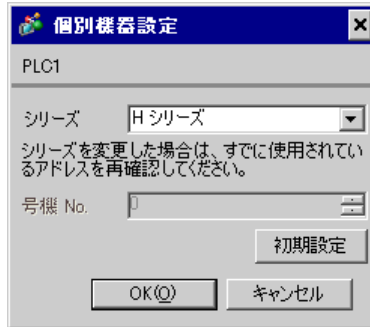
## MEMO

- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定 (EH-SIO)

通信設定は EH-SIO のスイッチで設定を行います。設定後、I/O 割付を行い、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。I/O 割付はラダーソフト (LADDER EDITOR for Windows) で行います。

詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 手順

1. EH-SIO のディップスイッチで通信設定を行います。

ディップスイッチ	設定	内容
01	OFF	通信速度：19,200 bps その他の伝送速度の設定は、接続機器のマニュアルを参照してください。
02	ON	
03	ON	
04	ON	
05	OFF	伝送文字構成設定 データ長：7 ビット ストップビット：1 ビット パリティの種類：偶数
06	ON	
07	OFF	
08	OFF	常時 OFF

2. 初期設定を行うラダープログラムが必要です。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## 3.10 設定例 10

## ■ GP-Pro EX の設定

## ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)日立産機システム シリーズ H シリーズ SIO ポート COM1

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

伝送制御手順 伝送制御手順1

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定


接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No.	機器名	設定	間接機器追加
1	PLC1	シリーズ=H シリーズ	<a href="#">+</a>

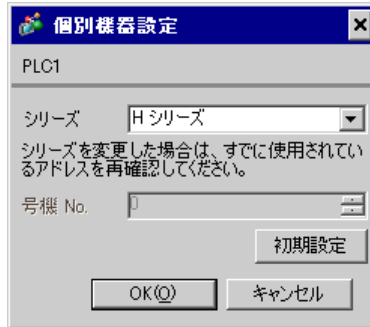
## MEMO

- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定 (EH-SIO)

通信設定は EH-SIO のスイッチで設定を行います。設定後、I/O 割付を行い、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。I/O 割付はラダーソフト (LADDER EDITOR for Windows) で行います。

詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 手順

1. EH-SIO のディップスイッチで通信設定を行います。

通信設定スイッチ 2 (ポート 2 用)

ディップスイッチ	設定	内容
01	OFF	通信速度 : 19,200 bps その他の伝送速度の設定は、接続機器のマニュアルを参照してください。
02	ON	
03	ON	
04	ON	
05	OFF	伝送文字構成設定 データ長 : 7 ビット ストップビット : 1 ビット パリティの種類 : 偶数
06	ON	
07	OFF	
08	OFF	インターフェイス選択 : RS232C

2. 初期設定を行うラダープログラムが必要です。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## 3.11 設定例 11

## ■ GP-Pro EX の設定

## ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)日立産機システム シリーズ H シリーズ SIO ポート COM1

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

伝送制御手順 伝送制御手順1

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定


接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No.	機器名	設定	間接機器追加
1	PLC1	シリーズ=H シリーズ,号機 No.=0	<a href="#">+</a>

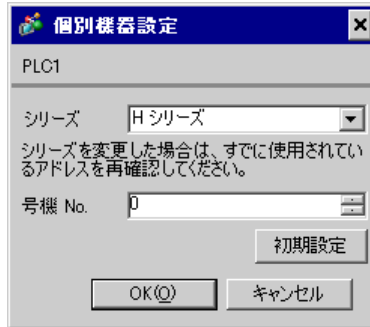
## MEMO

- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定 (EH-SIO)

通信設定は EH-SIO のスイッチで設定を行います。設定後、I/O 割付を行い、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。I/O 割付はラダーソフト (LADDER EDITOR for Windows) で行います。

詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 手順

1. EH-SIO のディップスイッチで通信設定を行います。

通信設定スイッチ 2 (ポート 2 用)

ディップスイッチ	設定	内容
01	OFF	通信速度：19,200 bps その他の伝送速度の設定は、接続機器のマニュアルを参照してください。
02	ON	
03	ON	
04	ON	
05	OFF	伝送文字構成設定 データ長：7 ビット ストップビット：1 ビット パリティの種類：偶数
06	ON	
07	OFF	
08	ON	インターフェイス選択：RS422/RS485

2. 初期設定を行うラダープログラムが必要です。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## 3.12 設定例 12

## ■ GP-Pro EX の設定

## ◆ 通信設定


設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

## MEMO

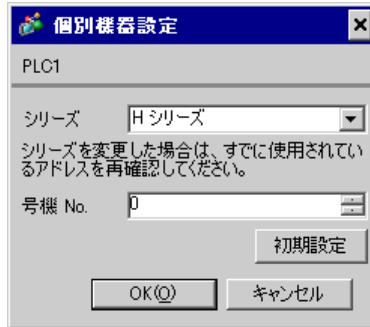
- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。



## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定 (EH-SIO)

通信設定は EH-SIO のスイッチで設定を行います。設定後、I/O 割付を行い、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。I/O 割付はラダーソフト (LADDER EDITOR for Windows) で行います。

詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 手順

1. EH-SIO のディップスイッチで通信設定を行います。

通信設定スイッチ 2 (ポート 2 用)

ディップスイッチ	設定	内容
01	OFF	通信速度 : 19,200 bps その他の伝送速度の設定は、接続機器のマニュアルを参照してください。
02	ON	
03	ON	
04	ON	
05	OFF	伝送文字構成設定 データ長 : 7 ビット ストップビット : 1 ビット パリティの種類 : 偶数
06	ON	
07	OFF	
08	ON	インターフェイス選択 : RS422/RS485

2. 初期設定を行うラダープログラムが必要です。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## 3.13 設定例 13

## ■ GP-Pro EX の設定

## ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー  シリーズ  ポート

文字列データモード  [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト  (sec)

リトライ

送信ウェイト  (ms)

伝送制御手順

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

機器別設定


接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No.	機器名	設定	間接機器追加
1	<input type="text" value="PLC1"/>	<input type="text" value="シリーズ=H シリーズ"/>	<input type="button" value="+"/>

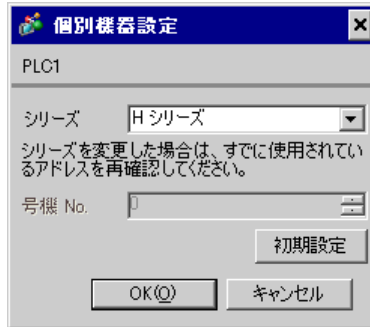
## MEMO

- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定（CPU ユニット上のシリアルポート）

通信設定は CPU ユニットのスイッチで設定を行います。通信方式はラダーソフト（LADDER EDITOR for Windows）でアドレス WRF037 に C000(H) を入力することで RS232C（伝送制御手順 2）に設定されます。通信設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ モード設定スイッチ

ディップスイッチ	設定	内容
SW03	ON	ポート 1 の伝送速度：19,200 bps
SW04	OFF	
SW05	ON	ポート 1 の動作：専用ポート

## MEMO

- その他の伝送速度の設定は以下のとおりです。

SW03	SW04	SW05	伝送速度
ON	ON	ON	4,800 bps
OFF	ON	ON	9,600 bps
OFF	OFF	ON	38,400 bps

## 3.14 設定例 14

## ■ GP-Pro EX の設定

## ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)日立産機システム シリーズ H シリーズ SIO ポート COM1

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

伝送制御手順 伝送制御手順2

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

初期設定

機器別設定

接続可能台数 16台 [機器を追加](#)


No.	機器名	設定
1	PLC1	シリーズ=H シリーズ,機種 No.=0

間接機器追加

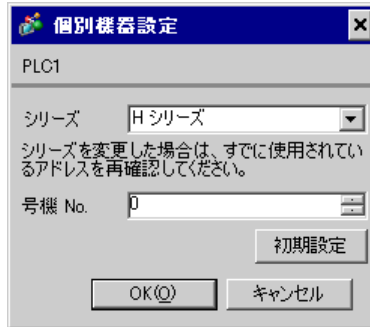
## MEMO

- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定（CPU ユニット上のシリアルポート）

通信設定は CPU ユニットのスイッチで設定を行います。通信方式はラダーソフト（LADDER EDITOR for Windows）でアドレス WRF037 に E100(H) ※1 を入力することで RS422/RS485（伝送制御手順 2）に設定されます。通信設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

※1 終端抵抗を有効にする場合には、F100(H) を入力してください。また、E100（または F100）の下位 2 桁には、表示器側で設定した号機 No. を入力してください。

## ◆ モード設定スイッチ

ディップスイッチ	設定	内容
SW03	ON	ポート 1 の伝送速度：19,200 bps
SW04	OFF	
SW05	ON	ポート 1 の動作：専用ポート

## MEMO

- その他の伝送速度の設定は以下のとおりです。

SW03	SW04	SW05	伝送速度
ON	ON	ON	4,800 bps
OFF	ON	ON	9,600 bps
OFF	OFF	ON	38,400 bps

## 3.15 設定例 15

## ■ GP-Pro EX の設定

## ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)日立産機システム シリーズ H シリーズ SIO ポート COM1

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

伝送制御手順 伝送制御手順2

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

初期設定

機器別設定

接続可能台数 16台 [機器を追加](#)


No. 機器名 設定

1 PLC1 シリーズ=H シリーズ,号機 No.=0 [間接機器追加](#)

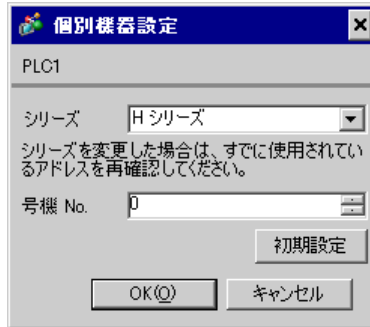
## MEMO

- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定 (CPU ユニット上のシリアルポート)

通信設定は CPU ユニットのスイッチで設定を行います。通信方式はラダーソフト (LADDER EDITOR for Windows) でアドレス WRF037 に E200(H) ※1 を入力することで RS422/RS485 (伝送制御手順 2) に設定されます。通信設定を行った後は、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

※1 終端抵抗を有効にする場合には、F200(H) を入力してください。また、E200 (または F200) の下位 2 桁には、表示器側で設定した号機 No. を入力してください。

## ◆ モード設定スイッチ

ディップスイッチ	設定	内容
SW03	ON	ポート 1 の伝送速度 : 19,200 bps
SW04	OFF	
SW05	ON	ポート 1 の動作 : 専用ポート

## MEMO

- その他の伝送速度の設定は以下のとおりです。

SW03	SW04	SW05	伝送速度
ON	ON	ON	4,800 bps
OFF	ON	ON	9,600 bps
OFF	OFF	ON	38,400 bps

## 3.16 設定例 16

## ■ GP-Pro EX の設定

## ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)日立産機システム シリーズ H シリーズ SIO ポート COM1

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

伝送制御手順 伝送制御手順2

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定

接続可能台数 16台 [機器を追加](#)


No.	機器名	設定	間接機器追加
1	PLC1	シリーズ=H シリーズ	<a href="#">+</a>

## MEMO

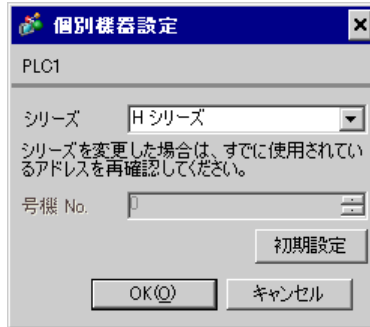
- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。



## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定 (EH-SIO)

通信設定は EH-SIO のスイッチで設定を行います。設定後、I/O 割付を行い、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。I/O 割付はラダーソフト (LADDER EDITOR for Windows) で行います。

詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 手順

1. EH-SIO のディップスイッチで通信設定を行います。

ディップスイッチ	設定	内容
01	OFF	通信速度：19,200 bps その他の伝送速度の設定は、接続機器のマニュアルを参照してください。
02	ON	
03	ON	
04	ON	伝送文字構成設定 データ長：7 ビット ストップビット：1 ビット パリティの種類：偶数
05	OFF	
06	ON	
07	OFF	常時 OFF
08	OFF	

2. 初期設定を行うラダープログラムが必要です。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## 3.17 設定例 17

## ■ GP-Pro EX の設定

## ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)日立産機システム シリーズ H シリーズ SIO ポート COM1

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

伝送制御手順 伝送制御手順2

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定


接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No.	機器名	設定	間接機器追加
1	PLC1	シリーズ=H シリーズ	<a href="#">+</a>

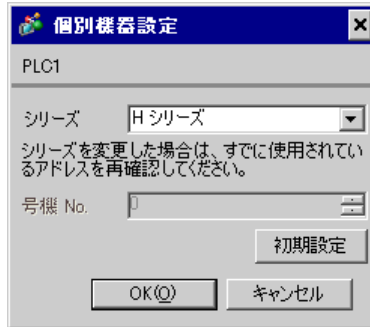
## MEMO

- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定 (EH-SIO)

通信設定は EH-SIO のスイッチで設定を行います。設定後、I/O 割付を行い、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。I/O 割付はラダーソフト (LADDER EDITOR for Windows) で行います。

詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 手順

1. EH-SIO のディップスイッチで通信設定を行います。

通信設定スイッチ 2 (ポート 2 用)

ディップスイッチ	設定	内容
01	OFF	通信速度 : 19,200 bps その他の伝送速度の設定は、接続機器のマニュアルを参照してください。
02	ON	
03	ON	
04	ON	
05	OFF	伝送文字構成設定 データ長 : 7 ビット ストップビット : 1 ビット パリティの種類 : 偶数
06	ON	
07	OFF	
08	OFF	インターフェイス選択 : RS232C

2. 初期設定を行うラダープログラムが必要です。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## 3.18 設定例 18

## ■ GP-Pro EX の設定

## ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)日立産機システム シリーズ H シリーズ SIO ポート COM1

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

伝送制御手順 伝送制御手順2

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

初期設定

機器別設定

接続可能台数 16台 [機器を追加](#)


No.	機器名	設定
1	PLC1	シリーズ=H シリーズ, 号機 No.=0

間接機器追加

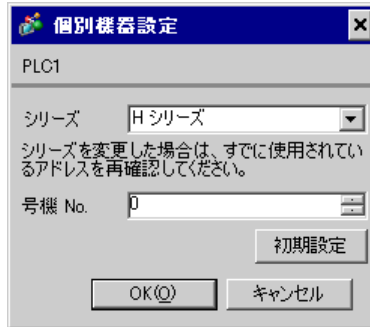
## MEMO

- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定 (EH-SIO)

通信設定は EH-SIO のスイッチで設定を行います。設定後、I/O 割付を行い、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。I/O 割付はラダーソフト (LADDER EDITOR for Windows) で行います。

詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 手順

1. EH-SIO のディップスイッチで通信設定を行います。

通信設定スイッチ 2 (ポート 2 用)

ディップスイッチ	設定	内容
01	OFF	通信速度：19,200 bps その他の伝送速度の設定は、接続機器のマニュアルを参照してください。
02	ON	
03	ON	
04	ON	
05	OFF	伝送文字構成設定 データ長：7 ビット ストップビット：1 ビット パリティの種類：偶数
06	ON	
07	OFF	
08	ON	インターフェイス選択：RS422/RS485

2. 初期設定を行うラダープログラムが必要です。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## 3.19 設定例 19

## ■ GP-Pro EX の設定

## ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー  シリーズ  ポート

文字列データモード  [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト  (sec)

リトライ

送信ウェイト  (ms)

伝送制御手順

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。


機器別設定

接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

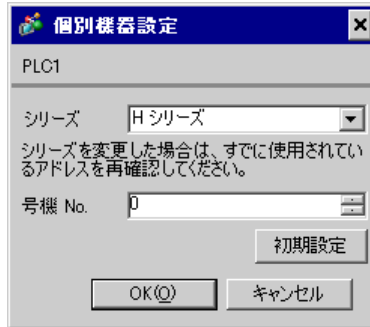
No.	機器名	設定	間接機器追加
1	<input type="text" value="PLC1"/>	<input type="text" value="シリーズ=H シリーズ,号機 No.=0"/>	<input 138="" 196="" 647="" 662"="" data-label="Section-Header" type="button" value="+&lt;/a&gt;&lt;/td&gt; &lt;/tr&gt; &lt;/tbody&gt; &lt;/table&gt; &lt;/div&gt; &lt;div data-bbox="/> MEMO

- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定 (EH-SIO)

通信設定は EH-SIO のスイッチで設定を行います。設定後、I/O 割付を行い、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。I/O 割付はラダーソフト (LADDER EDITOR for Windows) で行います。

詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 手順

1. EH-SIO のディップスイッチで通信設定を行います。

通信設定スイッチ 2 (ポート 2 用)

ディップスイッチ	設定	内容
01	OFF	通信速度：19,200 bps その他の伝送速度の設定は、接続機器のマニュアルを参照してください。
02	ON	
03	ON	
04	ON	
05	OFF	伝送文字構成設定 データ長：7 ビット ストップビット：1 ビット パリティの種類：偶数
06	ON	
07	OFF	
08	ON	インターフェイス選択：RS422/RS485

2. 初期設定を行うラダープログラムが必要です。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## 3.20 設定例 20

## ■ GP-Pro EX の設定

## ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)日立産機システム シリーズ H シリーズ SIO ポート COM1

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

伝送制御手順 伝送制御手順1

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定

接続可能台数 16台 [機器を追加](#)


No.	機器名	設定	間接機器追加
1	PLC1	シリーズ=H シリーズ	<a href="#">+</a>

## MEMO

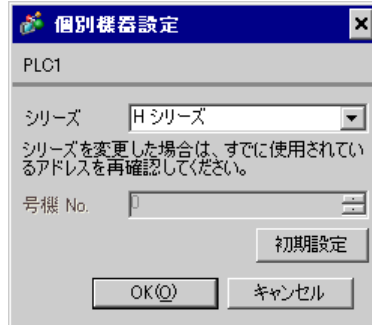
- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。



## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定 (CPU ユニット上のポート)

通信設定はラダーソフト (LADDER EDITOR for Windows) で行います。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 手順

1. 接続機器の正面カバー内にあるディップスイッチでラダーソフトと通信可能な状態にします。  
下表のように設定します。

ディップスイッチ	設定	内容
SW01	ON	伝送速度 : 19,200 bps その他の伝送速度の設定は、接続機器のマニュアルを参照してください。
SW02	OFF	
SW03	OFF	
SW04	OFF	

2. I/O No.WRF01A に 0000(H) をセットし、I/O No.R7F6 を ON することで接続機器の FLASH メモリに設定を書込みます。

## • WRF01A

限定ビット	設定	内容
15	0	伝送制御手順 1

## • R7F6

限定ビット	設定	内容
—	1	FLASH メモリ書込み

3. 接続機器の電源を再投入します。

## 3.21 設定例 21

## ■ GP-Pro EX の設定

## ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)日立産機システム シリーズ H シリーズ SIO ポート COM1

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

伝送制御手順 伝送制御手順1

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定


接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No.	機器名	設定	間接機器追加
1	PLC1	シリーズ=H シリーズ,号機 No.=0	<a href="#">+</a>

## MEMO

- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定 (CPU ユニット上のポート)

通信設定はラダーソフト (LADDER EDITOR for Windows) で行います。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 手順

1. I/O No.WRF03D に以下の通信設定をセットし、I/O No.R7F6 を ON することで接続機器の FLASH メモリに設定を書込みます。

## • WRF03D

限定ビット	設定	内容
15	1 <sup>※1</sup>	設定変更要求
14	0	伝送制御手順 1
13	1	局番の有 / 無 : 有
11 ~ 8	0010(H)	伝送速度 : 19,200 bps その他の伝送速度の設定は、接続機器のマニュアルを参照してください。
7 ~ 0	0	局番 <sup>※2</sup>

※1 通信設定を行う場合に「1」をセットします。接続機器の電源を再投入すると「0」に変更されます。

※2 局番は BCD2 桁で設定します。ビット位置 7 ~ 4 が 10 の位、ビット位置 3 ~ 0 が 1 の位にあたります。

## • R7F6

限定ビット	設定	内容
—	1	FLASH メモリ書込み

2. 接続機器の電源を再投入します。

## 3.22 設定例 22

## ■ GP-Pro EX の設定

## ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)日立産機システム シリーズ H シリーズ SIO ポート COM1

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

伝送制御手順 伝送制御手順1

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定


接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No.	機器名	設定	間接機器追加
1	PLC1	シリーズ=H シリーズ,号機 No.=0	<a href="#">+</a>

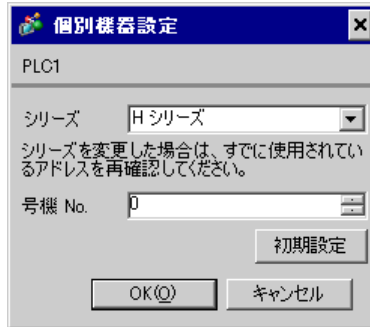
## MEMO

- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定 (CPU ユニット上のポート)

通信設定はラダーソフト (LADDER EDITOR for Windows) で行います。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 手順

1. I/O No.WRF03D に以下の通信設定をセットし、I/O No.R7F6 を ON することで接続機器の FLASH メモリに設定を書込みます。

## • WRF03D

限定ビット	設定	内容
15	1 <sup>※1</sup>	設定変更要求
14	0	伝送制御手順 1
13	1	局番の有 / 無 : 有
11 ~ 8	0010(H)	伝送速度 : 19,200 bps その他の伝送速度は、接続機器のマニュアルを参照してください。
7 ~ 0	0	局番 <sup>※2</sup>

※1 通信設定を行う場合に「1」をセットします。接続機器の電源を再投入すると「0」に変更されます。

※2 局番は BCD2 桁で設定します。ビット位置 7 ~ 4 が 10 の位、ビット位置 3 ~ 0 が 1 の位にあたります。

## • R7F6

限定ビット	設定	内容
—	1	FLASH メモリ書込み

2. 接続機器の電源を再投入します。

## 3.23 設定例 23

## ■ GP-Pro EX の設定

## ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)日立産機システム シリーズ H シリーズ SIO ポート COM1

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

伝送制御手順 伝送制御手順1

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定


接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No.	機器名	設定	間接機器追加
1	PLC1	シリーズ=H シリーズ	<a href="#">+</a>

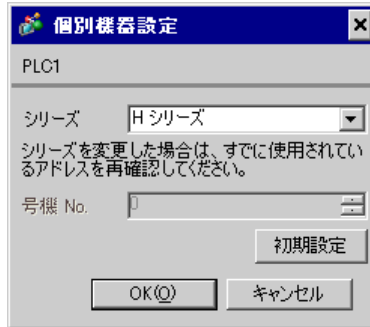
## MEMO

- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定 (EH-OB232)

通信設定はラダーソフト (LADDER EDITOR for Windows) で行います。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 手順

1. I/O No.WRF03D に以下の通信設定をセットし、I/O No.R7F6 を ON することで接続機器の FLASH メモリに設定を書込みます。

## • WRF03D

限定ビット	設定	内容
15	1 <sup>※1</sup>	設定変更要求
14	0	伝送制御手順 1
13	0	局番の有 / 無 : 無
11 ~ 8	0010(H)	伝送速度 : 19,200 bps その他の伝送速度の設定は、接続機器のマニュアルを参照してください。

※1 通信設定を行う場合に「1」をセットします。接続機器の電源を再投入すると「0」に変更されます。

## • R7F6

限定ビット	設定	内容
—	1	FLASH メモリ書込み

2. 接続機器の電源を再投入します。

## 3.24 設定例 24

## ■ GP-Pro EX の設定

## ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)日立産機システム シリーズ H シリーズ SIO ポート COM1

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

伝送制御手順 伝送制御手順1

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定

接続可能台数 16台 [機器を追加](#)


No.	機器名	設定	間接機器追加
1	PLC1	シリーズ=H シリーズ,号機 No.=0	<a href="#">+</a>

## MEMO

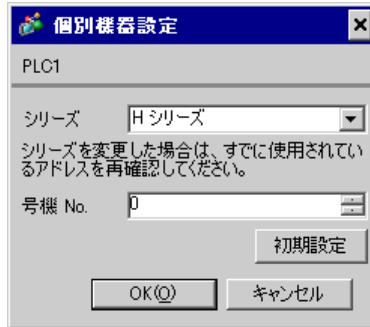
- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。



## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定 (EH-OB485)

通信設定はラダーソフト (LADDER EDITOR for Windows) で行います。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 手順

1. I/O No.WRF03D に以下の通信設定をセットし、I/O No.R7F6 を ON することで接続機器の FLASH メモリに設定を書込みます。

## • WRF03D

限定ビット	設定	内容
15	1 <sup>※1</sup>	設定変更要求
14	0	伝送制御手順 1
13	1	局番の有 / 無 : 有
11 ~ 8	0010(H)	伝送速度 : 19,200 bps その他の伝送速度の設定は、接続機器のマニュアルを参照してください。
7 ~ 0	0	局番 <sup>※2</sup>

※1 通信設定を行う場合に「1」をセットします。接続機器の電源を再投入すると「0」に変更されます。

※2 局番は BCD2 桁で設定します。ビット位置 7 ~ 4 が 10 の位、ビット位置 3 ~ 0 が 1 の位にあたります。

## • R7F6

限定ビット	設定	内容
—	1	FLASH メモリ書込み

2. 接続機器の電源を再投入します。

## 3.25 設定例 25

## ■ GP-Pro EX の設定

## ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー  シリーズ  ポート

文字列データモード  [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト  (sec)

リトライ

送信ウェイト  (ms)

伝送制御手順

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

機器別設定


接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No.	機器名	設定	間接機器追加
1	<input type="text" value="PLC1"/>	<input type="text" value="シリーズ=H シリーズ,号機 No.=0"/>	<input type="button" value="+"/>

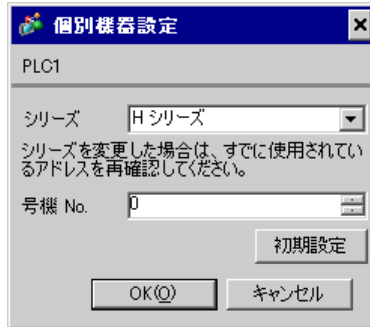
## MEMO

- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定 (EH-OB485)

通信設定はラダーソフト (LADDER EDITOR for Windows) で行います。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 手順

1. I/O No.WRF03D に以下の通信設定をセットし、I/O No.R7F6 を ON することで接続機器の FLASH メモリに設定を書込みます。

## • WRF03D

限定ビット	設定	内容
15	1 <sup>※1</sup>	設定変更要求
14	0	伝送制御手順 1
13	1	局番の有 / 無 : 有
11 ~ 8	0010(H)	伝送速度 : 19,200 bps その他の伝送速度の設定は、接続機器のマニュアルを参照してください。
7 ~ 0	0	局番 <sup>※2</sup>

※1 通信設定を行う場合に「1」をセットします。接続機器の電源を再投入すると「0」に変更されます。

※2 局番は BCD2 桁で設定します。ビット位置 7 ~ 4 が 10 の位、ビット位置 3 ~ 0 が 1 の位にあたります。

## • R7F6

限定ビット	設定	内容
—	1	FLASH メモリ書込み

2. 接続機器の電源を再投入します。

## 3.26 設定例 26

## ■ GP-Pro EX の設定

## ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)日立産機システム シリーズ H シリーズ SIO ポート COM1

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

伝送制御手順 伝送制御手順2

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定


接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No.	機器名	設定	間接機器追加
1	PLC1	シリーズ=H シリーズ	<a href="#">+</a>

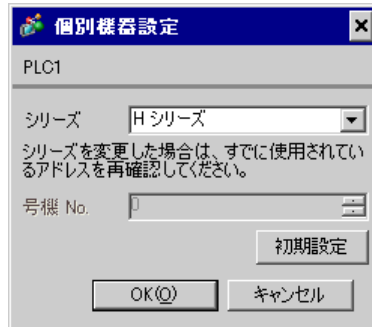
## MEMO

- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定 (CPU ユニット上のポート)

通信設定はラダーソフト (LADDER EDITOR for Windows) で行います。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 手順

1. 接続機器の正面カバー内にあるディップスイッチでラダーソフトと通信可能な状態にします。

下表のように設定します。

ディップスイッチ	設定	内容
SW01	ON	通信設定 : 19,200 bps その他の伝送速度の設定は、接続機器のマニュアルを参照してください。
SW02	OFF	
SW03	OFF	
SW04	OFF	

2. I/O No.WRF01A に 8000(H) をセットし、I/O No.R7F6 を ON することで接続機器の FLASH メモリに設定を書込みます。

## • WRF01A

限定ビット	設定	内容
15	1	伝送制御手順 2

## • R7F6

限定ビット	設定	内容
—	1	FLASH メモリ書込み

3. 接続機器の電源を再投入します。

## 3.27 設定例 27

## ■ GP-Pro EX の設定

## ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)日立産機システム シリーズ H シリーズ SIO ポート COM1

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

伝送制御手順 伝送制御手順2

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定


接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No.	機器名	設定	間接機器追加
1	PLC1	シリーズ=H シリーズ,号機 No.=0	<a href="#">+</a>

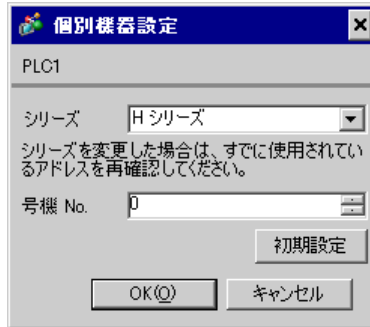
## MEMO

- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定 (CPU ユニット上のポート)

通信設定はラダーソフト (LADDER EDITOR for Windows) で行います。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 手順

1. I/O No.WRF03D に以下の通信設定をセットし、I/O No.R7F6 を ON することで接続機器の FLASH メモリに設定を書込みます。

## • WRF03D

限定ビット	設定	内容
15	1 <sup>※1</sup>	設定変更要求
14	1	伝送制御手順 2
13	1	局番の有 / 無 : 有
11 ~ 8	0010(H)	伝送速度 : 19,200 bps その他の伝送速度の設定は、接続機器のマニュアルを参照してください。
7 ~ 0	0	局番 <sup>※2</sup>

※1 通信設定を行う場合に「1」をセットします。接続機器の電源を再投入すると「0」に変更されます。

※2 局番は BCD2 桁で設定します。ビット位置 7 ~ 4 が 10 の位、ビット位置 3 ~ 0 が 1 の位にあたります。

## • R7F6

限定ビット	設定	内容
—	1	FLASH メモリ書込み

2. 接続機器の電源を再投入します。

## 3.28 設定例 28

## ■ GP-Pro EX の設定

## ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)日立産機システム シリーズ H シリーズ SIO ポート COM1

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

伝送制御手順 伝送制御手順2

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定

接続可能台数 16台 [機器を追加](#)


No.	機器名	設定	間接機器追加
1	PLC1	シリーズ=H シリーズ,号機 No.=0	<a href="#">+</a>

## MEMO

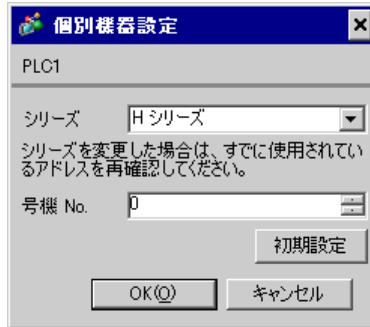
- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。



## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定 (CPU ユニット上のポート)

通信設定はラダーソフト (LADDER EDITOR for Windows) で行います。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 手順

1. I/O No.WRF03D に以下の通信設定をセットし、I/O No.R7F6 を ON することで接続機器の FLASH メモリに設定を書込みます。

## • WRF03D

限定ビット	設定	内容
15	1 <sup>※1</sup>	設定変更要求
14	1	伝送制御手順 2
13	1	局番の有 / 無 : 有
11 ~ 8	0010(H)	伝送速度 : 19,200 bps その他の伝送速度の設定は、接続機器のマニュアルを参照してください。
7 ~ 0	0	局番 <sup>※2</sup>

※1 通信設定を行う場合に「1」をセットします。接続機器の電源を再投入すると「0」に変更されます。

※2 局番は BCD2 桁で設定します。ビット位置 7 ~ 4 が 10 の位、ビット位置 3 ~ 0 が 1 の位にあたります。

## • R7F6

限定ビット	設定	内容
—	1	FLASH メモリ書込み

2. 接続機器の電源を再投入します。

## 3.29 設定例 29

## ■ GP-Pro EX の設定

## ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)日立産機システム シリーズ H シリーズ SIO ポート COM1

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

伝送制御手順 伝送制御手順2

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定


接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No.	機器名	設定	間接機器追加
1	PLC1	シリーズ=H シリーズ	<a href="#">+</a>

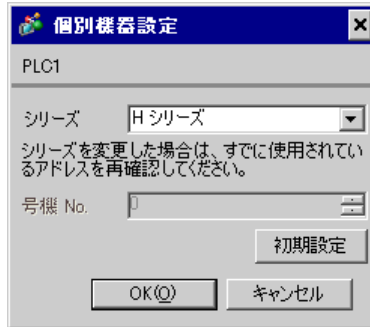
## MEMO

- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定 (EH-OB232)

通信設定はラダーソフト (LADDER EDITOR for Windows) で行います。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 手順

1. I/O No.WRF03D に以下の通信設定をセットし、I/O No.R7F6 を ON することで接続機器の FLASH メモリに設定を書込みます。

## • WRF03D

限定ビット	設定	内容
15	1 <sup>※1</sup>	設定変更要求
14	1	伝送制御手順 2
13	0	局番の有 / 無 : 無
11 ~ 8	0010(H)	伝送速度 : 19,200 bps その他の伝送速度の設定は、接続機器のマニュアルを参照してください。

※1 通信設定を行う場合に「1」をセットします。接続機器の電源を再投入すると「0」に変更されます。

## • R7F6

限定ビット	設定	内容
—	1	FLASH メモリ書込み

2. 接続機器の電源を再投入します。

## 3.30 設定例 30

## ■ GP-Pro EX の設定

## ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)日立産機システム シリーズ H シリーズ SIO ポート COM1

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

伝送制御手順 伝送制御手順2

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定


接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No.	機器名	設定	間接機器追加
1	PLC1	シリーズ=H シリーズ,号機 No.=0	<a href="#">+</a>

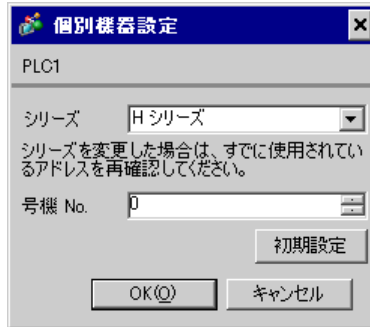
## MEMO

- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定 (EH-OB485)

通信設定はラダーソフト (LADDER EDITOR for Windows) で行います。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 手順

1. I/O No.WRF03D に以下の通信設定をセットし、I/O No.R7F6 を ON することで接続機器の FLASH メモリに設定を書込みます。

## • WRF03D

限定ビット	設定	内容
15	1 <sup>※1</sup>	設定変更要求
14	1	伝送制御手順 2
13	1	局番の有 / 無 : 有
11 ~ 8	0010(H)	伝送速度 : 19,200 bps その他の伝送速度の設定は、接続機器のマニュアルを参照してください。
7 ~ 0	0	局番 <sup>※2</sup>

※1 通信設定を行う場合に「1」をセットします。接続機器の電源を再投入すると「0」に変更されます。

※2 局番は BCD2 桁で設定します。ビット位置 7 ~ 4 が 10 の位、ビット位置 3 ~ 0 が 1 の位にあたります。

## • R7F6

限定ビット	設定	内容
—	1	FLASH メモリ書込み

2. 接続機器の電源を再投入します。

## 3.31 設定例 31

## ■ GP-Pro EX の設定

## ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)日立産機システム シリーズ H シリーズ SIO ポート COM1

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

伝送制御手順 伝送制御手順2

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定


接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No.	機器名	設定	間接機器追加
1	PLC1	シリーズ=H シリーズ,号機 No.=0	<a href="#">+</a>

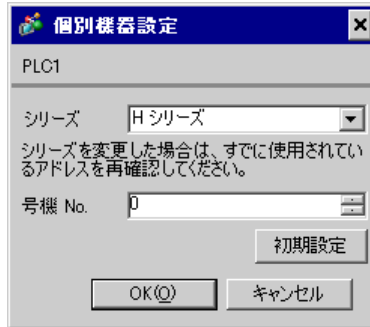
## MEMO

- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定 (EH-OB485)

通信設定はラダーソフト (LADDER EDITOR for Windows) で行います。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 手順

1. I/O No.WRF03D に以下の通信設定をセットし、I/O No.R7F6 を ON することで接続機器の FLASH メモリに設定を書込みます。

## • WRF03D

限定ビット	設定	内容
15	1 <sup>※1</sup>	設定変更要求
14	1	伝送制御手順 2
13	1	局番の有 / 無 : 有
11 ~ 8	0010(H)	伝送速度 : 19,200 bps その他の伝送速度の設定は、接続機器のマニュアルを参照してください。
7 ~ 0	0	局番 <sup>※2</sup>

※1 通信設定を行う場合に「1」をセットします。接続機器の電源を再投入すると「0」に変更されます。

※2 局番は BCD2 桁で設定します。ビット位置 7 ~ 4 が 10 の位、ビット位置 3 ~ 0 が 1 の位にあたります。

## • R7F6

限定ビット	設定	内容
—	1	FLASH メモリ書込み

2. 接続機器の電源を再投入します。

## 3.32 設定例 32

## ■ GP-Pro EX の設定

## ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)日立産機システム シリーズ H シリーズ SIO ポート COM1

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

伝送制御手順 伝送制御手順1

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定

接続可能台数 16台 [機器を追加](#)


No.	機器名	設定	間接機器追加
1	PLC1	シリーズ=Web コントローラシリーズ	<a href="#">+</a>

## MEMO

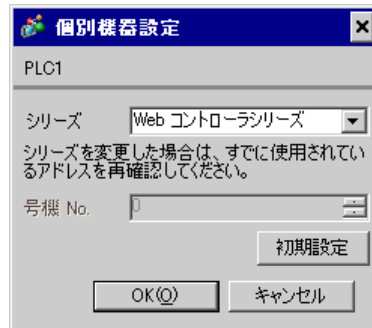
- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。



## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定 (Web コントローラ)

通信設定は接続機器にウェブブラウザでアクセスして行います。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 手順

詳細は Web コントローラのマニュアルを参照してください。

1. 接続機器の動作モード設定スイッチを以下のように設定することで、イーサネットポートの仮の IP アドレスが 192.168.0.1 に設定されます。

<動作モード設定スイッチ>

- ・ロータリスイッチを「2」に設定

2. パソコンの Ethernet ポートと Web コントローラの Ethernet ポートを LAN ケーブルで接続します。(HUB 経由またはクロスケーブルで直接接続します。)

3. ウェブブラウザのアドレス入力ボックスに「<http://192.168.0.1/mwconfig.cgi>」と入力し、接続機器へアクセスします。

アクセスするためには、パソコンの IP アドレスの上位 3 バイトを 192.168.0. に設定する必要があります。(192.168.0.10 など)

4. 表示された System Configuration Login 画面でログインします。
5. 表示された画面の [System Configuration] から [Serial Protocol] - [Passive HIProtocol] を選択し、通信設定を行います。設定後、[SET] をクリックして設定値を確定します。

Serial-Passive HIProtocol

設定項目	設定値
Interface Type	RS232C
Transmission Control Procedure	Procedure1 1:1 <sup>※1</sup>
Transmission Speed	19.2 kbps
Station No.	0

※1 伝送制御手順 2 を使用する場合は [Procedure2 1:1] を選択します。

6. 接続機器の動作モード設定スイッチを以下のように設定し、電源を再投入します。

<動作モード設定スイッチ>

- ・ロータリスイッチを「0」に設定

## 3.33 設定例 33

## ■ GP-Pro EX の設定

## ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)日立産機システム シリーズ H シリーズ SIO ポート COM1

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

伝送制御手順 伝送制御手順1

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定


接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No.	機器名	設定	間接機器追加
1	PLC1	シリーズ=EHV シリーズ	<a href="#">+</a>

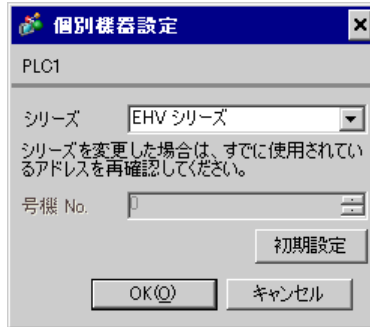
## MEMO

- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定 (CPU ユニット上のシリアルポート)

通信設定はプログラミングソフトウェア (Control Editor) で行います。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 手順

1. プログラミングソフトウェアを起動し、プロジェクトを作成します。オフラインモードでプロジェクトが表示されます。
2. [ツール] メニューから [エディタ通信設定] を選択し、通信設定ダイアログボックスを表示します。
3. 通信設定を接続機器に転送するための通信方法を「USB」、「シリアル」から選択し、[設定] をクリックします。
4. USB ケーブルまたはシリアルケーブル (日立産機システム製) でパソコンと接続機器を接続します。
5. [オンライン] メニューから [モード切替] - [オンライン] を選択し、オンラインモードへ移行します。
6. [ツール] メニューから [CPU 設定] - [シリアル通信設定] を選択し、通信設定を行います。

## • CPU 通信設定 (シリアル通信設定)

設定項目	設定
シリアル通信設定	専用
ポート種別	RS232C
通信速度	19.2 kbps
通信手順	手順 1 (1 : 1) <sup>*1</sup>

※1 伝送制御手順2で通信する場合は[手順2(1:1)]を選択します。

7. 接続機器の電源を再投入します。

## 3.34 設定例 34

## ■ GP-Pro EX の設定

## ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)日立産機システム シリーズ H シリーズ SIO ポート COM1

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

伝送制御手順 伝送制御手順1

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定


接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No.	機器名	設定	間接機器追加
1	PLC1	シリーズ=EHV シリーズ,号機 No.=0	<a href="#">+</a>

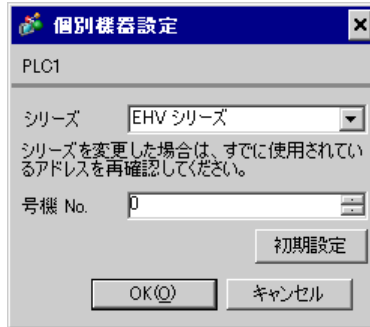
## MEMO

- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定 (CPU ユニット上のシリアルポート)

通信設定はプログラミングソフトウェア (Control Editor) で行います。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 手順

1. プログラミングソフトウェアを起動し、プロジェクトを作成します。オフラインモードでプロジェクトが表示されます。
2. [ツール] メニューから [エディタ通信設定] を選択し、通信設定ダイアログボックスを表示します。
3. 通信設定を接続機器に転送するための通信方法を「USB」、「シリアル」から選択し、[設定] をクリックします。
4. USB ケーブルまたはシリアルケーブル (日立産機システム製) でパソコンと接続機器を接続します。
5. [オンライン] メニューから [モード切替] - [オンライン] を選択し、オンラインモードへ移行します。
6. [ツール] メニューから [CPU 設定] - [シリアル通信設定] を選択し、通信設定を行います。

## • CPU 通信設定 (シリアル通信設定)

設定項目	設定
シリアル通信設定	専用
ポート種別	RS422/RS485
通信速度	19.2 kbps
通信手順	手順 1 (1 : n) <sup>※1</sup>
局番	表示器で設定した局番を入力してください。 <sup>※2</sup>

※1 伝送制御手順 2 で通信する場合は [手順 2 (1 : n)] を選択します。

※2 局番を「なし」に設定すると通信できません。

7. 接続機器の電源を再投入します。

## 3.35 設定例 35

## ■ GP-Pro EX の設定

## ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)日立産機システム シリーズ H シリーズ SIO ポート COM1

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

伝送制御手順 伝送制御手順1

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定


接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No.	機器名	設定	間接機器追加
1	PLC1	シリーズ=EHV シリーズ,号機 No.=0	<a href="#">+</a>

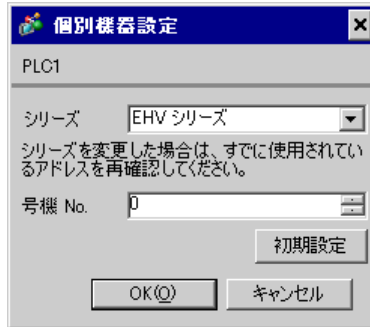
## MEMO

- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定（CPU ユニット上のシリアルポート）

通信設定はプログラミングソフトウェア（Control Editor）で行います。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 手順

1. プログラミングソフトウェアを起動し、プロジェクトを作成します。オフラインモードでプロジェクトが表示されます。
2. [ツール] メニューから [エディタ通信設定] を選択し、通信設定ダイアログボックスを表示します。
3. 通信設定を接続機器に転送するための通信方法を「USB」、「シリアル」から選択し、[設定] をクリックします。
4. USB ケーブルまたはシリアルケーブル（日立産機システム製）でパソコンと接続機器を接続します。
5. [オンライン] メニューから [モード切替] - [オンライン] を選択し、オンラインモードへ移行します。
6. [ツール] メニューから [CPU 設定] - [シリアル通信設定] を選択し、通信設定を行います。

## • CPU 通信設定（シリアル通信設定）

設定項目	設定
シリアル通信設定	専用
ポート種別	RS422/RS485
通信速度	19.2 kbps
通信手順	手順 1 (1 : n) <sup>※1</sup>
局番	表示器で設定した局番を入力してください。 <sup>※2</sup>

※1 伝送制御手順 2 で通信する場合は [手順 2 (1 : n)] を選択します。

※2 局番を「なし」に設定すると通信できません。

7. 接続機器の電源を再投入します。

## 3.36 設定例 36

## ■ GP-Pro EX の設定

## ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)日立産機システム シリーズ H シリーズ SIO ポート COM1

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

伝送制御手順 伝送制御手順1

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定

接続可能台数 16台 [機器を追加](#)


No.	機器名	設定	間接機器追加
1	PLC1	シリーズ=EHV シリーズ	<a href="#">+</a>

## MEMO

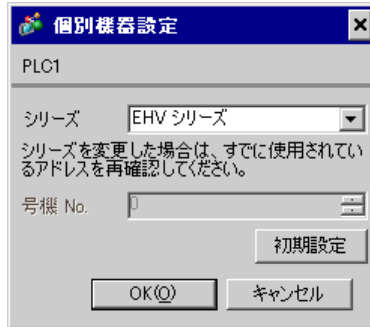
- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。



## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定 (EH-SIO)

通信設定は EH-SIO のスイッチで設定を行います。設定後、I/O 割付を行い、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。I/O 割付はラダーソフト (Control Editor) で行います。

詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 手順

- EH-SIO のディップスイッチで通信設定を行います。
  - 通信設定スイッチ 1 (ポート 1 用)

ディップスイッチ	設定	内容
01	OFF	通信速度 : 19,200 bps その他の伝送速度の設定は、接続機器のマニュアルを参照してください。
02	ON	
03	ON	
04	ON	
05	OFF	伝送文字構成設定 データ長 : 7 ビット ストップビット : 1 ビット パリティの種類 : 偶数
06	ON	
07	OFF	
08	OFF	常時 OFF

- 初期設定を行うラダープログラムが必要です。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## 3.37 設定例 37

## ■ GP-Pro EX の設定

## ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)日立産機システム シリーズ H シリーズ SIO ポート COM1

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

伝送制御手順 伝送制御手順1

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定


接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No.	機器名	設定	間接機器追加
1	PLC1	シリーズ=EHV シリーズ	<a href="#">+</a>

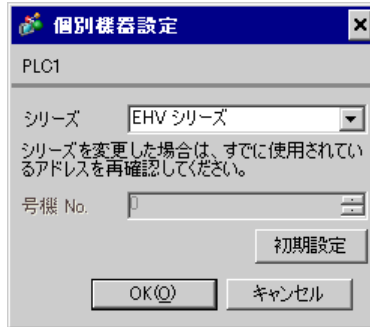
## MEMO

- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定 (EH-SIO)

通信設定は EH-SIO のスイッチで設定を行います。設定後、I/O 割付を行い、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。I/O 割付はラダーソフト (Control Editor) で行います。

詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 手順

1. EH-SIO のディップスイッチで通信設定を行います。

- 通信設定スイッチ 2 (ポート 2 用)

ディップスイッチ	設定	内容
01	OFF	通信速度：19,200 bps その他の伝送速度の設定は、接続機器のマニュアルを参照してください。
02	ON	
03	ON	
04	ON	
05	OFF	伝送文字構成設定 データ長：7 ビット ストップビット：1 ビット パリティの種類：偶数
06	ON	
07	OFF	
08	OFF	インターフェイス選択：RS232C

2. 初期設定を行うラダープログラムが必要です。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## 3.38 設定例 38

## ■ GP-Pro EX の設定

## ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)日立産機システム シリーズ H シリーズ SIO ポート COM1

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

伝送制御手順 伝送制御手順1

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定


接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No.	機器名	設定	間接機器追加
1	PLC1	シリーズ=EHV シリーズ,号機 No.=0	<a href="#">+</a>

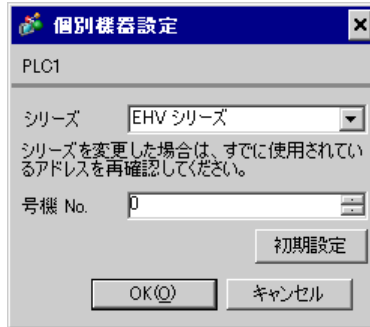
## MEMO

- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定 (EH-SIO)

通信設定は EH-SIO のスイッチで設定を行います。設定後、I/O 割付を行い、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。I/O 割付はラダーソフト (Control Editor) で行います。

詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 手順

1. EH-SIO のディップスイッチで通信設定を行います。

- 通信設定スイッチ 2 (ポート 2 用)

ディップスイッチ	設定	内容
01	OFF	通信速度 : 19,200 bps その他の伝送速度の設定は、接続機器のマニュアルを参照してください。
02	ON	
03	ON	
04	ON	
05	OFF	伝送文字構成設定 データ長 : 7 ビット ストップビット : 1 ビット パリティの種類 : 偶数
06	ON	
07	OFF	
08	ON	インターフェイス選択 : RS422/RS485

2. 初期設定を行うラダープログラムが必要です。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## 3.39 設定例 39

## ■ GP-Pro EX の設定


## ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

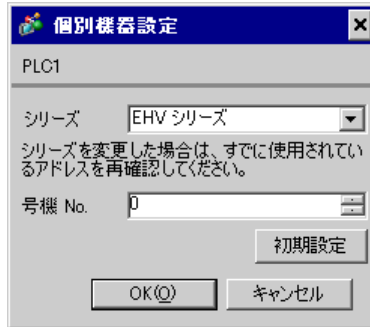
## MEMO

- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定 (EH-SIO)

通信設定は EH-SIO のスイッチで設定を行います。設定後、I/O 割付を行い、接続機器の電源を再投入して設定内容を有効にします。I/O 割付はラダーソフト (Control Editor) で行います。

詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 手順

1. EH-SIO のディップスイッチで通信設定を行います。

- 通信設定スイッチ 2 (ポート 2 用)

ディップスイッチ	設定	内容
01	OFF	通信速度 : 19,200 bps その他の伝送速度の設定は、接続機器のマニュアルを参照してください。
02	ON	
03	ON	
04	ON	
05	OFF	伝送文字構成設定 データ長 : 7 ビット ストップビット : 1 ビット パリティの種類 : 偶数
06	ON	
07	OFF	
08	ON	インターフェイス選択 : RS422/RS485

2. 初期設定を行うラダープログラムが必要です。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## 3.40 設定例 40

## ■ GP-Pro EX の設定

## ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)日立産機システム シリーズ H シリーズ SIO ポート COM1

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

伝送制御手順 伝送制御手順1

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定

接続可能台数 16台 [機器を追加](#)


No.	機器名	設定	間接機器追加
1	PLC1	シリーズ=Web コントローラシリーズ	<a href="#">+</a>

## MEMO

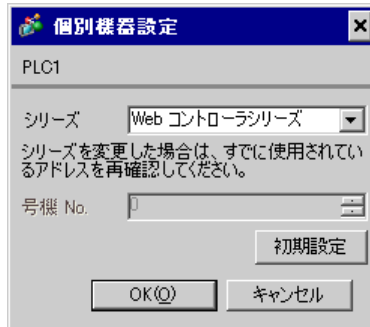
- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。



## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定 (Web コントローラ)

通信設定は接続機器にウェブブラウザでアクセスして行います。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 手順

詳細は Web コントローラのマニュアルを参照してください。

1. 接続機器の動作モード設定スイッチを以下のように設定することで、イーサネットポートの仮の IP アドレスが 192.168.0.1 に設定されます。

<動作モード設定スイッチ>

- ・ディップスイッチ 4 のみ ON に設定

2. パソコンの Ethernet ポートと Web コントローラの Ethernet ポートを LAN ケーブルで接続します。(HUB 経由またはクロスケーブルで直接接続します。)
3. ウェブブラウザのアドレス入力ボックスに「<http://192.168.0.1/mwconfig.cgi>」と入力し、接続機器へアクセスします。

アクセスするためには、パソコンの IP アドレスの上位 3 バイトを 192.168.0. に設定する必要があります。(192.168.0.10 など)

4. 表示された System Configuration Login 画面でログインします。
5. 表示された画面の [System Configuration] から [Serial Protocol] - [Passive HIProtocol] を選択し、通信設定を行います。設定後、[SET] をクリックして設定値を確定します。

## Serial-Passive HIProtocol

設定項目	設定値
Interface Type	RS232C
Transmission Control Procedure	Procedure1 1:1 <sup>※1</sup>
Transmission Speed	19.2 kbps
Station No.	0

※1 伝送制御手順 2 を使用する場合は [Procedure2 1:1] を選択します。

6. 接続機器の動作モード設定スイッチを以下のように設定し、電源を再投入します。  
<動作モード設定スイッチ>  
・ディップスイッチをすべて OFF に設定

## 3.41 設定例 41

## ■ GP-Pro EX の設定

## ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1 [接続機器変更](#)

概要  
 メーカー  シリーズ  ポート   
 文字列データモード  [変更](#)

通信設定  
 通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)  
 通信速度    
 データ長  7  8  
 パリティ  なし  偶数  奇数  
 ストップビット  1  2  
 フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF  
 タイムアウト  (sec)  
 リトライ   
 送信ウェイト  (ms)  
 伝送制御手順


RI / VCC  RI  VCC  
RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

機器別設定  
 接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

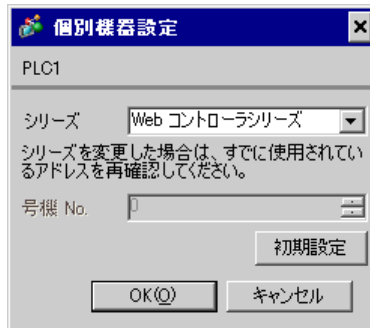
No.	機器名	設定	間接機器追加
1	<input type="text" value="PLC1"/>	<input type="text" value="シリーズ=Web コントローラシリーズ,号機 No.=0"/>	<input 138="" 199="" 645="" 660"="" data-label="Section-Header" type="button" value="+&lt;/input&gt;&lt;/td&gt; &lt;/tr&gt; &lt;/tbody&gt; &lt;/table&gt; &lt;/div&gt; &lt;div data-bbox="/> MEMO

- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定 (Web コントローラ)

通信設定は接続機器にウェブブラウザでアクセスして行います。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 手順

詳細は Web コントローラのマニュアルを参照してください。

1. 接続機器の動作モード設定スイッチを以下のように設定することで、イーサネットポートの仮の IP アドレスが 192.168.0.1 に設定されます。

<動作モード設定スイッチ>

- ・ディップスイッチ 4 のみ ON に設定

2. パソコンの Ethernet ポートと Web コントローラの Ethernet ポートを LAN ケーブルで接続します。(HUB 経由またはクロスケーブルで直接接続します。)
3. ウェブブラウザのアドレス入力ボックスに「<http://192.168.0.1/mwconfig.cgi>」と入力し、接続機器へアクセスします。

アクセスするためには、パソコンの IP アドレスの上位 3 バイトを 192.168.0. に設定する必要があります。(192.168.0.10 など)

4. 表示された System Configuration Login 画面でログインします。
5. 表示された画面の [System Configuration] から [Serial Protocol] - [Passive HIProtocol] を選択し、通信設定を行います。設定後、[SET] をクリックして設定値を確定します。

Serial-Passive HIProtocol

設定項目	設定値
Interface Type	RS-422/485
Transmission Control Procedure	Procedure1 1:1 <sup>※1</sup>
Transmission Speed	19.2 kbps
Station No.	0

※1 伝送制御手順 2 を使用する場合は [Procedure2 1:1] を選択します。

6. 接続機器の動作モード設定スイッチを以下のように設定し、電源を再投入します。

<動作モード設定スイッチ>

- ・ディップスイッチをすべて OFF に設定

## 3.42 設定例 42

## ■ GP-Pro EX の設定

## ◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー  シリーズ  ポート

文字列データモード  [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト  (sec)

リトライ

送信ウェイト  (ms)

伝送制御手順

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定


接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No.	機器名	設定	間接機器追加
1	PLC1	シリーズ=Web コントローラシリーズ,号機 No.=0	<a href="#">+</a>

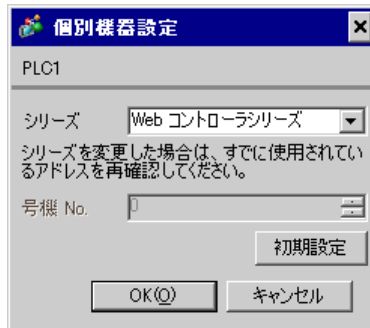
## MEMO

- 送信ウェイトの設定値は接続機器によって異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



## ■ 接続機器の設定 (Web コントローラ)

通信設定は接続機器にウェブブラウザでアクセスして行います。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

## ◆ 手順

詳細は Web コントローラのマニュアルを参照してください。

1. 接続機器の動作モード設定スイッチを以下のように設定することで、イーサネットポートの仮の IP アドレスが 192.168.0.1 に設定されます。

<動作モード設定スイッチ>

- ・ディップスイッチ 4 のみ ON に設定

2. パソコンの Ethernet ポートと Web コントローラの Ethernet ポートを LAN ケーブルで接続します。(HUB 経由またはクロスケーブルで直接接続します。)
3. ウェブブラウザのアドレス入力ボックスに「http://192.168.0.1/mwconfig.cgi」と入力し、接続機器へアクセスします。

アクセスするためには、パソコンの IP アドレスの上位 3 バイトを 192.168.0. に設定する必要があります。(192.168.0.10 など)

4. 表示された System Configuration Login 画面でログインします。
5. 表示された画面の [System Configuration] から [Serial Protocol] - [Passive HIProtocol] を選択し、通信設定を行います。設定後、[SET] をクリックして設定値を確定します。

Serial-Passive HIProtocol

設定項目	設定値
Interface Type	RS-422/485
Transmission Control Procedure	Procedure1 1:1 <sup>※1</sup>
Transmission Speed	19.2 kbps
Station No.	0

※1 伝送制御手順 2 を使用する場合は [Procedure2 1:1] を選択します。

6. 接続機器の動作モード設定スイッチを以下のように設定し、電源を再投入します。

<動作モード設定スイッチ>

- ・ディップスイッチをすべて OFF に設定

## 4 設定項目

表示器の通信設定は GP-Pro EX、または表示器のオフラインモードで設定します。

各項目の設定は接続機器の設定と一致させる必要があります。

☞ 「3 通信設定例」(10 ページ)

### 4.1 GP-Pro EX での設定項目

#### ■ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト]メニューの[システム設定]-[接続機器設定]をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)日立産機システム シリーズ H シリーズ SIO ポート COM1

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

通信方式  RS232C  RS422/485(2線式)  RS422/485(4線式)

通信速度 19200

データ長  7  8

パリティ  なし  偶数  奇数

ストップビット  1  2

フロー制御  なし  ER(DTR/CTS)  XON/XOFF

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms)

伝送制御手順 伝送制御手順1

RI / VCC  RI  VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

[初期設定](#)

機器別設定

接続可能台数 16台 [機器を追加](#)

No.	機器名	設定
1	PLC1	シリーズ=H シリーズ

[間接機器追加](#)

設定項目	設定内容
通信方式	接続機器と通信する通信方式を選択します。
通信速度	接続機器と表示器間の通信速度を選択します。
データ長	データ長を選択します。
パリティ	パリティチェックの方法を選択します。
ストップビット	ストップビット長を選択します。
フロー制御	送受信データのオーバーフローを防ぐために行う通信制御の方式を選択します。
タイムアウト	表示器が接続機器からの応答を待つ時間 (s) を「1～127」で入力します。


設定項目	設定内容
リトライ	接続機器からの応答がない場合に、表示器がコマンドを再送信する回数を「0～255」で入力します。
送信ウェイト	表示器がパケットを受信してから、次のコマンドを送信するまでの待機時間 (ms) を「0～255」で入力します。
伝送制御手順	接続機器の伝送制御手順を選びます。
RI/VCC	通信方式で RS232C を選択した場合に、9 番ピンの RI/VCC を切り替えます。IPC と接続する場合は IPC の切替スイッチで RI/5V を切り替える必要があります。詳細は IPC のマニュアルを参照してください。

**MEMO**

- 間接機器については GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「運転中に接続機器を切り替えたい (間接機器指定)」

## ■ 機器設定

設定画面を表示するには、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から設定したい接続機器の  ([ 設定 ]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[ 接続機器設定 ] の [ 機器別設定 ] から [ 機器を追加 ] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



設定項目	設定内容
シリーズ	接続機器の種類を選択します。
号機 No.	接続機器の号機 No. を入力します。

## 4.2 オフラインモードでの設定

## MEMO

- オフラインモードへの入り方や操作方法は、保守/トラブル解決ガイドを参照してください。

参照：保守/トラブル解決ガイド「オフラインモードについて」

- オフラインモードは使用する表示器によって 1 画面に表示できる設定項目数が異なります。詳細はリファレンスマニュアルを参照してください。

## ■ 通信設定

設定画面を表示するには、オフラインモードの [ 周辺機器設定 ] から [ 接続機器設定 ] をタッチします。表示された一覧から設定したい接続機器をタッチします。

通信設定	機器設定	オプション		
H シリーズ SIO		[COM1]	Page 1/1	
通信方式	RS232C			
通信速度	19200			
データ長	<input checked="" type="radio"/> 7 <input type="radio"/> 8			
パリティ	<input type="radio"/> なし <input checked="" type="radio"/> 偶数 <input type="radio"/> 奇数			
ストップビット	<input checked="" type="radio"/> 1 <input type="radio"/> 2			
フロー制御	ER(DTR/CTS)			
タイムアウト(s)	3			
リトライ	2			
送信ウェイト(ms)	0			
伝送制御手順	伝送制御手順1			
終了		戻る		2006/05/15 11:30:50

設定項目	設定内容
通信方式	接続機器と通信する通信方式を選択します。 <b>重要</b> 通信設定を行う場合、[ 通信方式 ] は表示器のシリアルインターフェイスの仕様を確認し、正しく設定してください。シリアルインターフェイスが対応していない通信方式を選択した場合の動作は保証できません。シリアルインターフェイスの仕様については表示器のマニュアルを参照してください。
通信速度	接続機器と表示器間の通信速度を選択します。
データ長	データ長を選択します。
パリティ	パリティチェックの方法を選択します。
ストップビット	ストップビット長を選択します。
フロー制御	送受信データのオーバーフローを防ぐために行う通信制御の方式を選択します。



設定項目	設定内容
タイムアウト	表示器が接続機器からの応答を待つ時間 (s) を「1～127」で入力します。
リトライ	接続機器からの応答がない場合に、表示器がコマンドを再送信する回数を「0～255」で入力します。
送信ウェイト	表示器がパケットを受信してから、次のコマンドを送信するまでの待機時間 (ms) を「0～255」で入力します。
伝送制御手順	接続機器の伝送制御手順を選びます。

## ■ 機器設定

設定画面を表示するには、[周辺機器設定] から [接続機器設定] をタッチします。表示された一覧から設定したい接続機器をタッチし、[機器設定] をタッチします。

通信設定	機器設定	オプション		
H シリーズ SIO		[COM1]	Page 1/1	
接続機器名		PLC1		
シリーズ		H シリーズ		
号機 No.		0		
終了		戻る		2006/05/15 11:30:52

設定項目	設定内容
接続機器名	設定する接続機器を選択します。接続機器名は GP-Pro EX で設定する接続機器の名称です。(初期値 [PLC1])
シリーズ	接続機器の種類を表示します。
号機 No.	接続機器の号機 No. を入力します。

## ■ オプション

設定画面を表示するには、[周辺機器設定]から[接続機器設定]をタッチします。表示された一覧から設定したい接続機器をタッチし、[オプション]をタッチします。

通信設定	機器設定	オプション		
H シリーズ SIO		[COM1]	Page 1/1	
RI / VCC                      ● RI                      ● VCC RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にする かVCC(5V電源供給)にするかを選択できま す。デジタル製RS232Cアイソレーション ユニットを使用する場合は、VCCを選択し てください。				
		終了	戻る	2006/05/15 11:30:54

設定項目	設定内容
RI/VCC	9番ピンのRI/VCCを切り替えます。 IPCと接続する場合はIPCの切替スイッチでRI/5Vを切り替える必要があります。詳細はIPCのマニュアルを参照してください。

### MEMO

- GP-4100 シリーズ、GP-4\*0ITM、LT-4\*0ITM および LT-Rear Module の場合、オフラインモードに [オプション] の設定はありません。

## 5 結線図

以下に示す結線図と日立産機システムが推奨する結線図が異なる場合がありますが、本書に示す結線図でも動作上問題ありません。

- 接続機器本体の FG 端子は D 種接地を行ってください。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。
- 表示器内部で SG と FG は接続されています。接続機器と SG を接続する場合は短絡ループが形成されないようにシステムを設計してください。
- ノイズなどの影響で通信が安定しない場合はアイソレーションユニットを接続してください。

結線図 1

表示器 (接続ポート)	ケーブル※1		備考
GP3000 (COM1) GP4000※2 (COM1) SP5000 (COM1/2) ST (COM1) LT3000 (COM1) IPC※3 PC/AT	1A	(株) 日立産機システム製 WVCB02H	ケーブル長： 15m 以内
	1B	自作ケーブル 1	
	1C	自作ケーブル 2	
GP-4105 (COM1)	1D	自作ケーブル 1	ケーブル長： 15m 以内
	1E	自作ケーブル 2	

※1 通信速度によって配線を変更する必要があります。

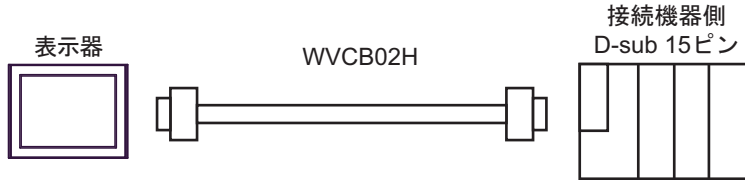
	H-200 H-250 H-252B		H-252C		H-300/H-302 H-700/H-702 H-2000/H-2002		H-4010	
	通信速度	配線	通信速度	配線	通信速度	配線	通信速度	配線
ペリフェラルポート 1 あるいは シリアルポート 1	2400bps 4800bps 9600bps	1B 1D	2400bps 4800bps 9600bps	1A 1B 1C 1D 1E	4800bps	1B 1D	4800bps	1B 1D
	19200bps	1A 1C 1E	19200bps	1D 1E	19200bps	1A 1C 1E	19200bps 38400bps	1A, 1C, 1E 1A, 1B, 1C 1D, 1E
ペリフェラルポート 2 あるいは シリアルポート 2	—	—	4800bps	1B, 1D	—	—	4800bps	1B, 1D
	—	—	19200bps	1A 1C 1E	—	—	19200bps	1A, 1C, 1E
	—	—	—	—	—	—	38400bps	1A, 1B, 1C 1D, 1E

※2 GP-4100 シリーズ、GP-4203T を除く全 GP4000 機種

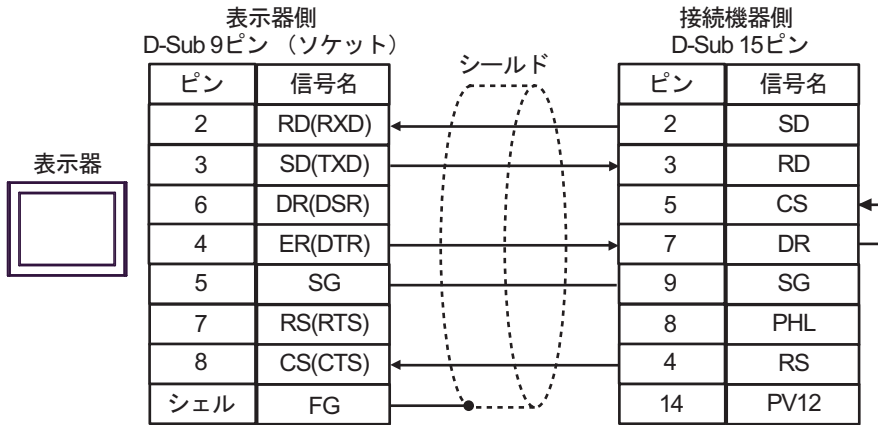
※3 RS-232C で通信できる COM ポートのみ使用できます。

☞ ■ IPC の COM ポートについて (7 ページ)

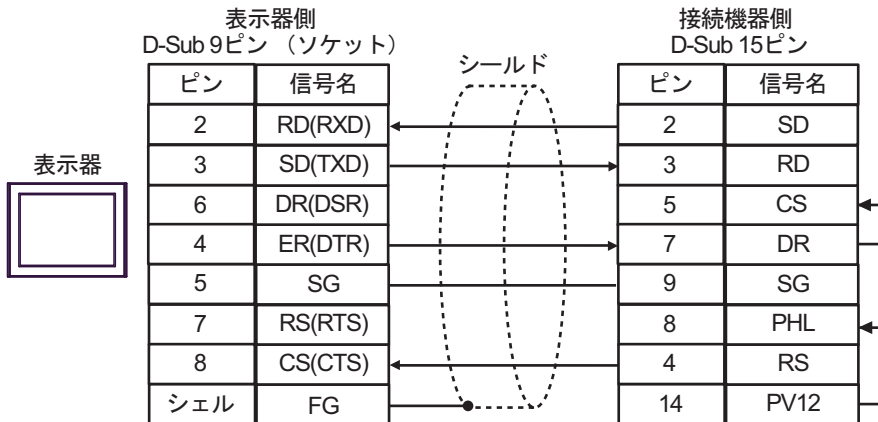
1A)



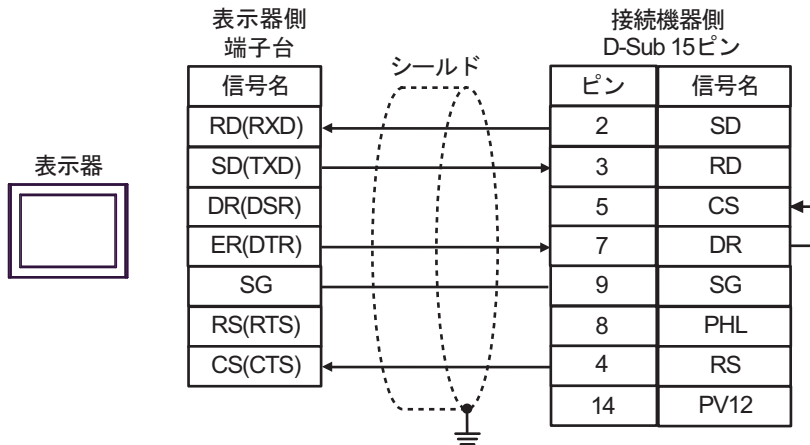
1B)



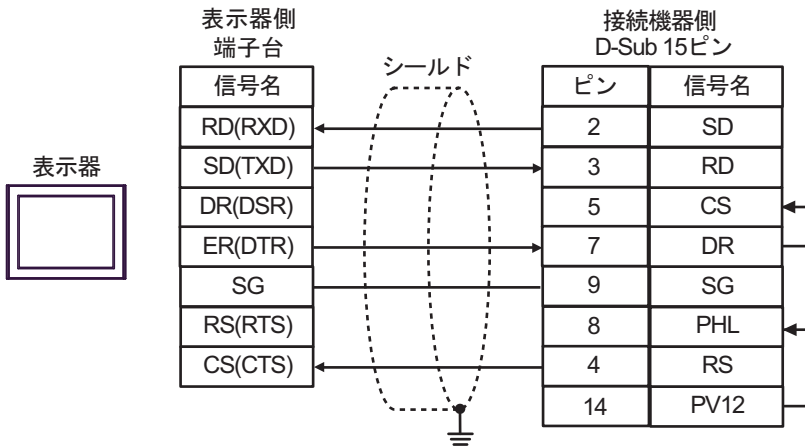
1C)



1D)



1E)




結線図 2

表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP3000 <sup>※1</sup> (COM1) AGP-3302B (COM2) GP-4*01TM (COM1) ST <sup>※2</sup> (COM2) LT3000 (COM1) IPC <sup>※3</sup>	2A	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長： 250m 以内
	2B	自作ケーブル	
GP3000 <sup>※4</sup> (COM2)	2C	(株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長： 250m 以内
	2D	(株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + 自作ケーブル	
GP-4106 (COM1)	2E	自作ケーブル	ケーブル長： 250m 以内
GP4000 <sup>※5</sup> (COM2) GP-4201T (COM1) SP5000 (COM1/2)	2F	(株) デジタル製 RS-422 端子台変換アダプタ PFXZCBADTM1 <sup>※6</sup> + 自作ケーブル	ケーブル長： 250m 以内
	2B	自作ケーブル	

※1 AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

※2 AST-3211A および AST-3302B を除く全 ST 機種

※3 RS-422/485(4 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。

 ■ IPC の COM ポートについて (7 ページ)

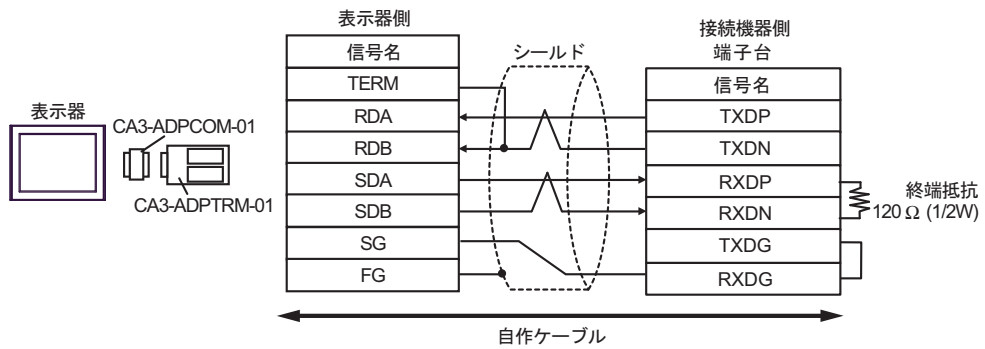
※4 GP-3200 シリーズおよび AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

※5 GP-4100 シリーズ、GP-4\*01TM、GP-4201T および GP-4\*03T を除く全 GP4000 機種

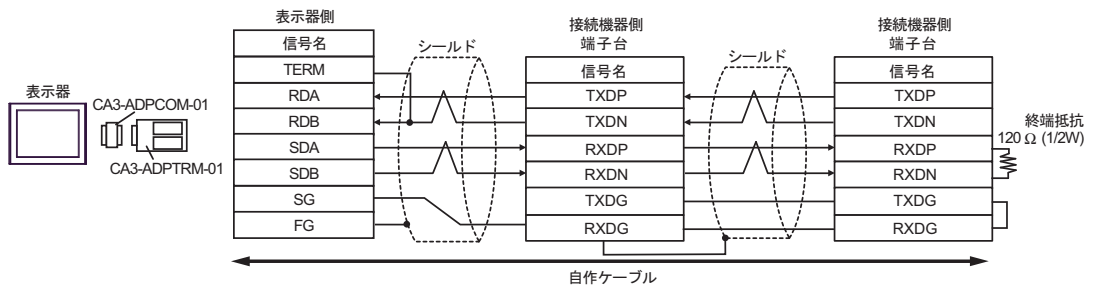
※6 RS-422 端子台変換アダプタの代わりにコネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01) を使用する  
場合、2A の結線図を参照してください。

2A)

- 1 : 1 接続の場合

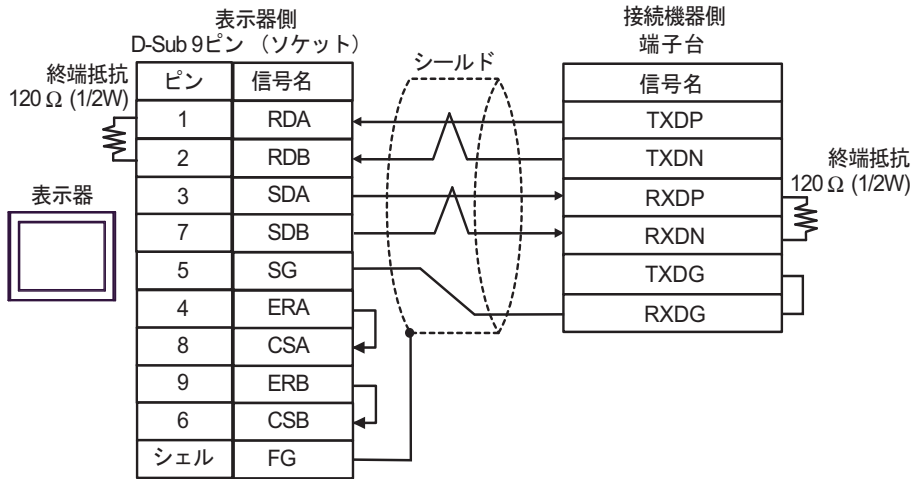


- 1 : n 接続の場合

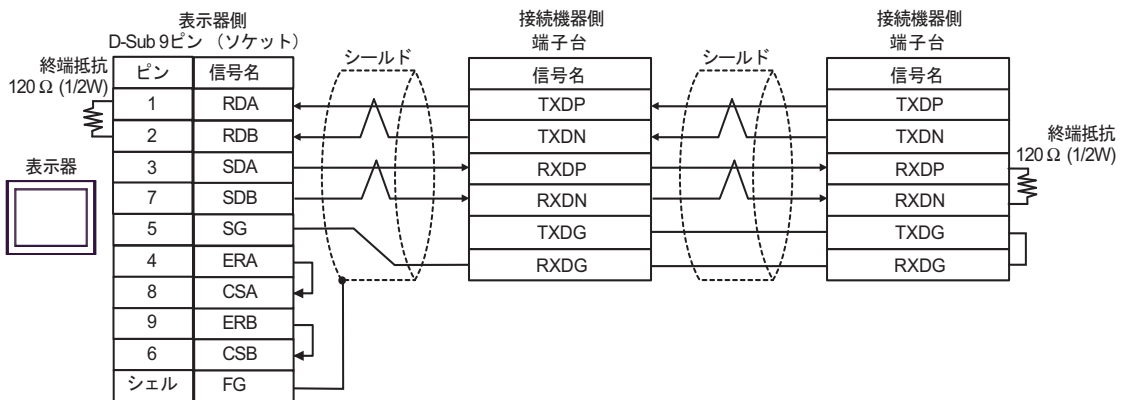


2B)

- 1 : 1 接続の場合



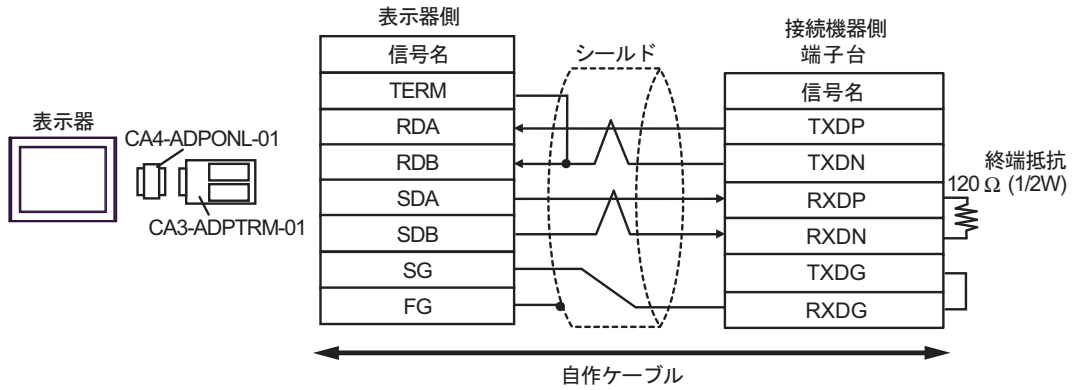
- 1 : n 接続の場合



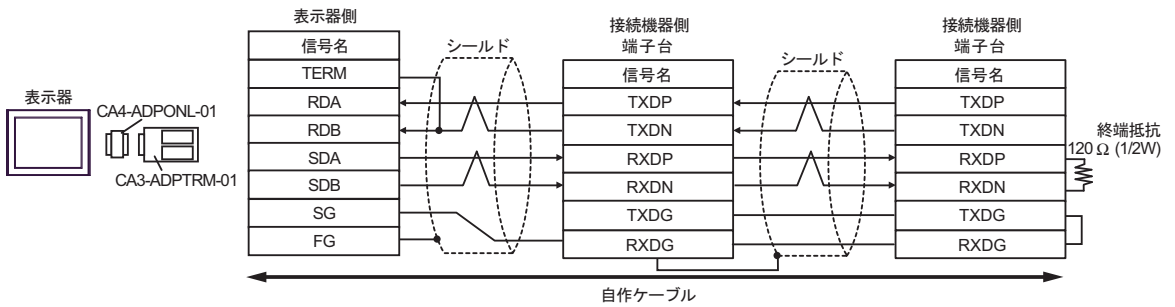


2C)

- 1 : 1 接続の場合

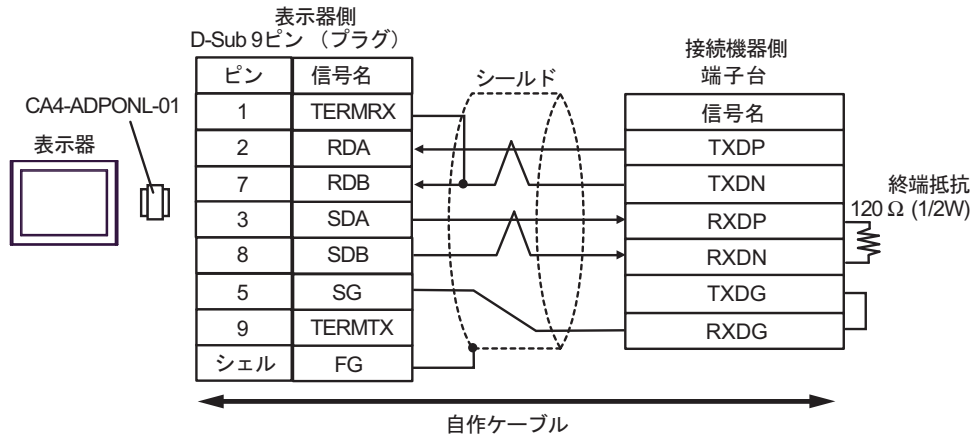


- 1 : n 接続の場合

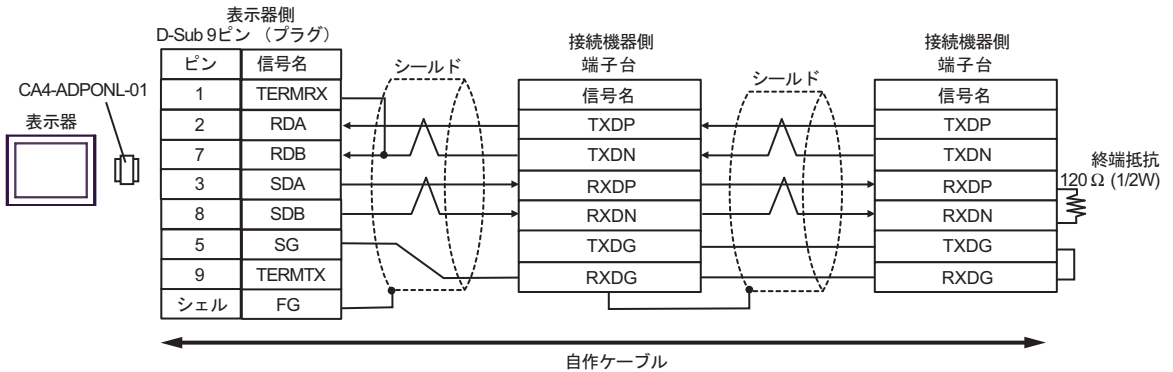


2D)

- 1 : 1 接続の場合

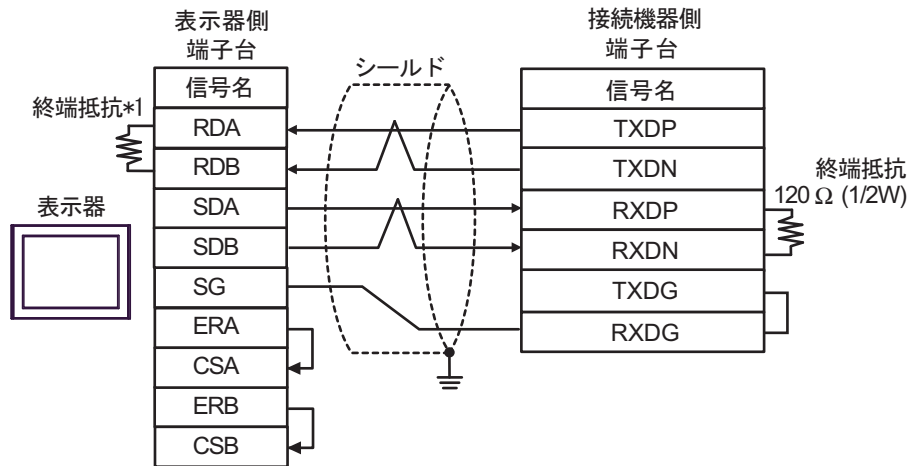


- 1 : n 接続の場合

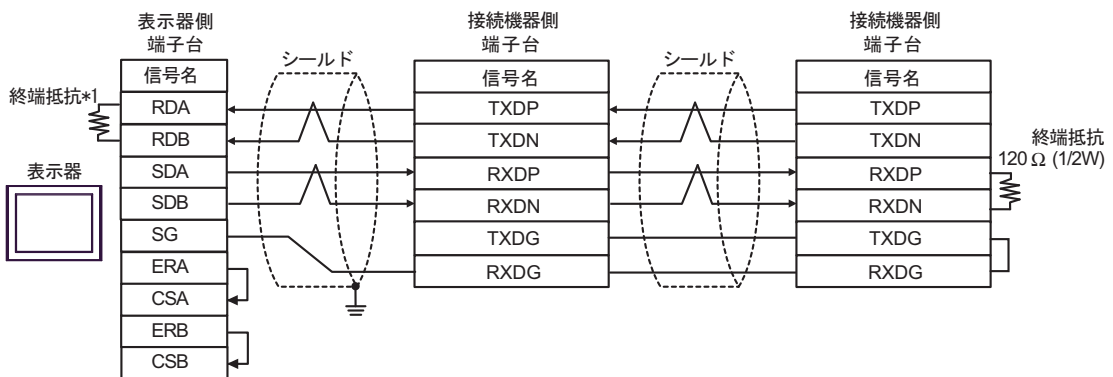


2E)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合

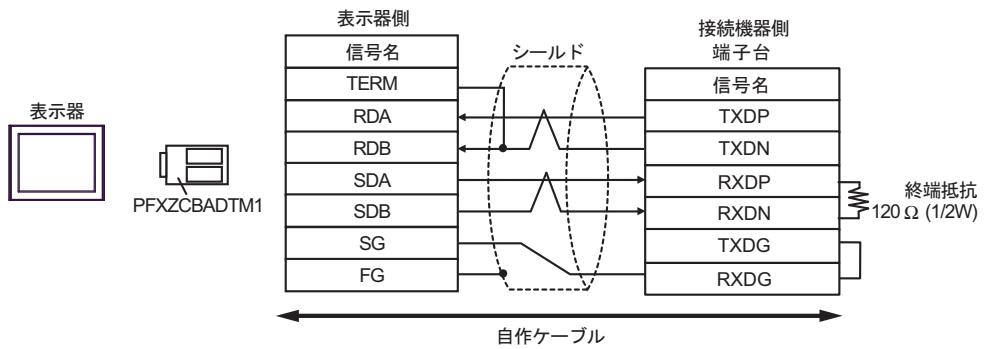


- \*1 表示器に内蔵している抵抗を終端抵抗として使用します。表示器背面のディップスイッチを以下のように設定してください。

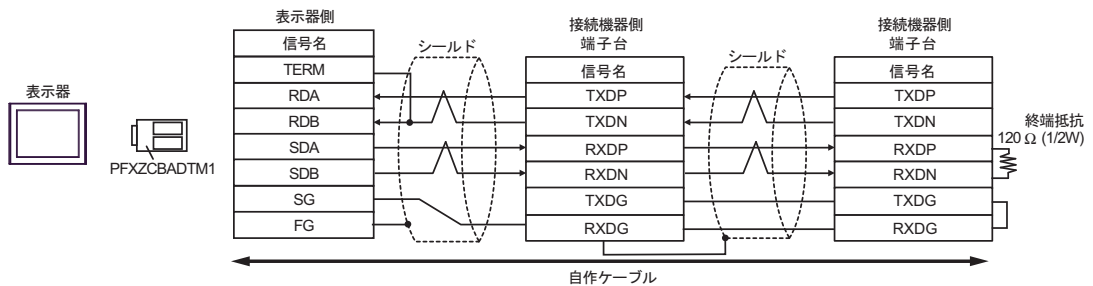
ディップスイッチ	設定内容
1	OFF
2	OFF
3	ON
4	ON

2F)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合



## 結線図 3

表示器 (接続ポート)	ケーブル※1		備考
GP3000 (COM1) GP4000※2 (COM1) SP5000 (COM1/2) ST (COM1) LT3000 (COM1) IPC※3 PC/AT	3A	(株) 日立産機システム製 EH-VCB02(2m)	ケーブル長： 15m 以内
	3B	(株) 日立産機システム製 WVCB02H(2m) + (株) 日立産機システム製変換ケーブル EH-RS05(0.5m)	
	3C	自作ケーブル 1 + (株) 日立産機システム製変換ケーブル EH-RS05(0.5m)	
	3D	自作ケーブル 2 + (株) 日立産機システム製変換ケーブル EH-RS05(0.5m)	
GP-4105 (COM1)	3E	自作ケーブル + (株) 日立産機システム製 EH-VCB02(2m)	ケーブル長： 15m 以内
	3F	自作ケーブル 1 + (株) 日立産機システム製変換ケーブル EH-RS05(0.5m)	
	3G	自作ケーブル 2 + (株) 日立産機システム製変換ケーブル EH-RS05(0.5m)	

※1 通信速度によって配線を変更する必要があります。

	EH-150	
	通信速度	配線
ペリフェラルポート 1 あるいは シリアルポート 1	4800bps 9600bps 19200bps 38400bps	3A,3B 3C,3D 3E,3F,3G
ペリフェラルポート 2 あるいは シリアルポート 2	4800bps 9600bps	3A,3C 3E,3F
	19200bps 38400bps	3B,3D 3G

※2 GP-4100 シリーズ、GP-4203T を除く全 GP4000 機種

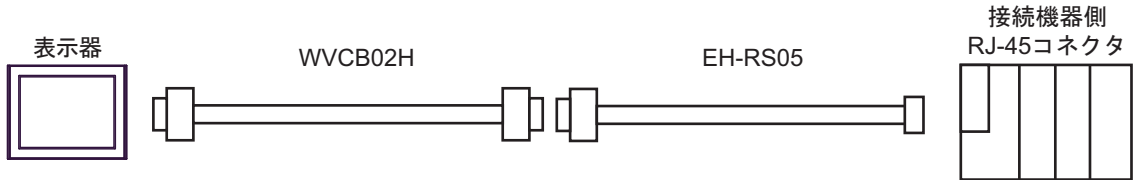
※3 RS-232C で通信できる COM ポートのみ使用できます。

☞ ■ IPC の COM ポートについて (7 ページ)

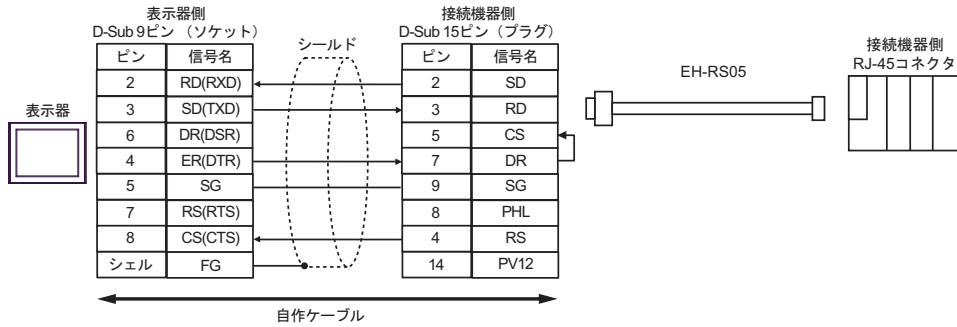
3A)



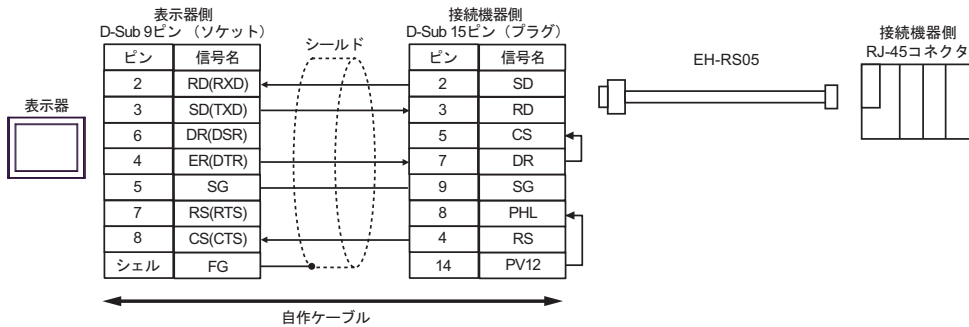
3B)



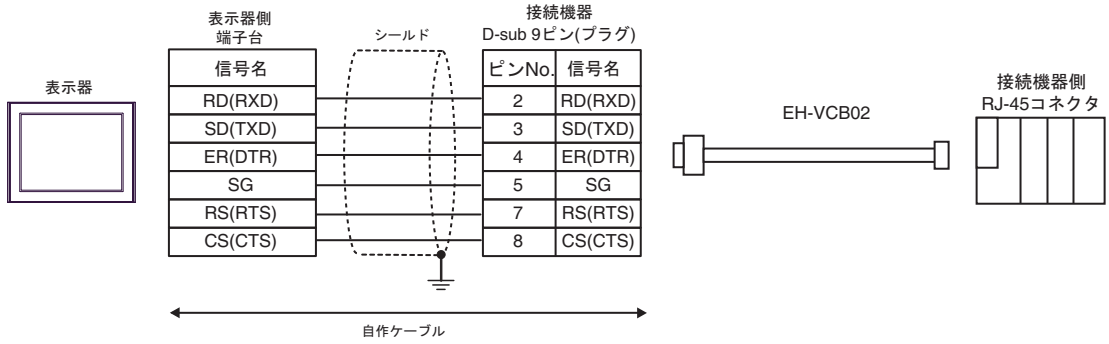
3C)



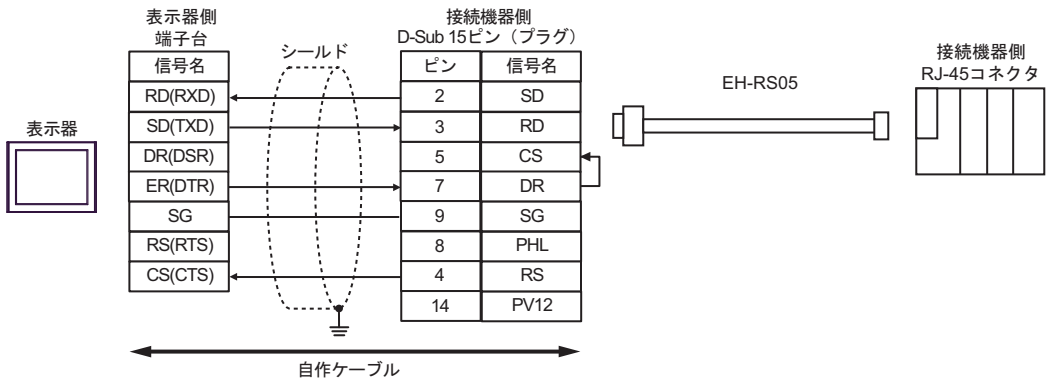
3D)



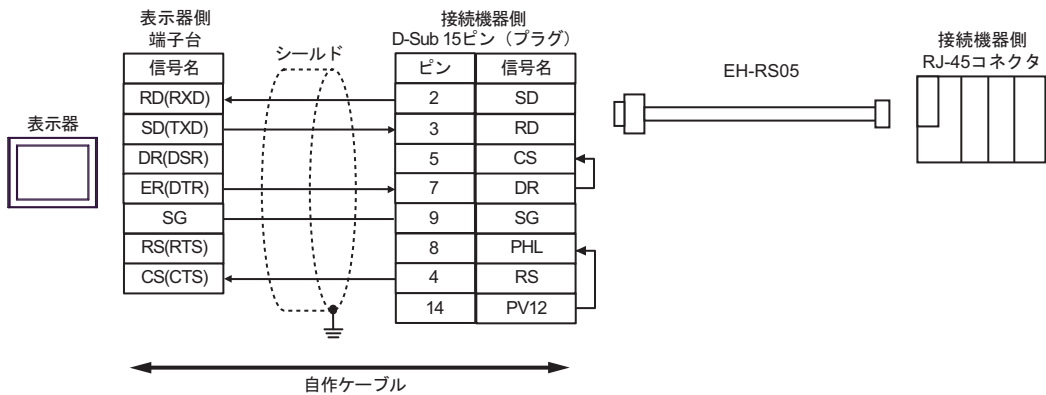
3E)



3F)



3G)



結線図 4

表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP3000 <sup>※1</sup> (COM1) AGP-3302B (COM2) GP-4*01TM (COM1) ST <sup>※2</sup> (COM2) LT3000 (COM1) IPC <sup>※3</sup>	4A	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + (株) 日立産機システム製変換ケーブル EH-RS05	ケーブル長： 500m 以内
	4B	自作ケーブル + (株) 日立産機システム製変換ケーブル EH-RS05	
GP3000 <sup>※4</sup> (COM2)	4C	(株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + (株) 日立産機システム製変換ケーブル EH-RS05	ケーブル長： 500m 以内
	4D	(株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + 自作ケーブル + (株) 日立産機システム製変換ケーブル EH-RS05	
GP-4106 (COM1)	4E	自作ケーブル + (株) 日立産機システム製変換ケーブル EH-RS05	ケーブル長： 500m 以内
GP4000 <sup>※5</sup> (COM2) GP-4201T (COM1) SP5000 (COM1/2)	4F	(株) デジタル製 RS-422 端子台変換アダプタ PFXZCBADTM1 <sup>※6</sup> + (株) 日立産機システム製変換ケーブル EH-RS05	ケーブル長： 500m 以内
	4B	自作ケーブル + (株) 日立産機システム製変換ケーブル EH-RS05	

※1 AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

※2 AST-3211A および AST-3302B を除く全 ST 機種

※3 RS-422/485(4 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。

☞ ■ IPC の COM ポートについて (7 ページ)

※4 GP-3200 シリーズおよび AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

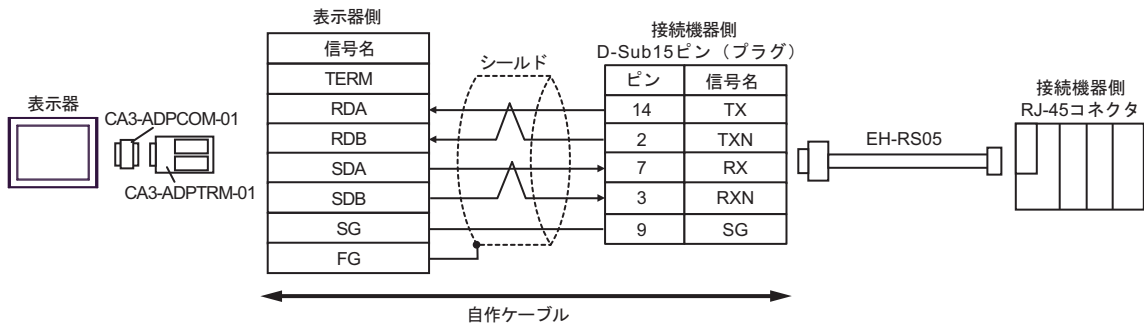
※5 GP-4100 シリーズ、GP-4\*01TM、GP-4201T および GP-4\*03T を除く全 GP4000 機種

※6 RS-422 端子台変換アダプタの代わりにコネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01) を使用する  
場合、4A の結線図を参照してください。

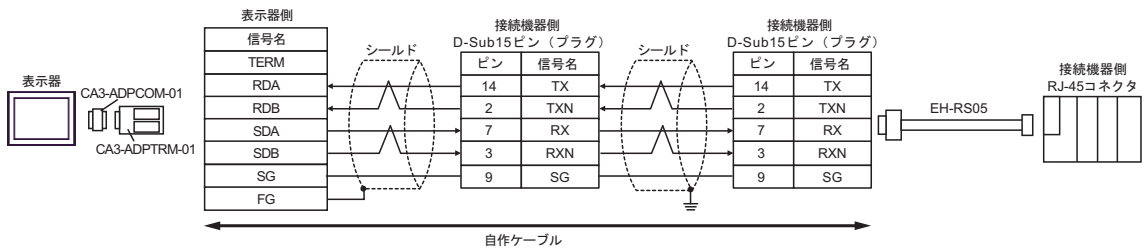


4A)

- 1 : 1 接続の場合



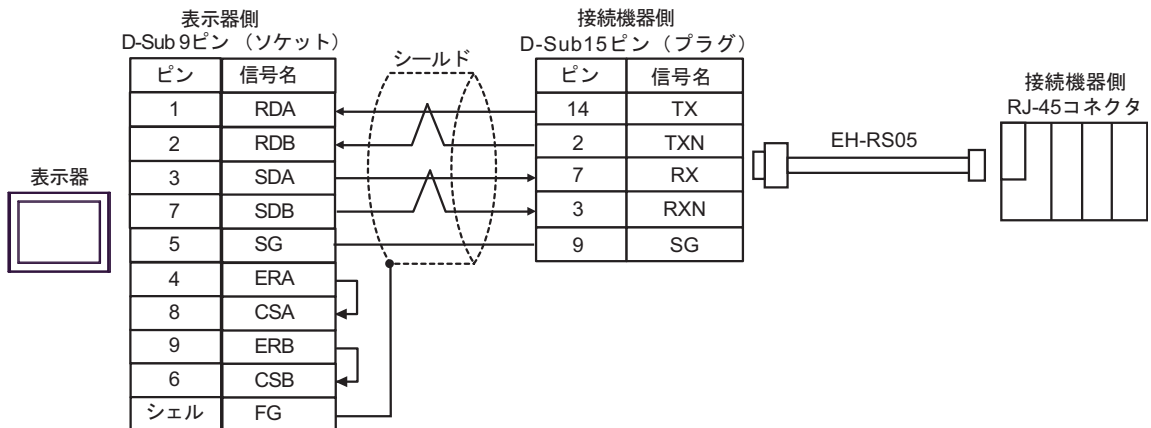
- 1 : n 接続の場合



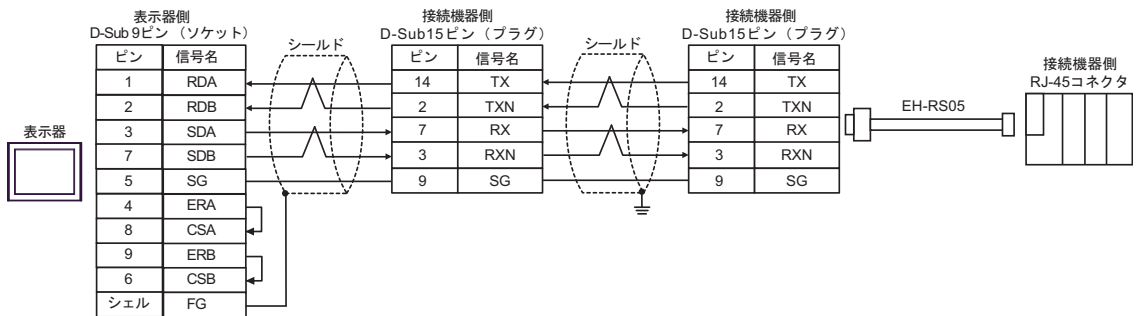
\* 終端抵抗については、(株) 日立産機システムにお問い合わせください。

4B)

- 1 : 1 接続の場合



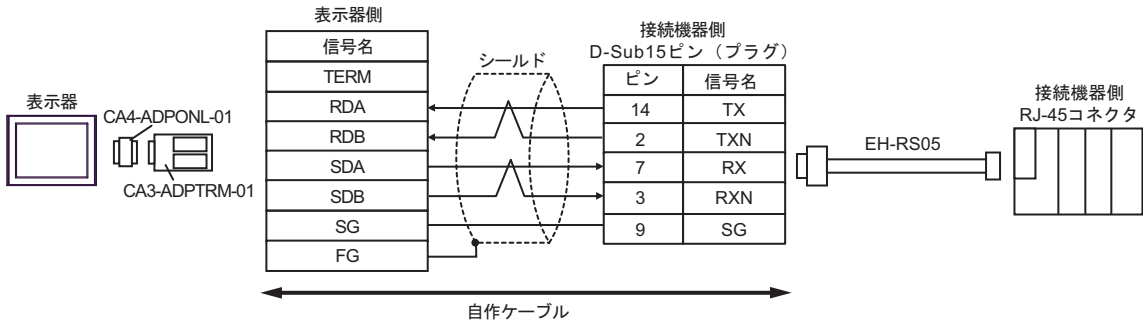
- 1 : n 接続の場合



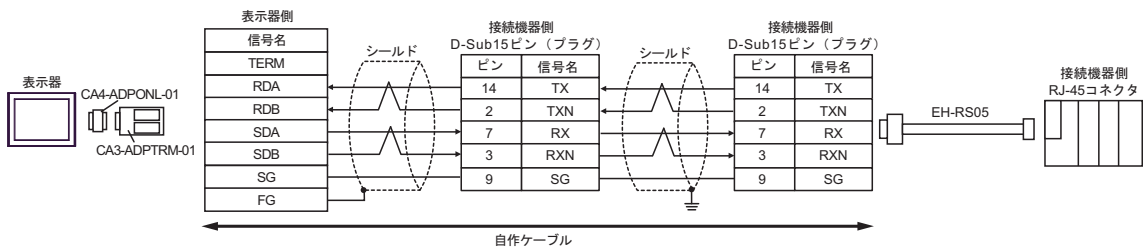
\* 終端抵抗については、(株) 日立産機システムにお問い合わせください。

4C)

- 1 : 1 接続の場合



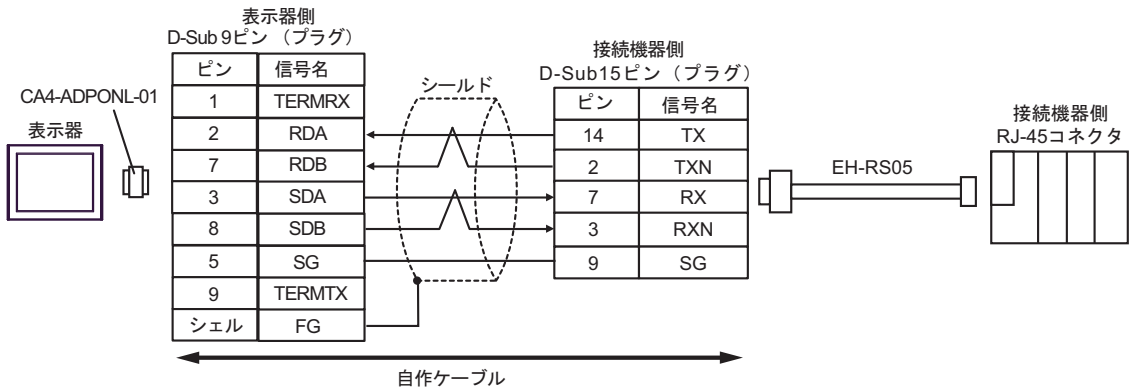
- 1 : n 接続の場合



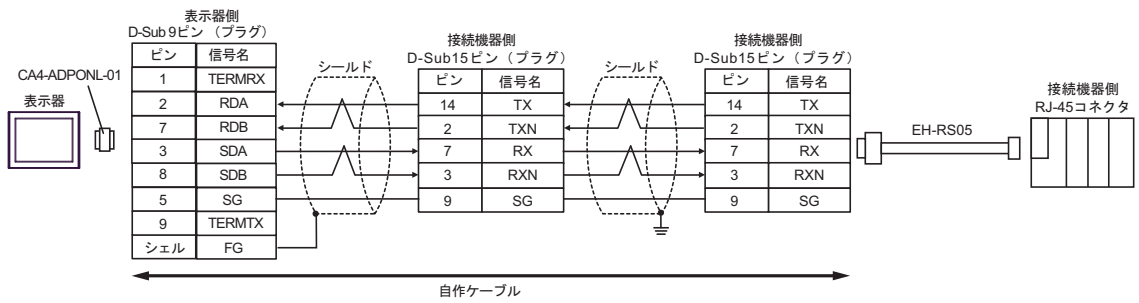
\* 終端抵抗については、(株) 日立産機システムにお問い合わせください。

4D)

- 1 : 1 接続の場合



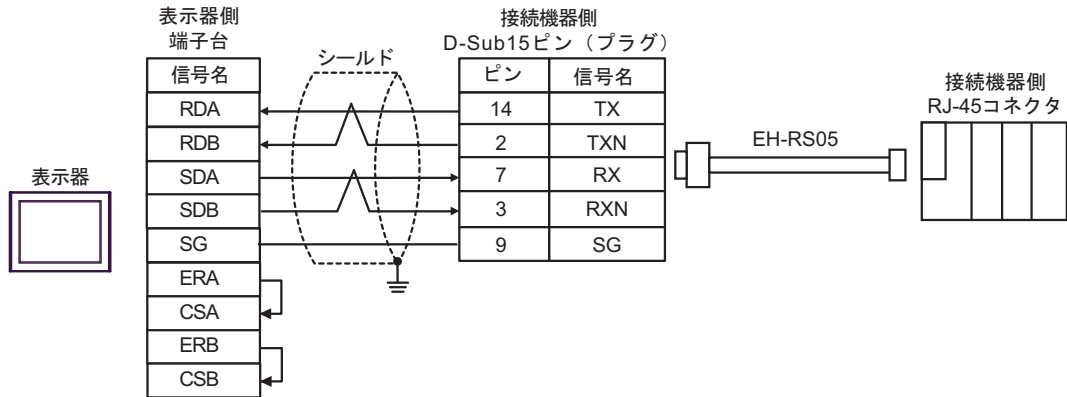
- 1 : n 接続の場合



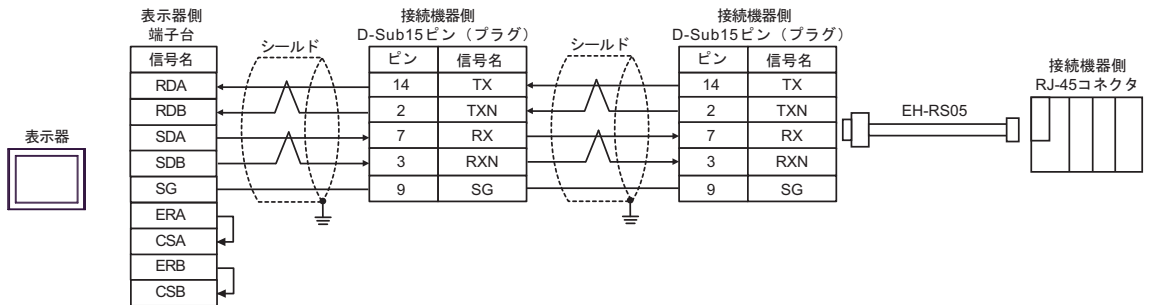
\* 終端抵抗については、(株) 日立産機システムにお問い合わせください。

4E)

- 1:1 接続の場合



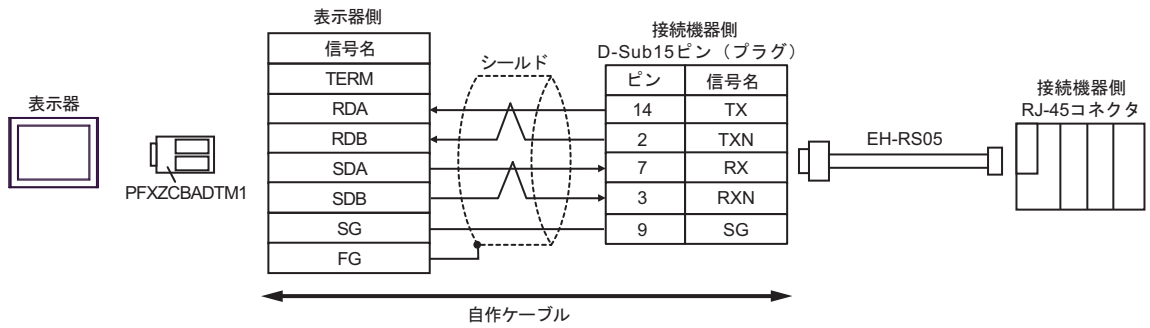
- 1:n 接続の場合



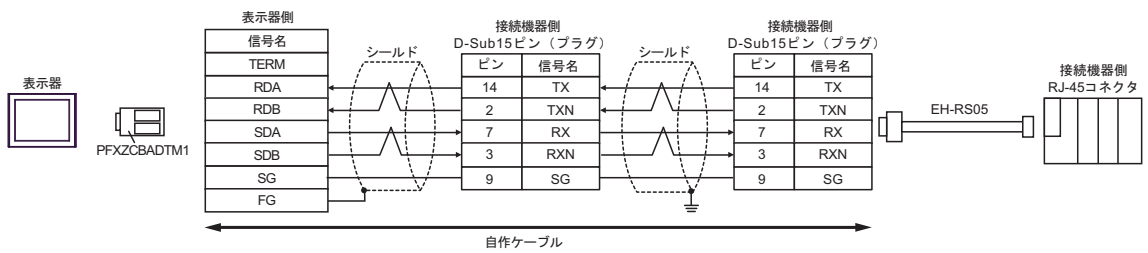
\* 終端抵抗については、(株) 日立産機システムにお問い合わせください。

4F)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合



\* 終端抵抗については、(株) 日立産機システムにお問い合わせください。

結線図 5

表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP3000 <sup>※1</sup> (COM1) AGP-3302B (COM2) GP-4*01TM (COM1) ST <sup>※2</sup> (COM2) LT3000 (COM1)	5A	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル + (株) 日立産機システム製変換ケーブル EH-RS05	ケーブル長： 500m 以内
	5B	自作ケーブル + (株) 日立産機システム製変換ケーブル EH-RS05	
GP3000 <sup>※3</sup> (COM2)	5C	(株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル + (株) 日立産機システム製変換ケーブル EH-RS05	ケーブル長： 500m 以内
	5D	(株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + 自作ケーブル + (株) 日立産機システム製変換ケーブル EH-RS05	
IPC <sup>※4</sup>	5E	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル + (株) 日立産機システム製変換ケーブル EH-RS05	ケーブル長： 500m 以内
	5F	自作ケーブル + (株) 日立産機システム製変換ケーブル EH-RS05	

表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP-4106 (COM1)	5G	自作ケーブル + (株) 日立産機システム製変換ケーブル EH-RS05	ケーブル長： 500m 以内
GP-4107 (COM1) GP-4*03T <sup>※5</sup> (COM2) GP-4203T (COM1)	5H	自作ケーブル + (株) 日立産機システム製変換ケーブル EH-RS05	ケーブル長： 500m 以内
GP4000 <sup>※6</sup> (COM2) GP-4201T (COM1) SP5000 (COM1/2)	5I	(株) デジタル製 RS-422 端子台変換アダプタ PFXZCBADTM1 <sup>※7</sup> + 自作ケーブル + (株) 日立産機システム製変換ケーブル EH-RS05	ケーブル長： 500m 以内
	5B	自作ケーブル	
LT-4*01TM (COM1) LT-Rear Module (COM1)	5J	(株) デジタル製 RJ45 RS-485 ケーブル (5m) PFXZLMCBJR81 + (株) 日立産機システム製変換ケーブル EH-RS05	ケーブル長： 200m 以内

※1 AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

※2 AST-3211A および AST-3302B を除く全 ST 機種

※3 GP-3200 シリーズおよび AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

※4 RS-422/485(2 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。

☞ ■ IPC の COM ポートについて (7 ページ)

※5 GP-4203T を除く

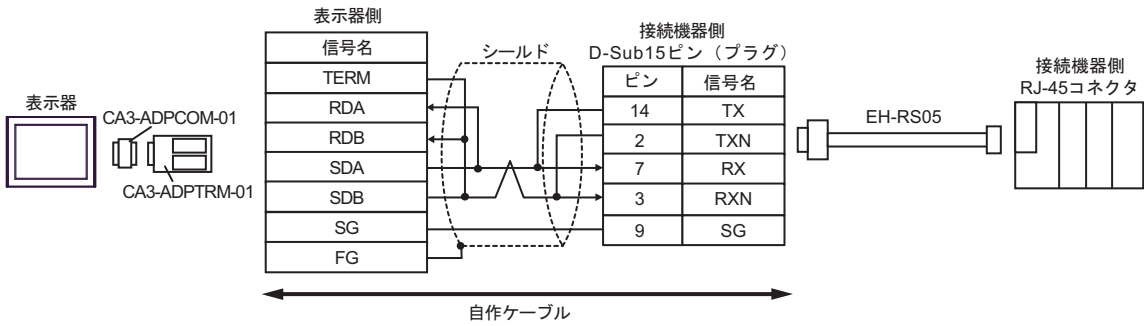
※6 GP-4100 シリーズ、GP-4\*01TM、GP-4201T および GP-4\*03T を除く全 GP4000 機種

※7 RS-422 端子台変換アダプタの代わりにコネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01) を使用する  
場合、5A の結線図を参照してください。

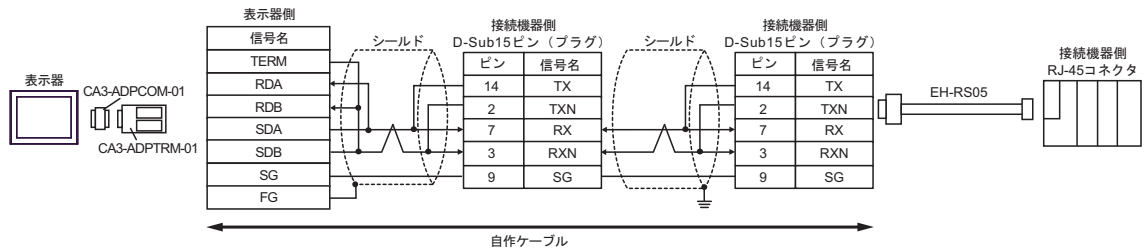


5A)

- 1 : 1 接続の場合

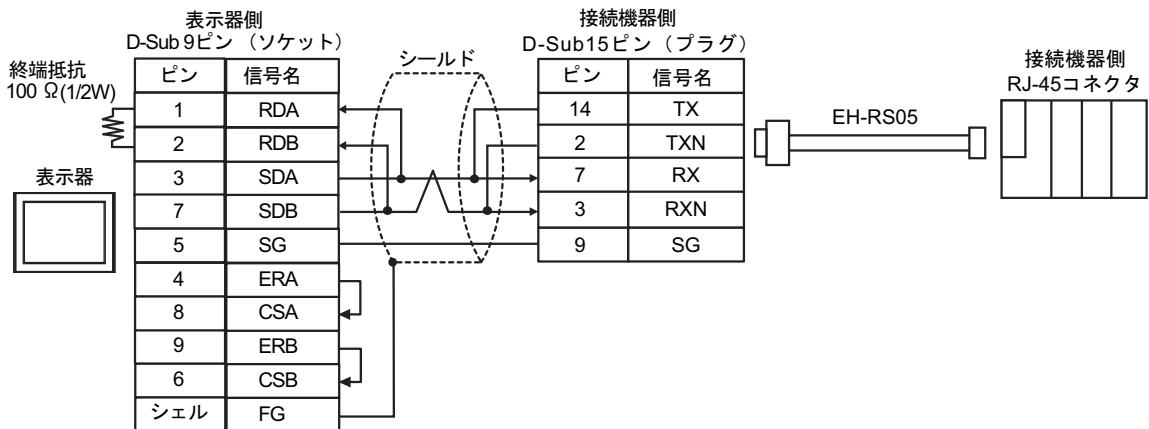


- 1 : n 接続の場合

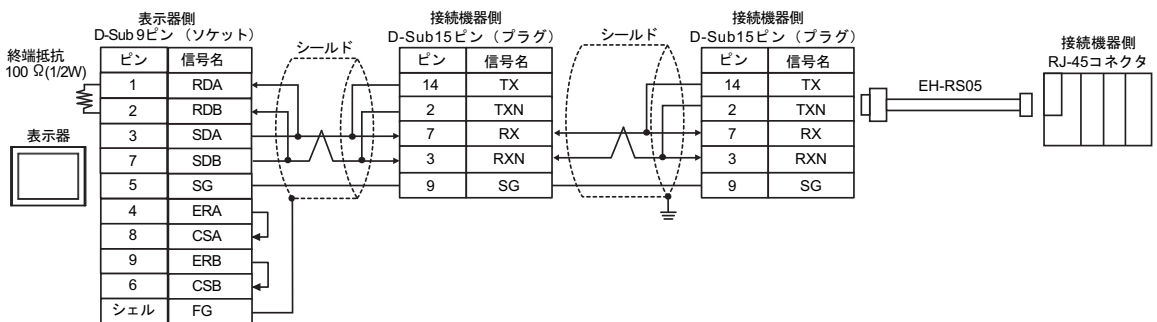


5B)

- 1:1 接続の場合

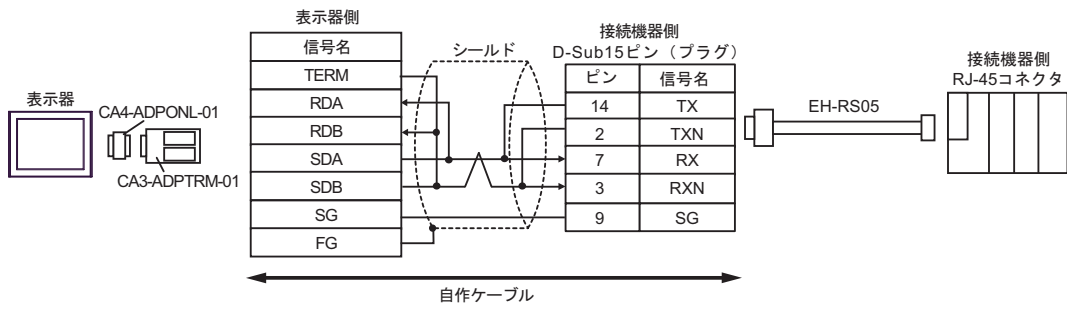


- 1:n 接続の場合

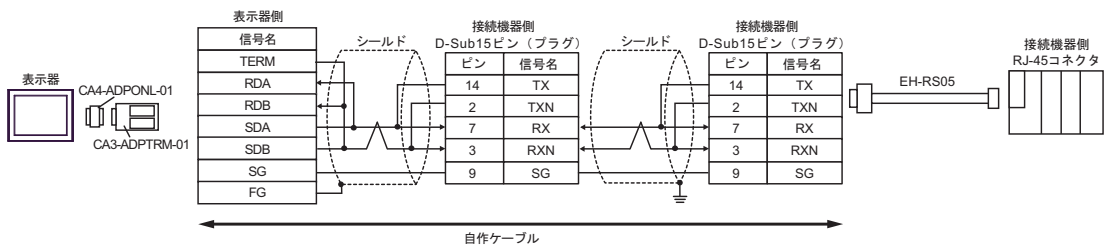


5C)

- 1 : 1 接続の場合

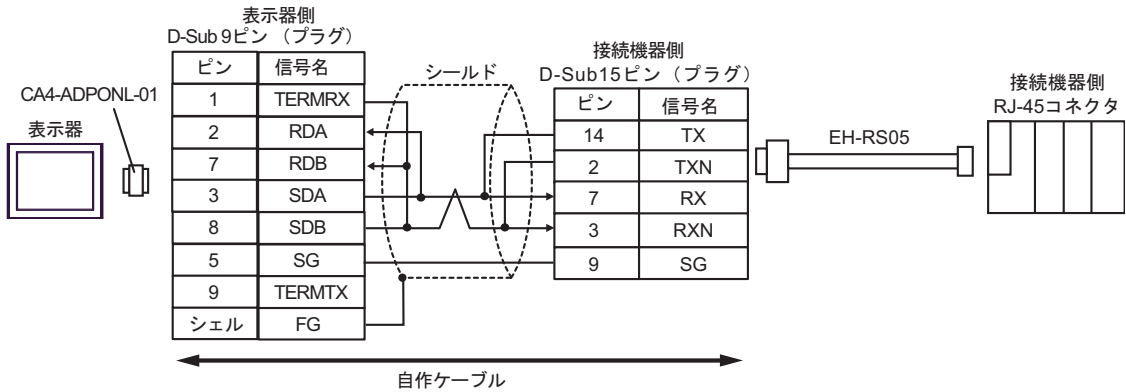


- 1 : n 接続の場合

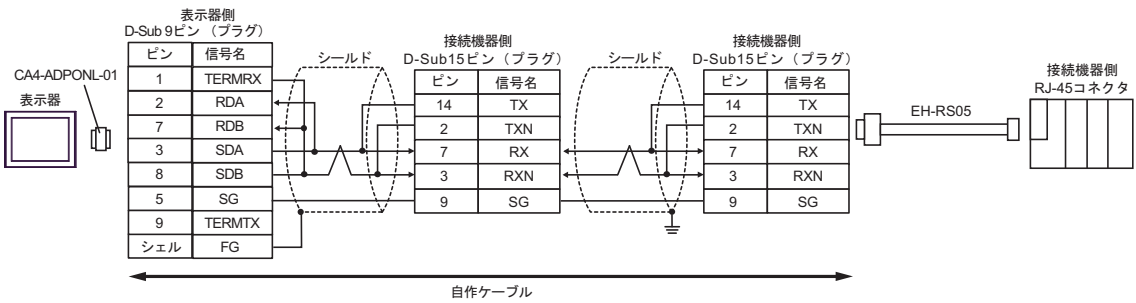


5D)

- 1 : 1 接続の場合

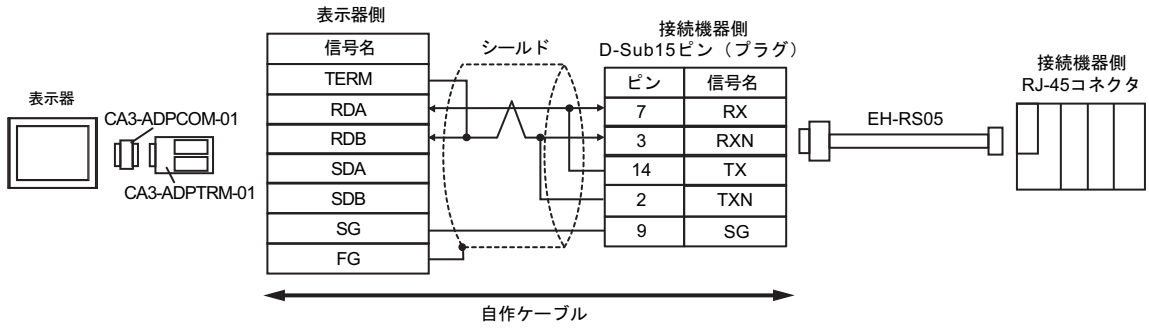


- 1 : n 接続の場合

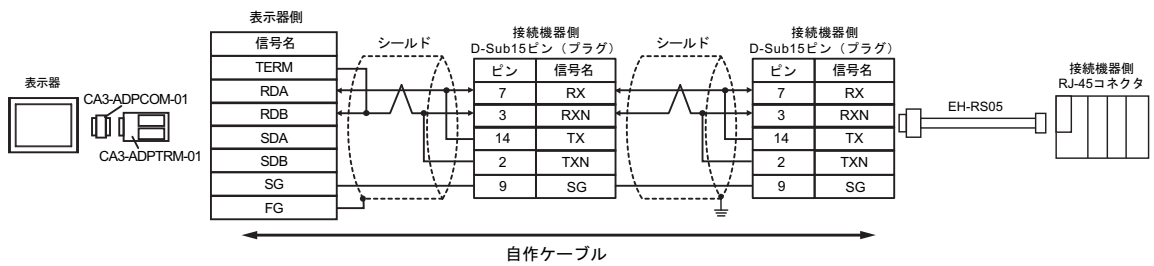


5E)

- 1 : 1 接続の場合

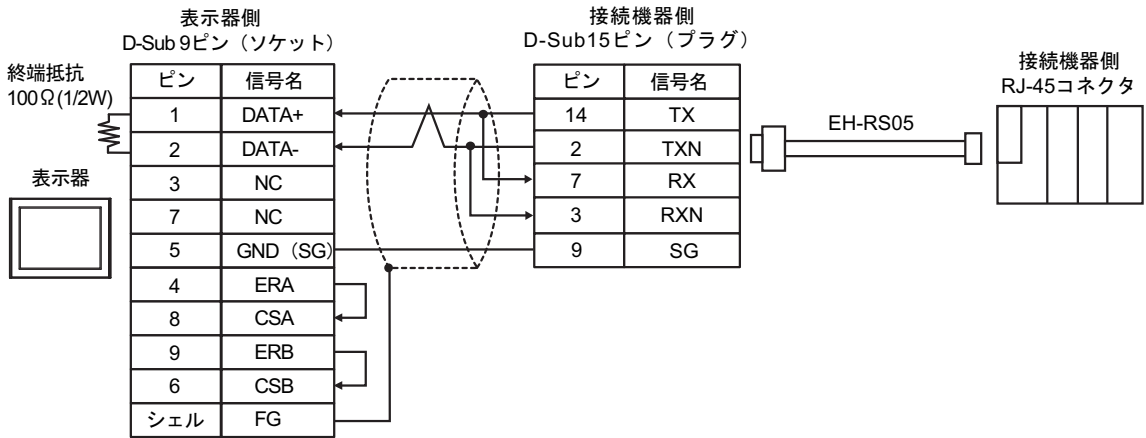


- 1 : n 接続の場合

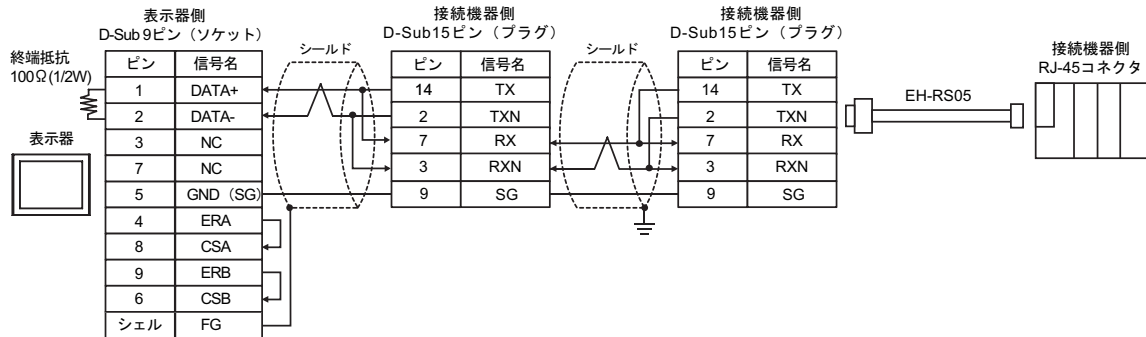


5F)

- 1 : 1 接続の場合

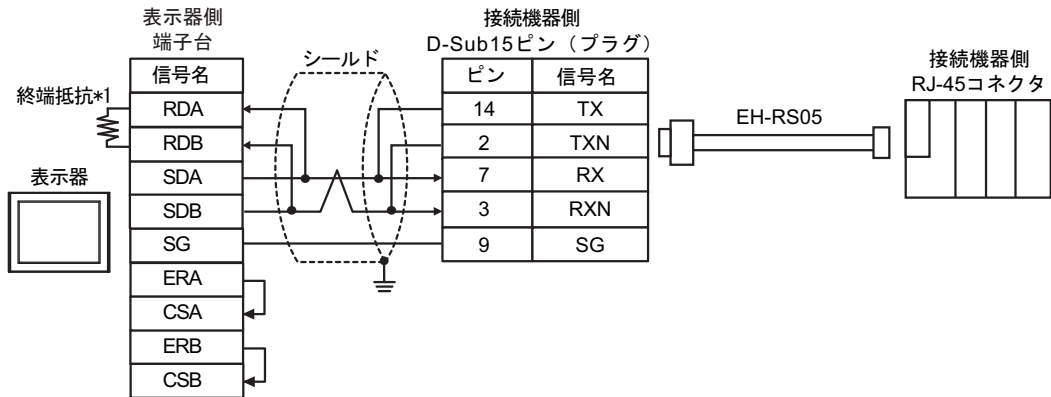


- 1 : n 接続の場合

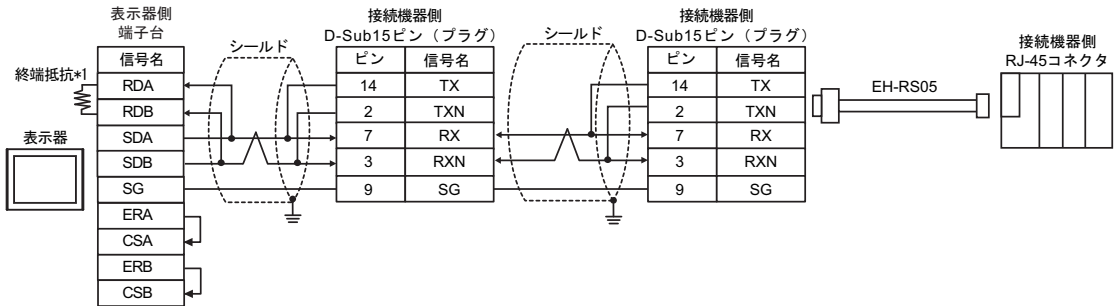


5G)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合

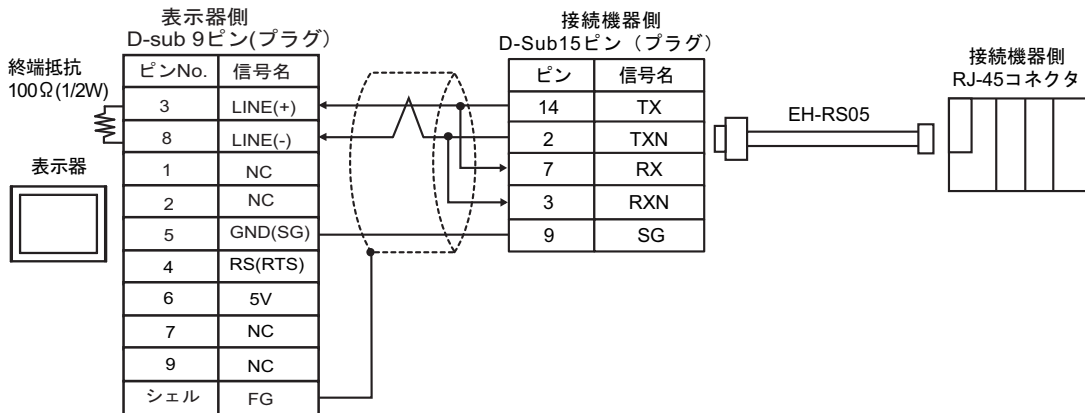


- \*1 表示器に内蔵している抵抗を終端抵抗として使用します。表示器背面のディップスイッチを以下のように設定してください。

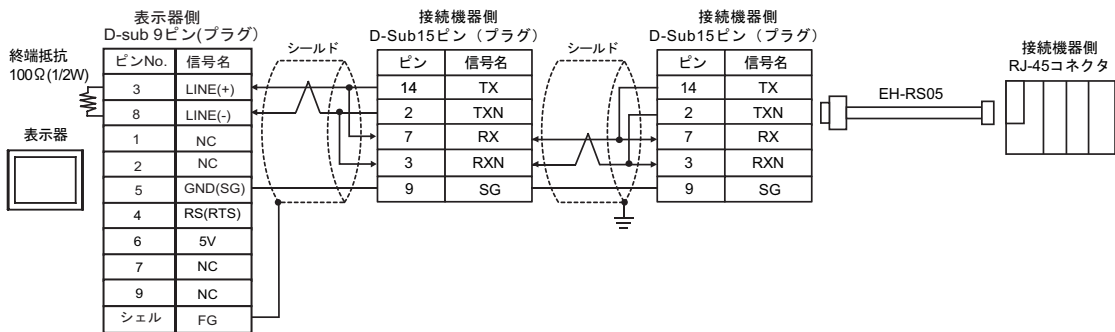
ディップスイッチ	設定内容
1	OFF
2	OFF
3	ON
4	ON

5H)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合

**重要**

- 表示器の 5V 出力 (6 番ピン) は Siemens 製 PROFIBUS コネクタ用電源です。その他の機器の電源には使用できません。

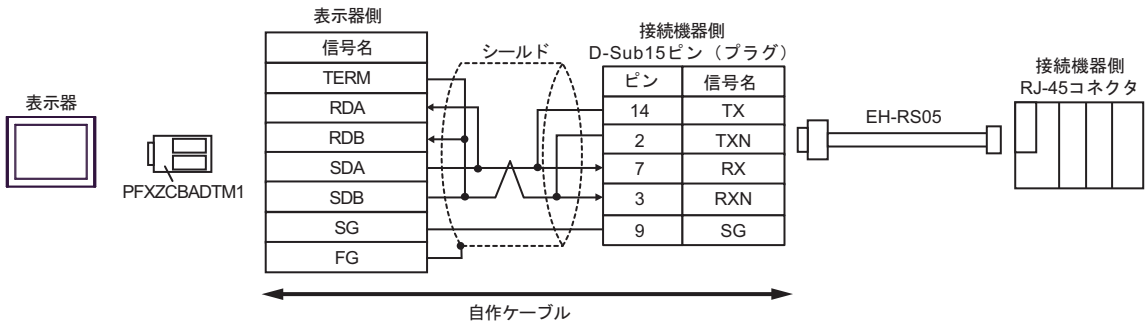
**MEMO**

- GP-4107 の COM では SG と FG が絶縁されています。

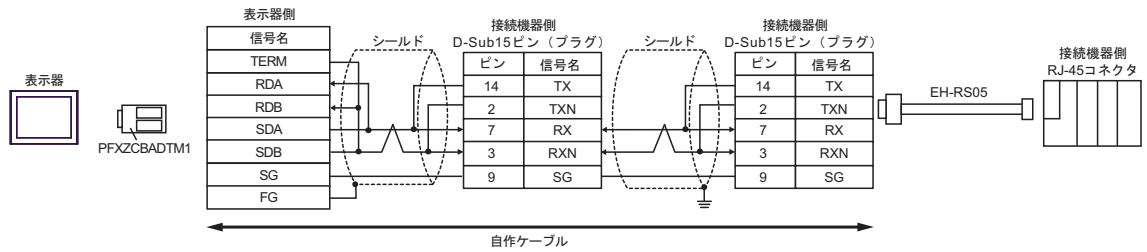


5I)

- 1 : 1 接続の場合

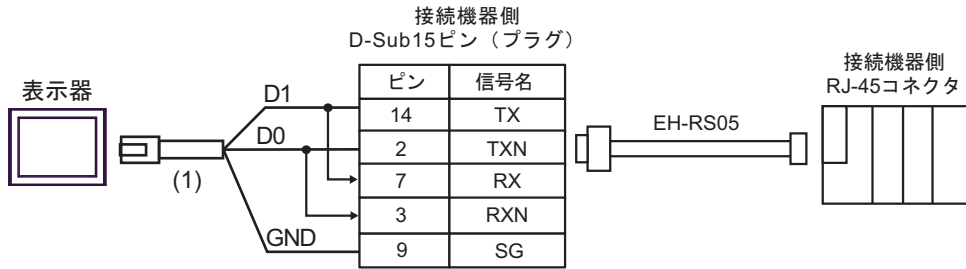


- 1 : n 接続の場合

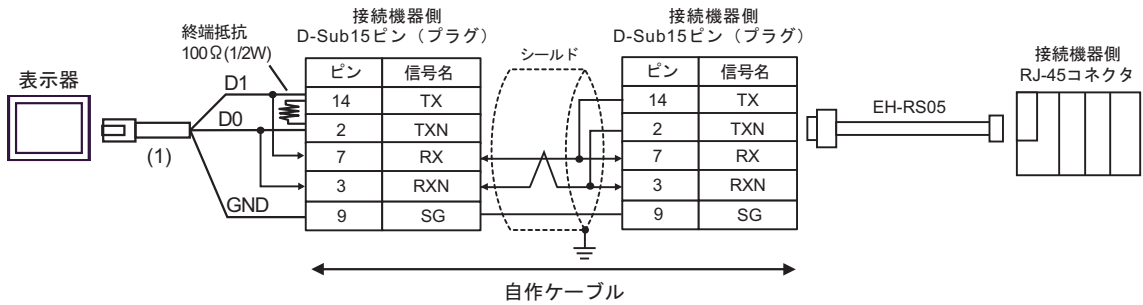


5J)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合



番号	名称	備考
(1)	(株) デジタル製 RJ45 RS-485 ケーブル (5m) PFXZLMCBJR81	


結線図 6

表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP3000 <sup>※1</sup> (COM1) AGP-3302B (COM2) GP-4*01TM (COM1) ST <sup>※2</sup> (COM2) LT3000 (COM1) IPC <sup>※3</sup>	6A	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長： 500m 以内
	6B	自作ケーブル	
GP3000 <sup>※4</sup> (COM2)	6C	(株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長： 500m 以内
	6D	(株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + 自作ケーブル	
GP-4106 (COM1)	6E	自作ケーブル	ケーブル長： 500m 以内
GP4000 <sup>※5</sup> (COM2) GP-4201T (COM1) SP5000 (COM1/2)	6F	(株) デジタル製 RS-422 端子台変換アダプタ PFXZCBADTM1 <sup>※6</sup> + 自作ケーブル	ケーブル長： 500m 以内
	6B	自作ケーブル	

※1 AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

※2 AST-3211A および AST-3302B を除く全 ST 機種

※3 RS-422/485(4 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。

 ■ IPC の COM ポートについて (7 ページ)

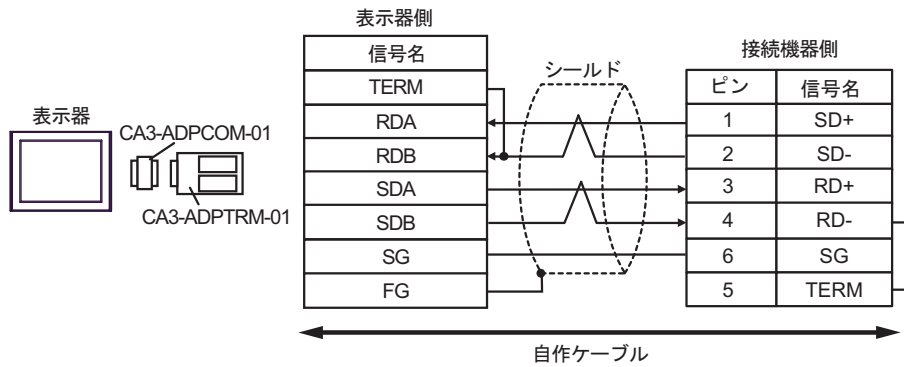
※4 GP-3200 シリーズおよび AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

※5 GP-4100 シリーズ、GP-4\*01TM、GP-4201T および GP-4\*03T を除く全 GP4000 機種

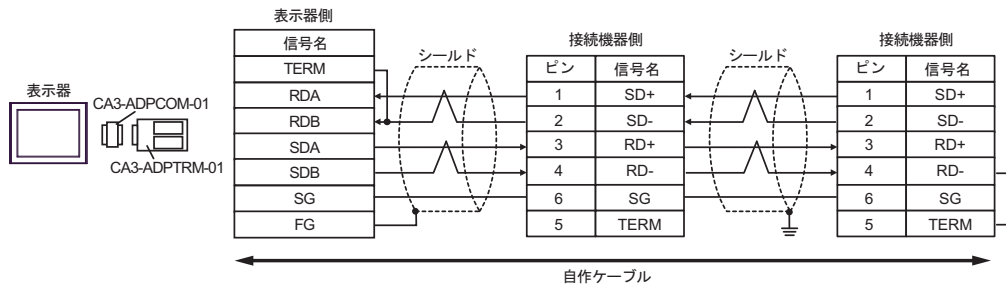
※6 RS-422 端子台変換アダプタの代わりにコネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01) を使用する  
場合、6A の結線図を参照してください。

6A)

- 1 : 1 接続の場合

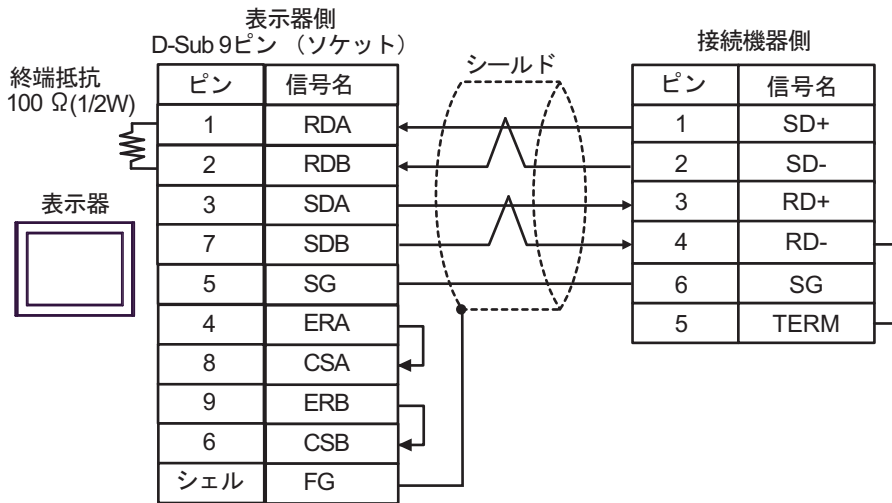


- 1 : n 接続の場合

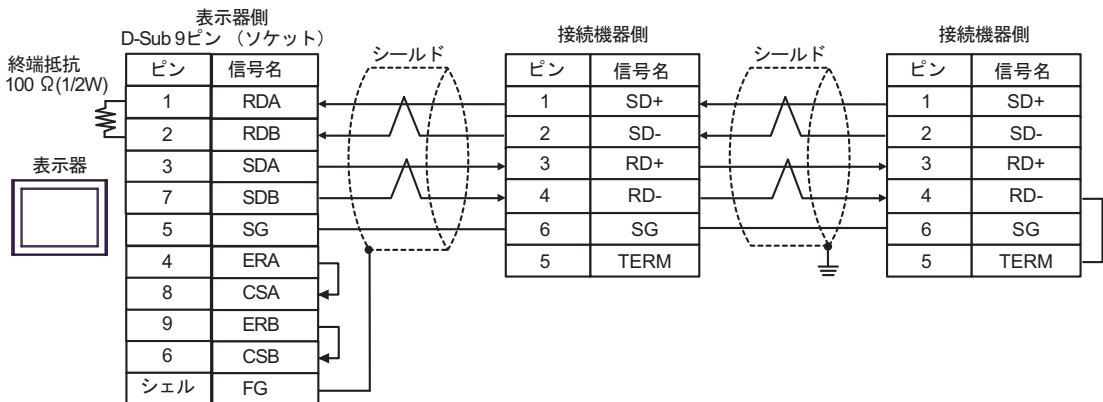


6B)

- 1 : 1 接続の場合

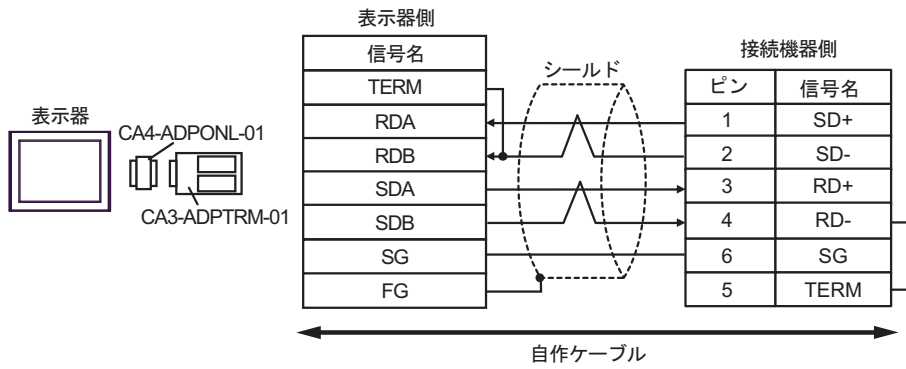


- 1 : n 接続の場合

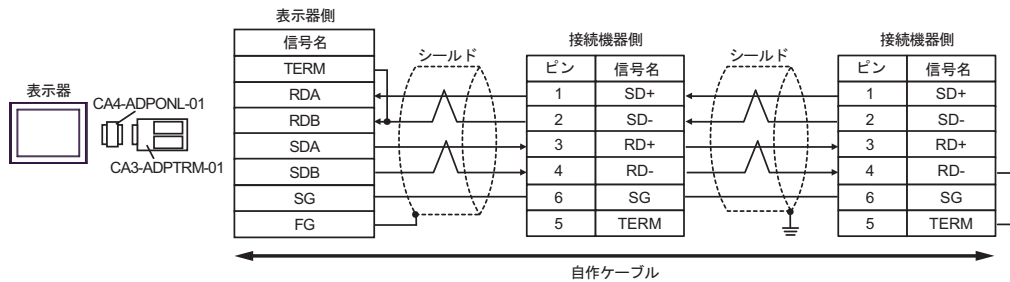


6C)

- 1 : 1 接続の場合

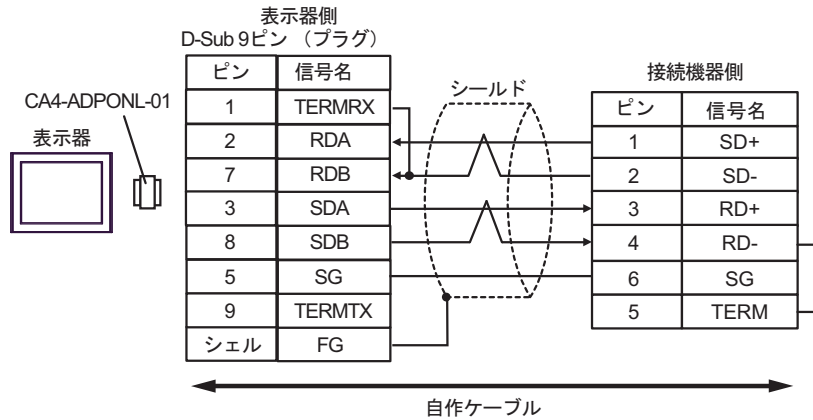


- 1 : n 接続の場合

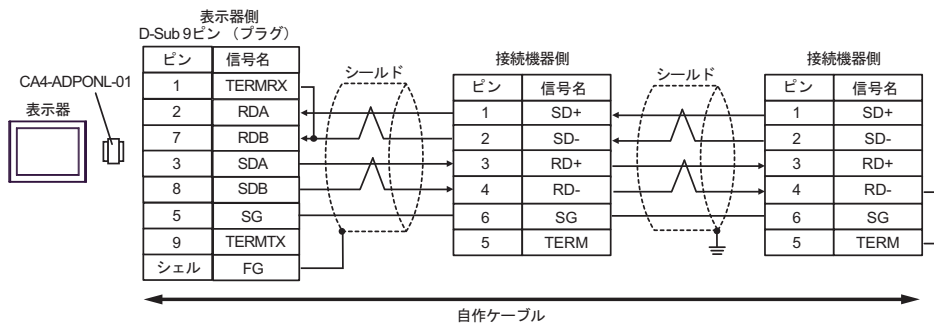


6D)

- 1 : 1 接続の場合

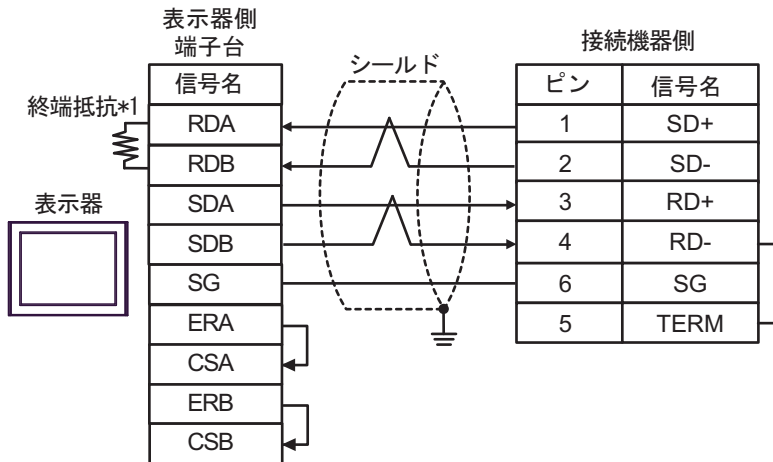


- 1 : n 接続の場合

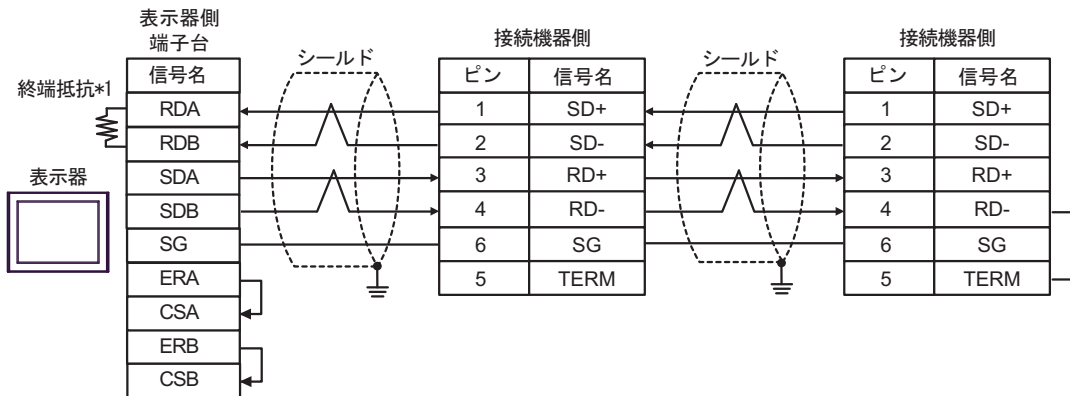


6E)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合



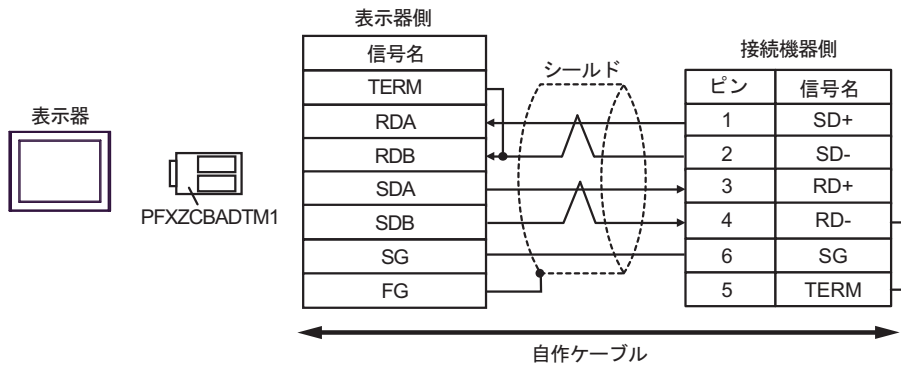
\*1 表示器に内蔵している抵抗を終端抵抗として使用します。表示器背面のディップスイッチを以下のように設定してください。

ディップスイッチ	設定内容
1	OFF
2	OFF
3	ON
4	ON

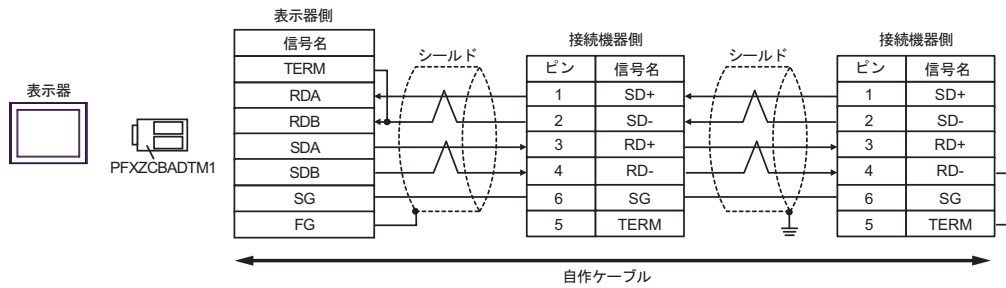


6F)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合



結線図 7

表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP3000 <sup>※1</sup> (COM1) AGP-3302B (COM2) GP-4*01TM (COM1) ST <sup>※2</sup> (COM2) LT3000 (COM1)	7A	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長： 500m 以内
	7B	自作ケーブル	
GP3000 <sup>※3</sup> (COM2)	7C	(株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長： 500m 以内
	7D	(株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + 自作ケーブル	
IPC <sup>※4</sup>	7E	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長： 500m 以内
	7F	自作ケーブル	
GP-4106 (COM1)	7G	自作ケーブル	ケーブル長： 500m 以内
GP-4107 (COM1) GP-4*03T <sup>※5</sup> (COM2) GP-4203T (COM1)	7H	自作ケーブル	ケーブル長： 500m 以内
GP4000 <sup>※6</sup> (COM2) GP-4201T (COM1) SP5000 (COM1/2)	7I	(株) デジタル製 RS-422 端子台変換アダプタ PFXZCBADTM1 <sup>※7</sup> + 自作ケーブル	ケーブル長： 500m 以内
	7B	自作ケーブル	
LT-4*01TM (COM1) LT-Rear Module (COM1)	7J	(株) デジタル製 RJ45 RS-485 ケーブル (5m) PFXZLMCBJR81	ケーブル長： 200m 以内

※1 AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

※2 AST-3211A および AST-3302B を除く全 ST 機種

※3 GP-3200 シリーズおよび AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

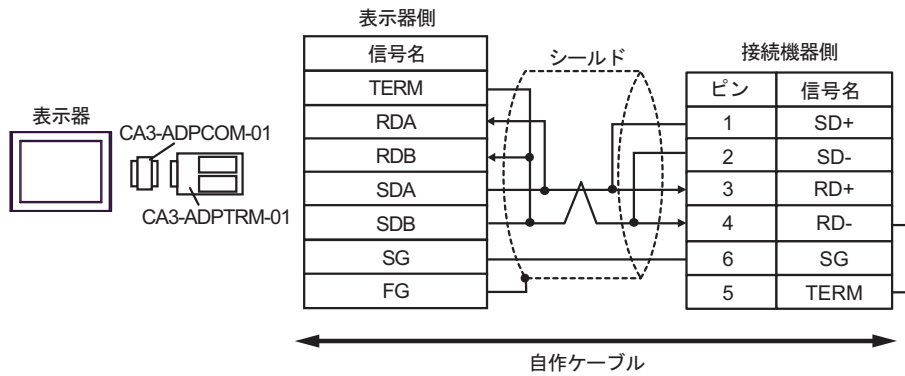
※4 RS-422/485(2 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。

☞ ■ IPC の COM ポートについて (7 ページ)

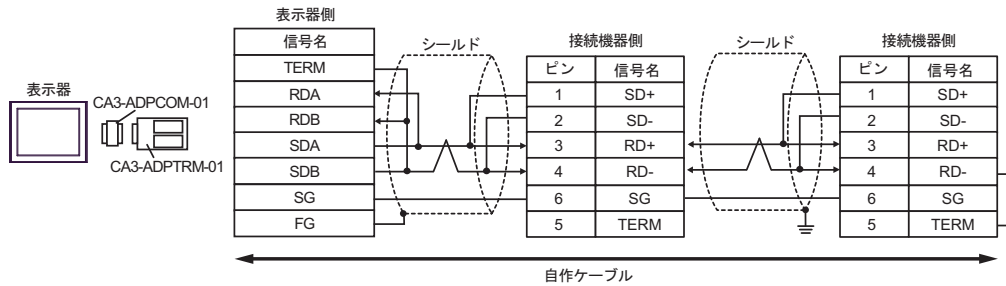
- ※ 5 GP-4203T を除く
- ※ 6 GP-4100 シリーズ、GP-4\*01TM、GP-4201T および GP-4\*03T を除く全 GP4000 機種
- ※ 7 RS-422 端子台変換アダプタの代わりにコネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01) を使用する  
場合、7A の結線図を参照してください。

7A)

- 1 : 1 接続の場合

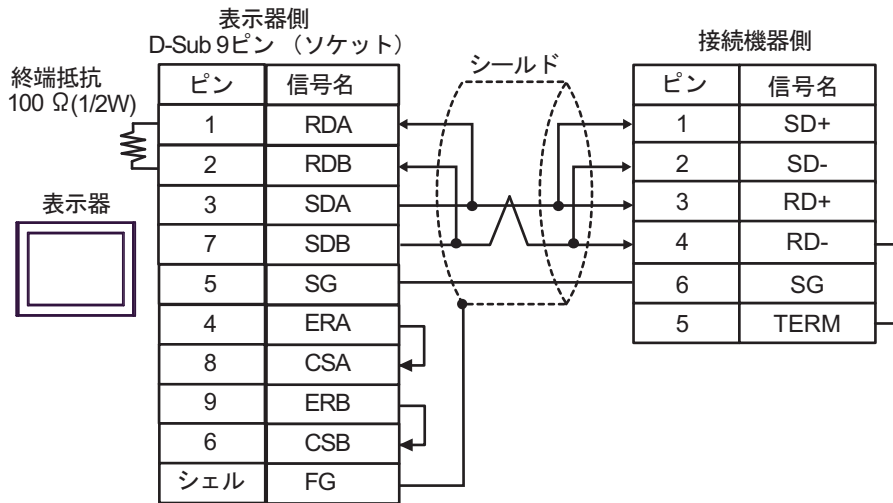


- 1 : n 接続の場合

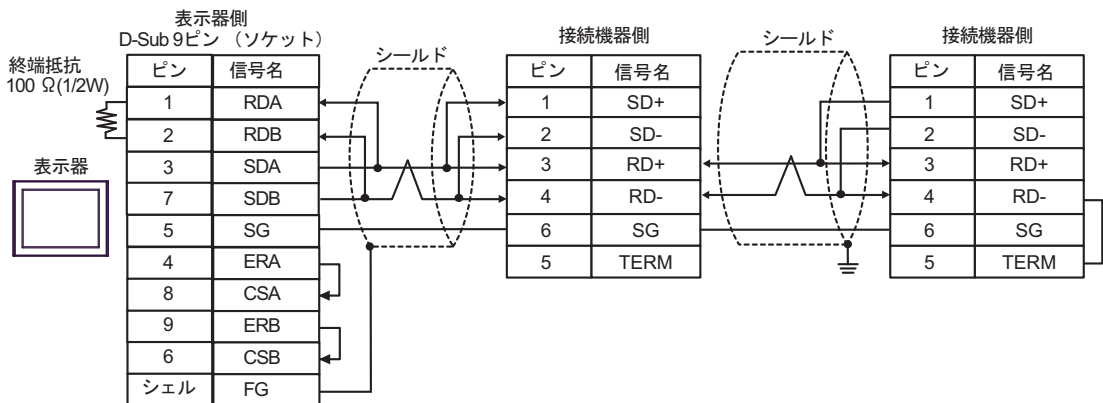


7B)

- 1 : 1 接続の場合

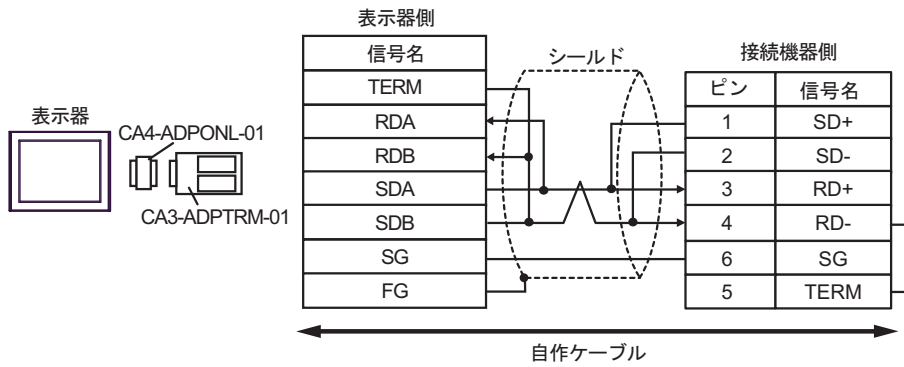


- 1 : n 接続の場合

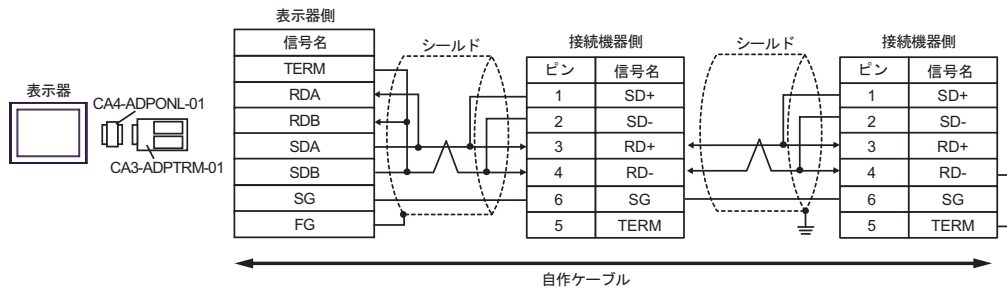


7C)

- 1 : 1 接続の場合

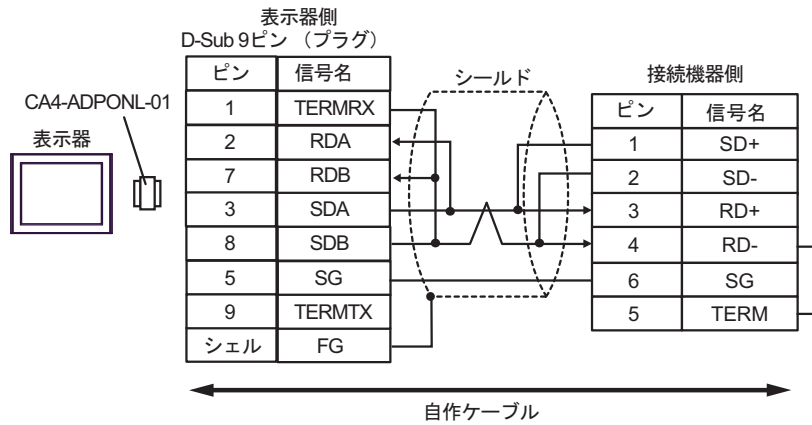


- 1 : n 接続の場合

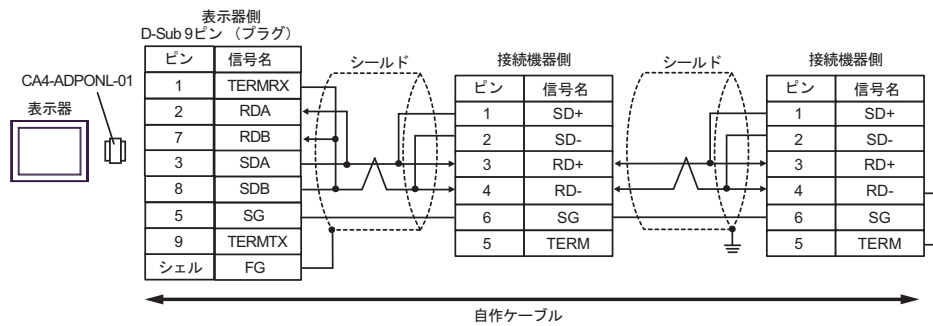


7D)

- 1 : 1 接続の場合

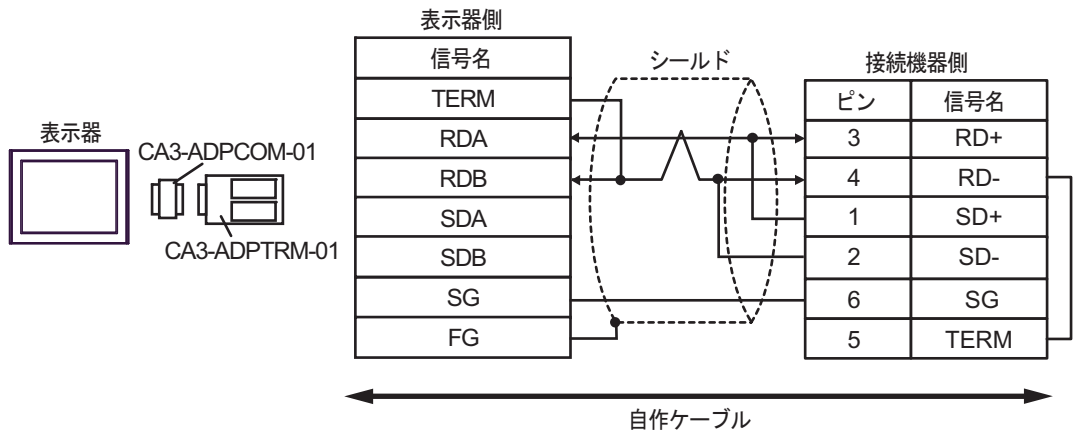


- 1 : n 接続の場合

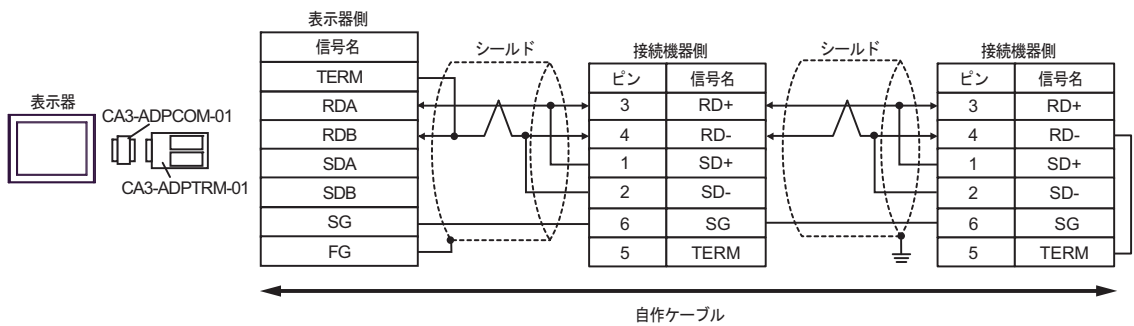


7E)

- 1 : 1 接続の場合



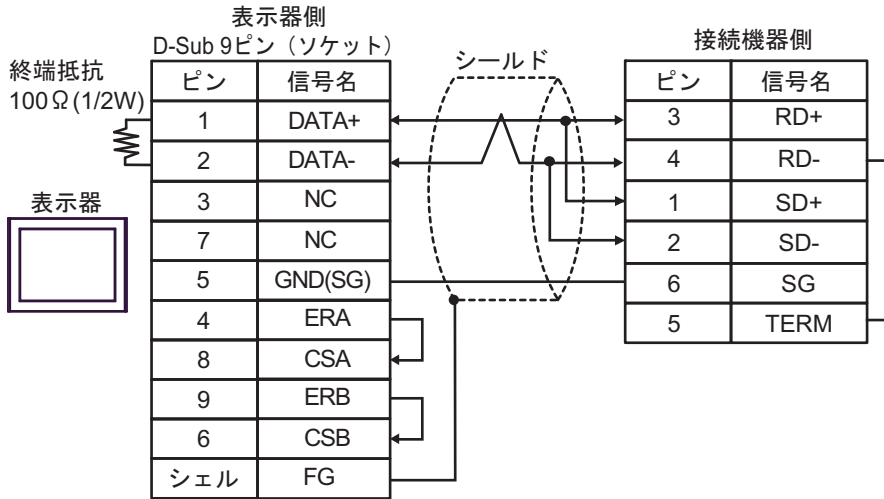
- 1 : n 接続の場合



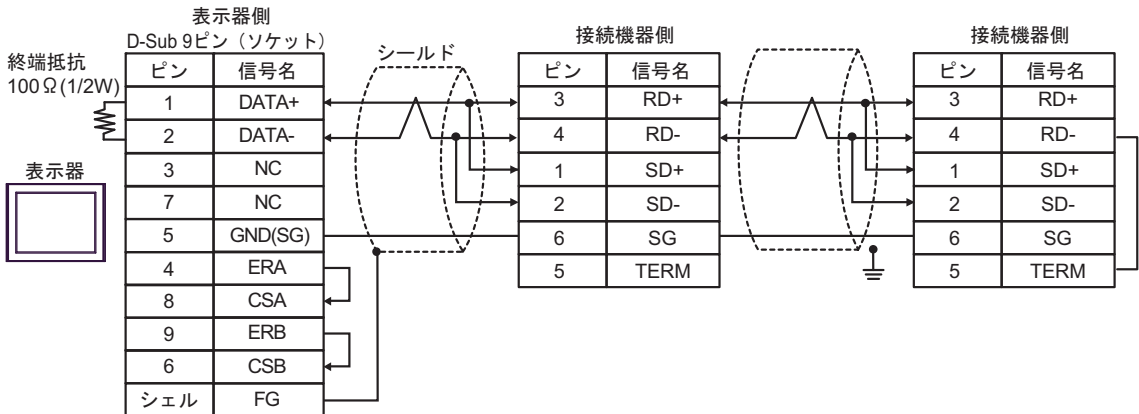


7F)

- 1 : 1 接続の場合

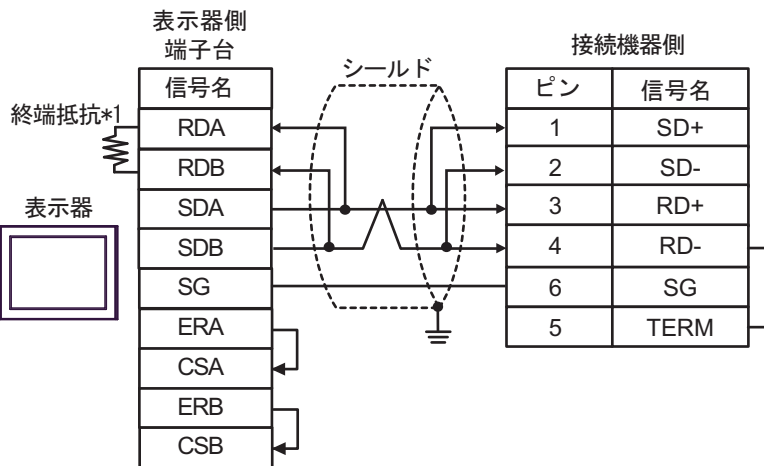


- 1 : n 接続の場合

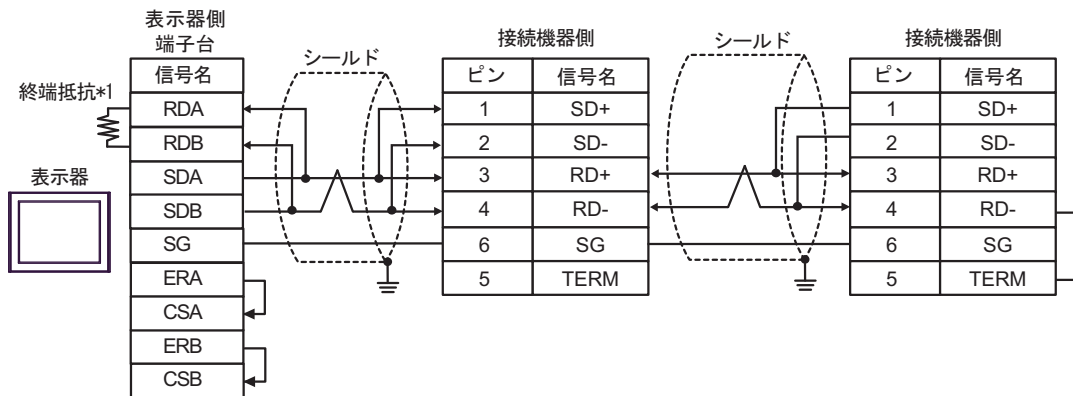


7G)

- 1:1 接続の場合



- 1:n 接続の場合

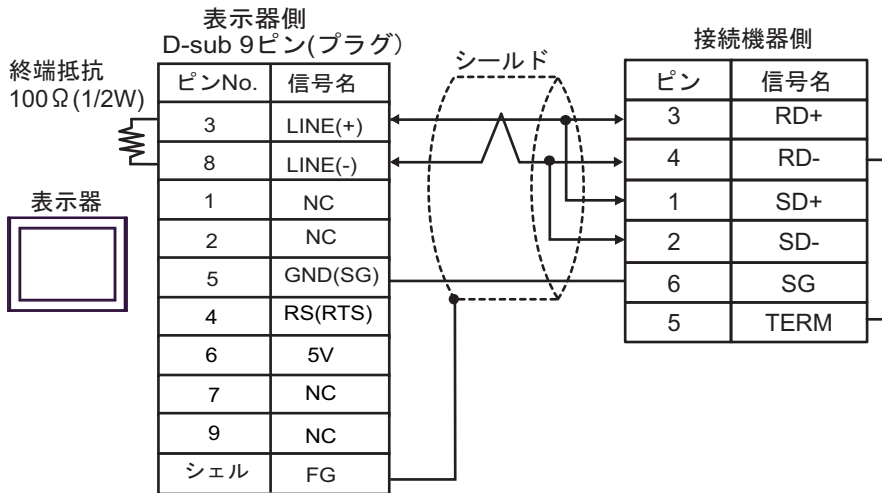


- \*1 表示器に内蔵している抵抗を終端抵抗として使用します。表示器背面のディップスイッチを以下のように設定してください。

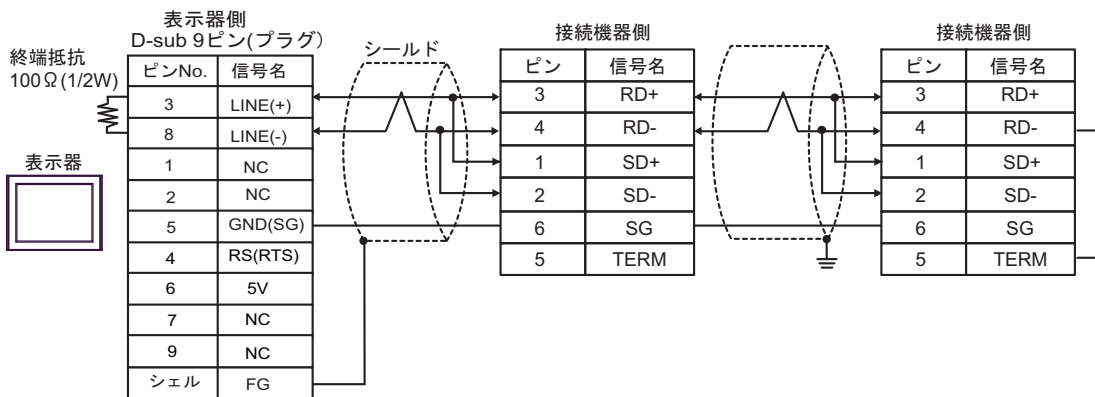
ディップスイッチ	設定内容
1	OFF
2	OFF
3	ON
4	ON

7H)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合

**重要**

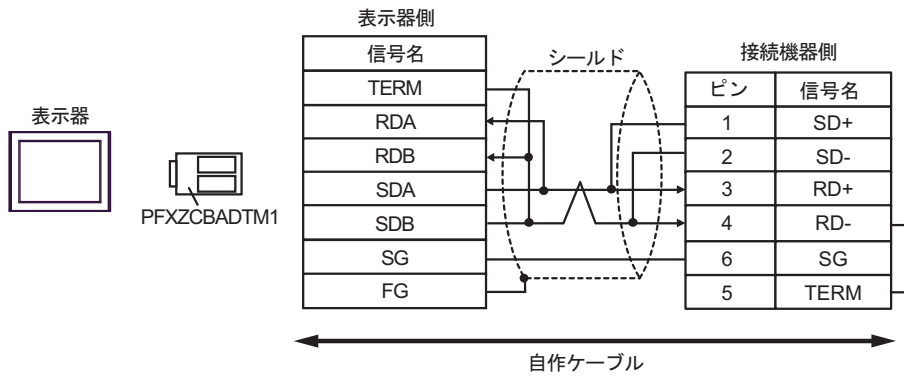
- 表示器の 5V 出力 (6 番ピン) は Siemens 製 PROFIBUS コネクタ用電源です。その他の機器の電源には使用できません。

**MEMO**

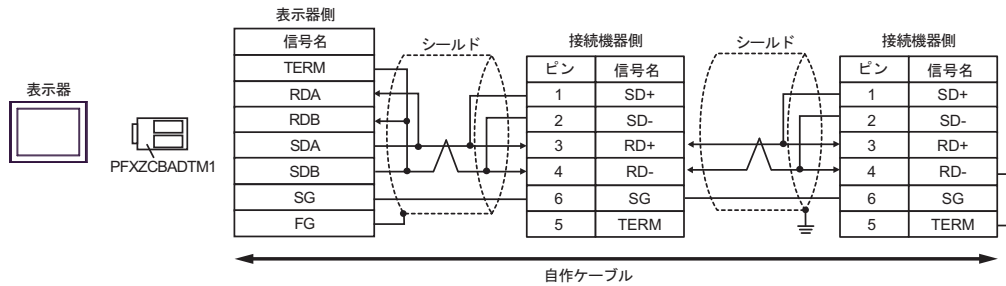
- GP-4107 の COM では SG と FG が絶縁されています。

7I)

- 1 : 1 接続の場合

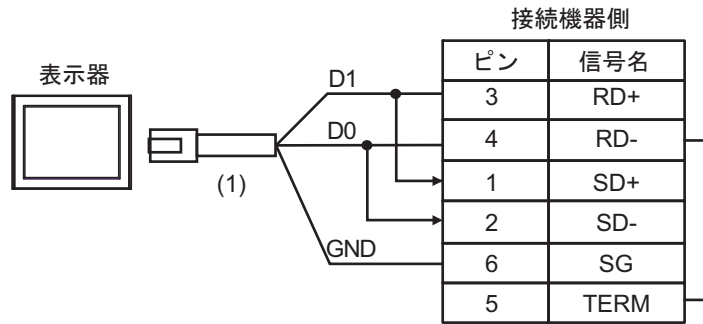


- 1 : n 接続の場合

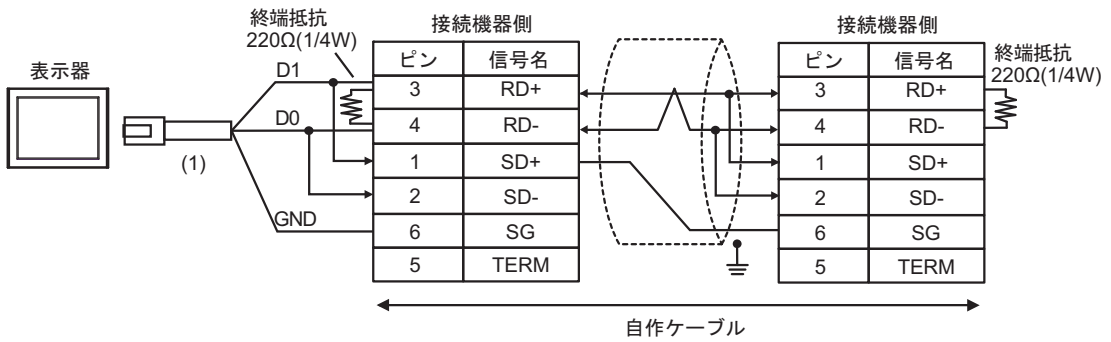


7J)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合



番号	名称	備考
(1)	(株) デジタル製 RJ45 RS-485 ケーブル (5m) PFXZLMCBRJ81	

結線図 8

表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP3000 <sup>※1</sup> (COM1) AGP-3302B (COM2) GP-4*01TM (COM1) ST <sup>※2</sup> (COM2) LT3000 (COM1) IPC <sup>※3</sup>	8A	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長： 250m 以内
	8B	自作ケーブル	
GP3000 <sup>※4</sup> (COM2)	8C	(株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長： 250m 以内
	8D	(株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + 自作ケーブル	
GP-4106 (COM1)	8E	自作ケーブル	ケーブル長： 250m 以内
GP4000 <sup>※5</sup> (COM2) GP-4201T (COM1) SP5000 (COM1/2)	8F	(株) デジタル製 RS-422 端子台変換アダプタ PFXZCBADTM1 <sup>※6</sup> + 自作ケーブル	ケーブル長： 250m 以内
	8B	自作ケーブル	

※1 AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

※2 AST-3211A および AST-3302B を除く全 ST 機種

※3 RS-422/485(4 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。

☞ ■ IPC の COM ポートについて (7 ページ)

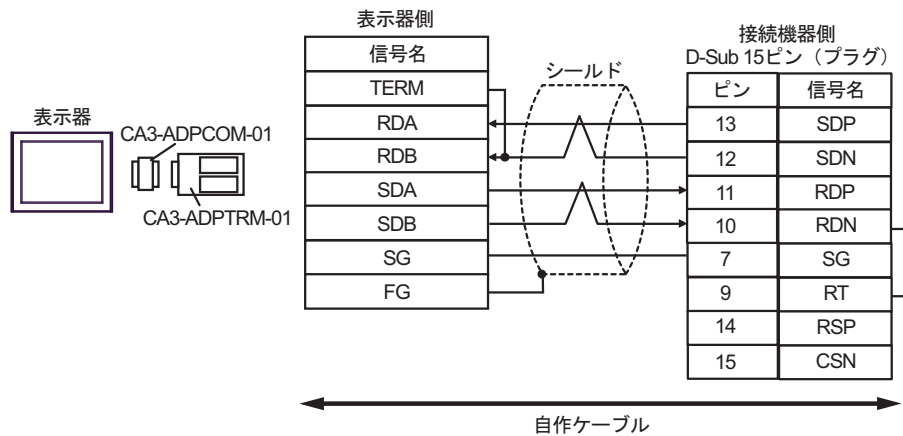
※4 GP-3200 シリーズおよび AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

※5 GP-4100 シリーズ、GP-4\*01TM、GP-4201T および GP-4\*03T を除く全 GP4000 機種

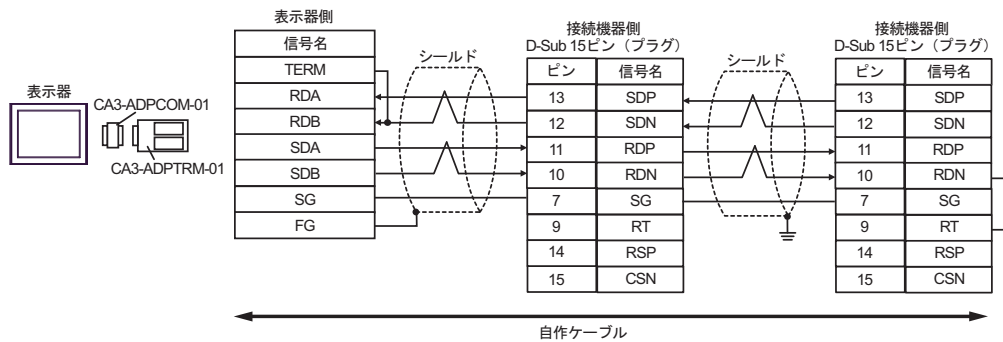
※6 RS-422 端子台変換アダプタの代わりにコネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01) を使用する  
場合、8A の結線図を参照してください。

8A)

- 1 : 1 接続の場合

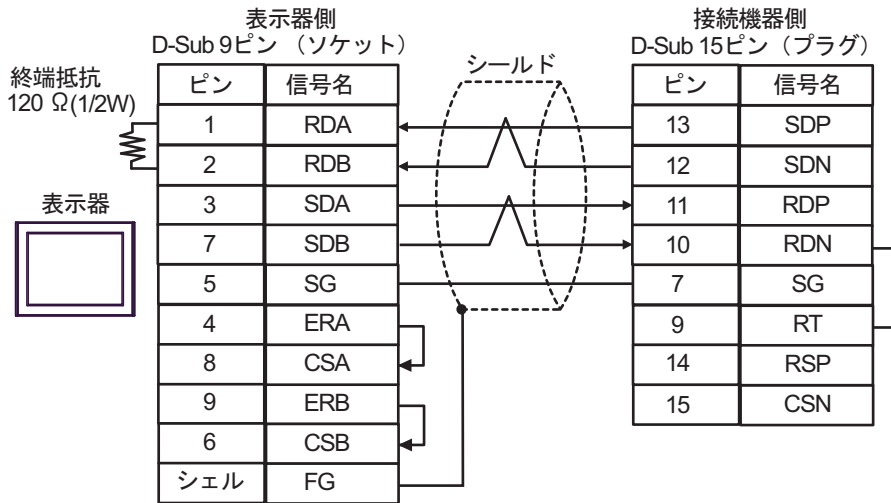


- 1 : n 接続の場合

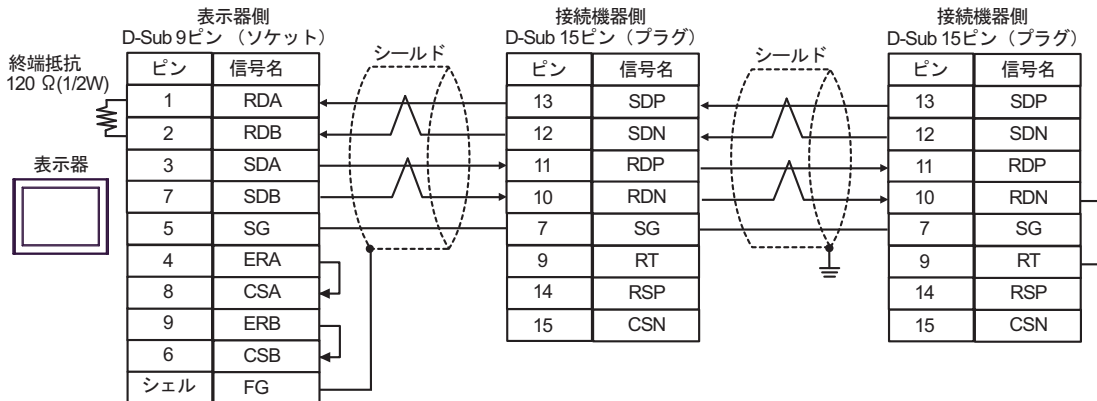


8B)

- 1 : 1 接続の場合



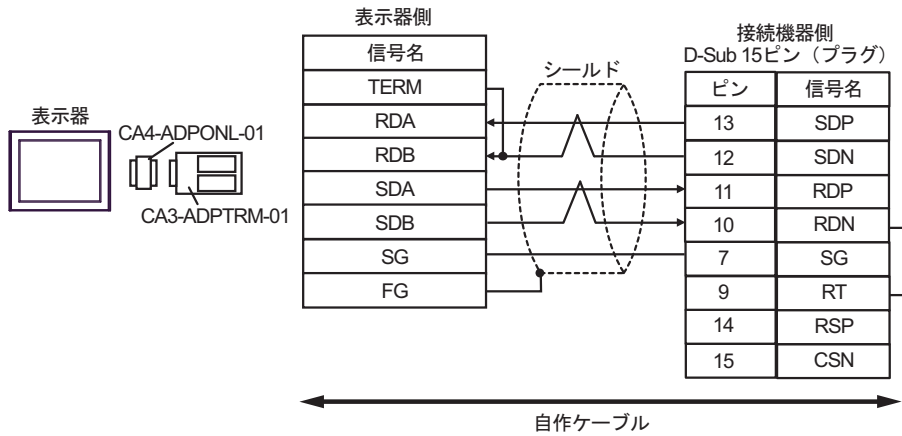
- 1 : n 接続の場合



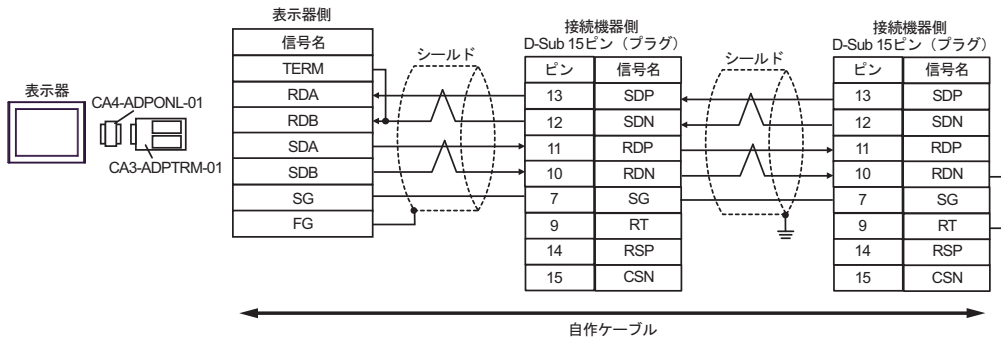


8C)

- 1 : 1 接続の場合

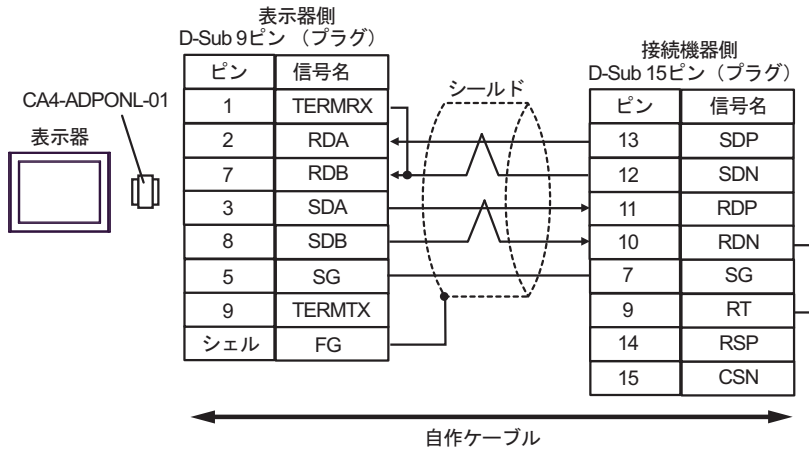


- 1 : n 接続の場合

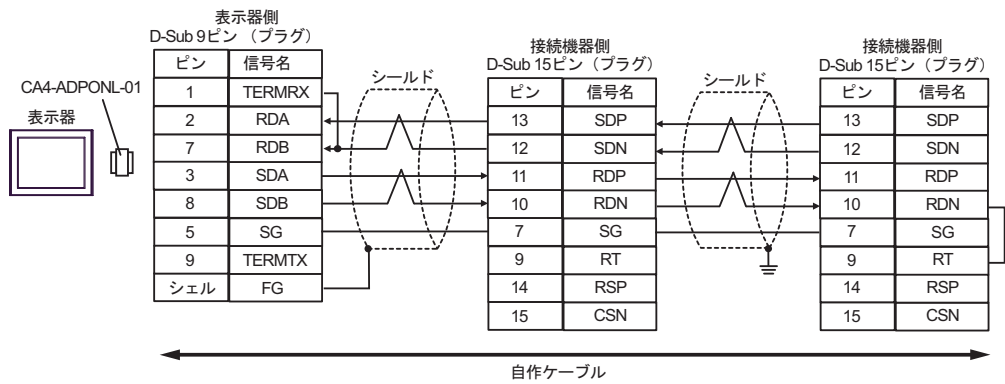


8D)

- 1 : 1 接続の場合

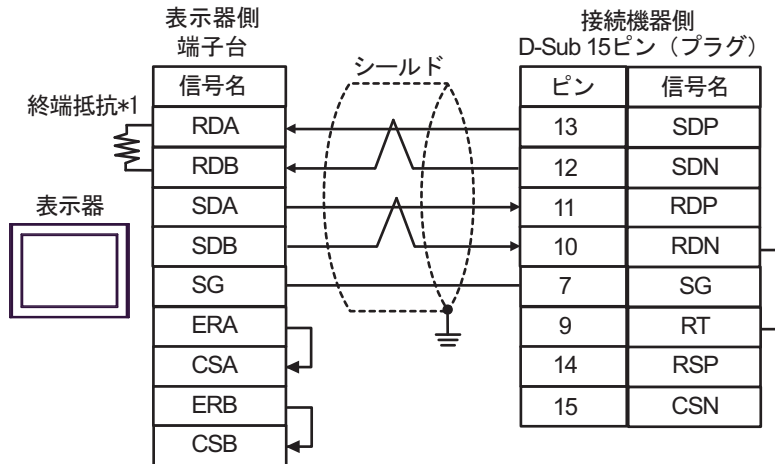


- 1 : n 接続の場合

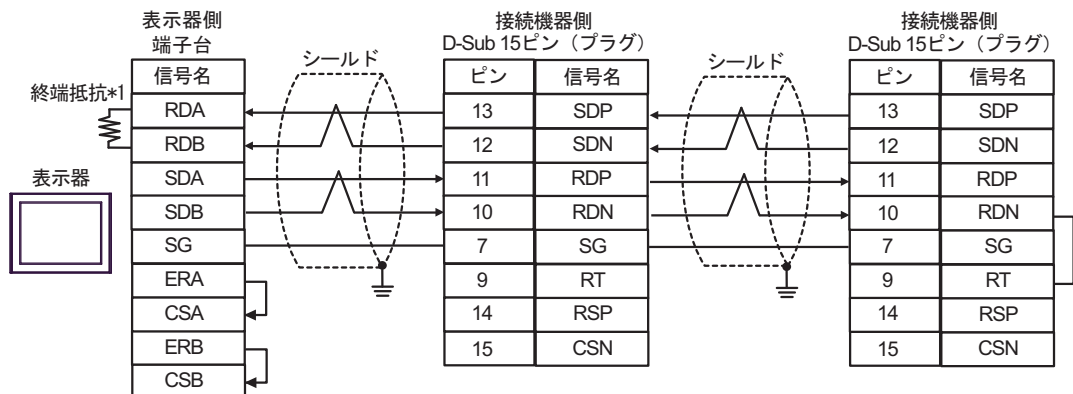


8E)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合

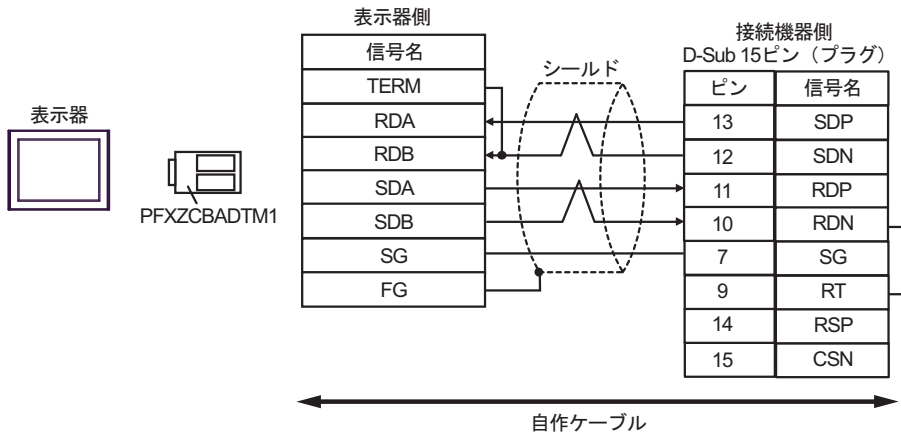


- \*1 表示器に内蔵している抵抗を終端抵抗として使用します。表示器背面のディップスイッチを以下のように設定してください。

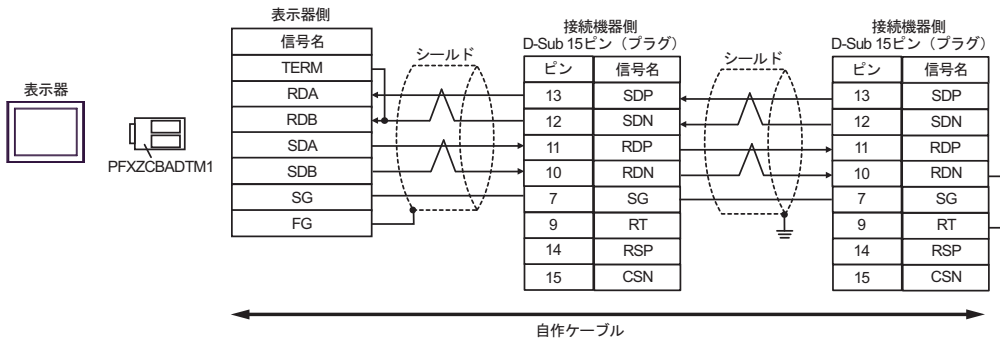
ディップスイッチ	設定内容
1	OFF
2	OFF
3	ON
4	ON

8F)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合



結線図 9

表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP3000 <sup>※1</sup> (COM1) AGP-3302B (COM2) GP-4*01TM (COM1) ST <sup>※2</sup> (COM2) LT3000 (COM1)	9A	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長： 250m 以内
	9B	自作ケーブル	
GP3000 <sup>※3</sup> (COM2)	9C	(株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長： 250m 以内
	9D	(株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + 自作ケーブル	
IPC <sup>※4</sup>	9E	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長： 250m 以内
	9F	自作ケーブル	
GP-4106 (COM1)	9G	自作ケーブル	ケーブル長： 250m 以内
GP-4107 (COM1) GP-4*03T <sup>※5</sup> (COM2) GP-4203T (COM1)	9H	自作ケーブル	ケーブル長： 250m 以内
GP4000 <sup>※6</sup> (COM2) GP-4201T (COM1) SP5000 (COM1/2)	9I	(株) デジタル製 RS-422 端子台変換アダプタ PFXZCBADTM1 <sup>※7</sup> + 自作ケーブル	ケーブル長： 250m 以内
	9B	自作ケーブル	
LT-4*01TM (COM1) LT-Rear Module (COM1)	9J	(株) デジタル製 RJ45 RS-485 ケーブル (5m) PFXZLMCBJR81	ケーブル長： 200m 以内

※1 AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

※2 AST-3211A および AST-3302B を除く全 ST 機種

※3 GP-3200 シリーズおよび AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

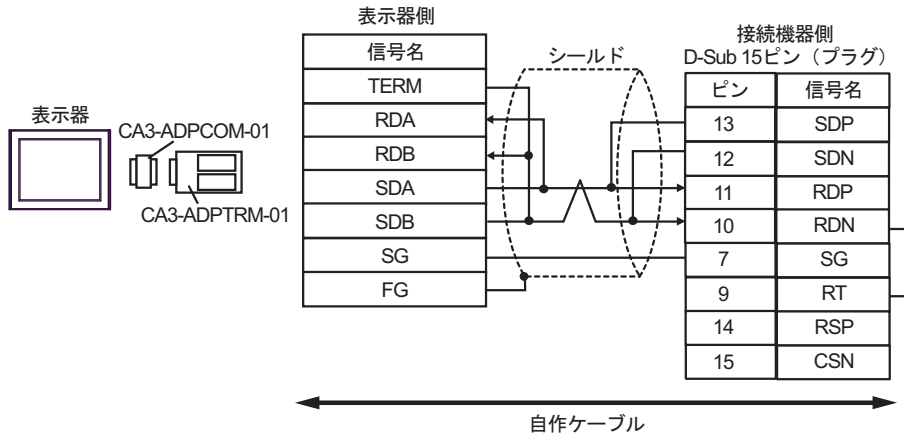
※4 RS-422/485(2 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。

☞ ■ IPC の COM ポートについて (7 ページ)

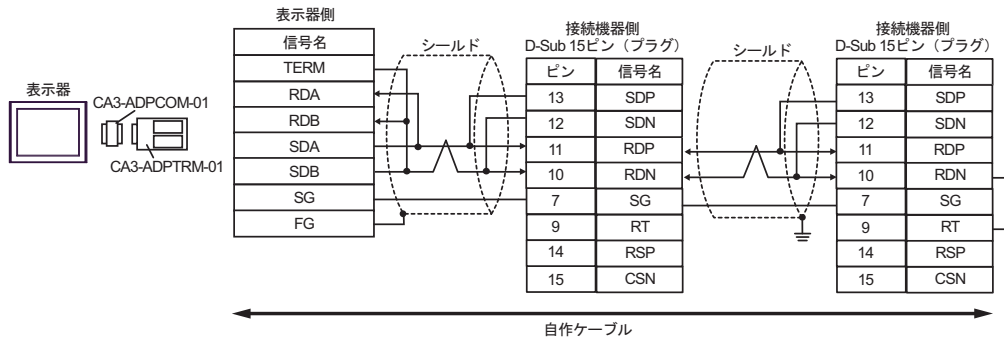
- ※ 5 GP-4203T を除く
- ※ 6 GP-4100 シリーズ、GP-4\*01TM、GP-4201T および GP-4\*03T を除く全 GP4000 機種
- ※ 7 RS-422 端子台変換アダプタの代わりにコネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01) を使用する  
場合、9A の結線図を参照してください。

9A)

- 1 : 1 接続の場合

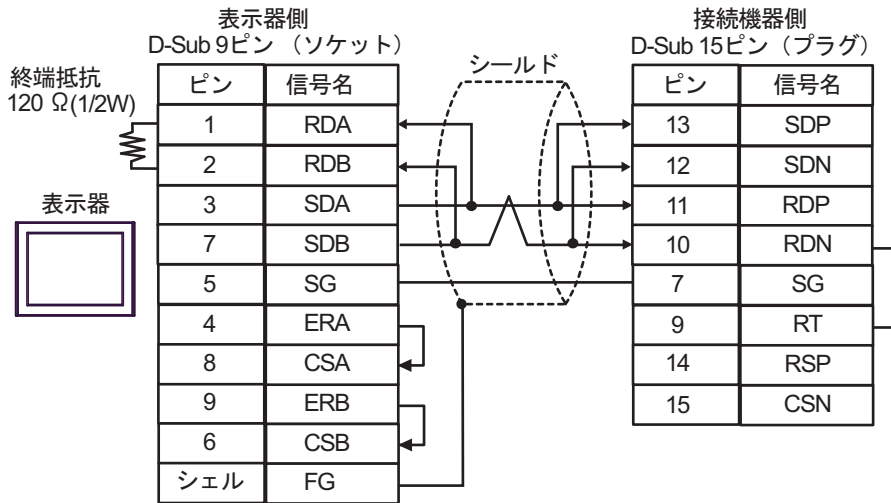


- 1 : n 接続の場合

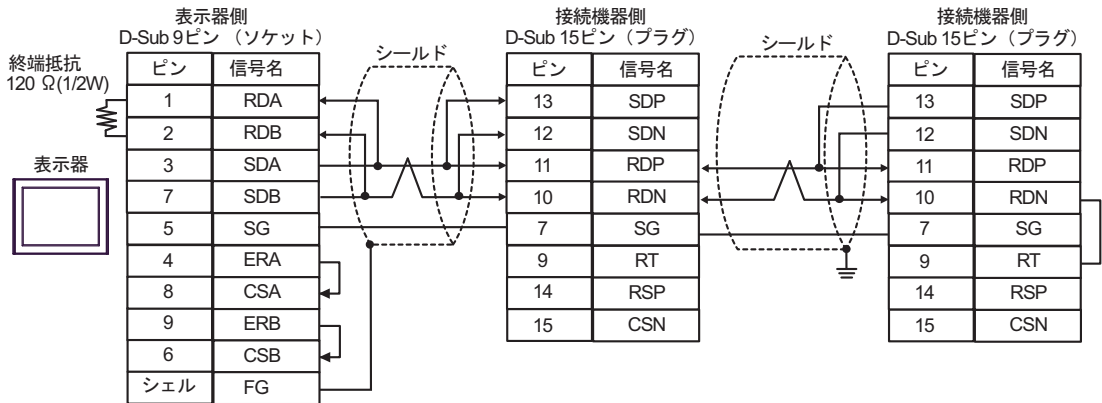


9B)

- 1 : 1 接続の場合



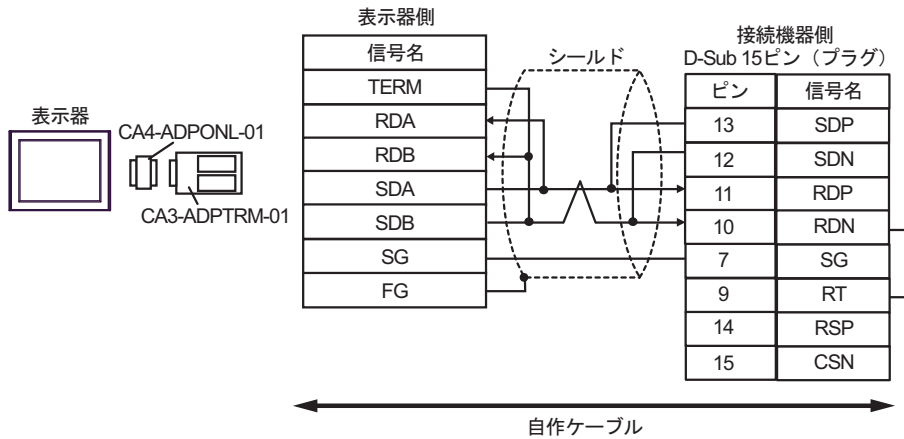
- 1 : n 接続の場合



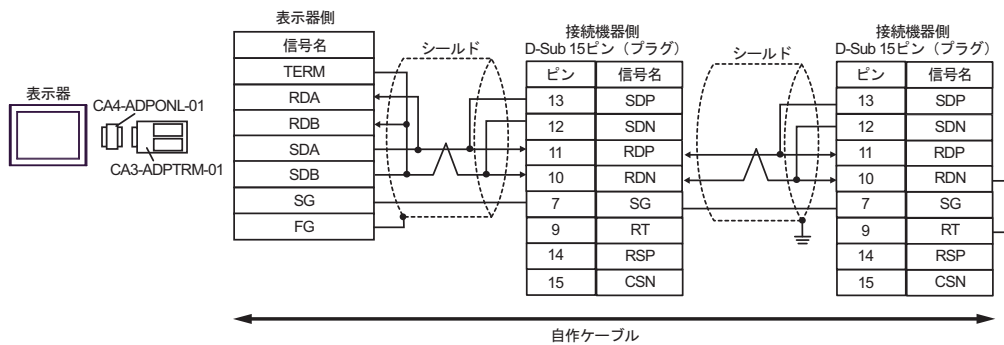


9C)

- 1 : 1 接続の場合

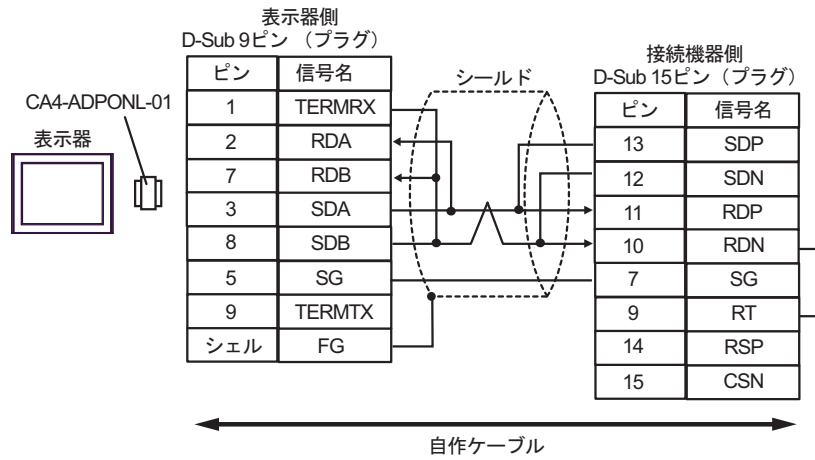


- 1 : n 接続の場合

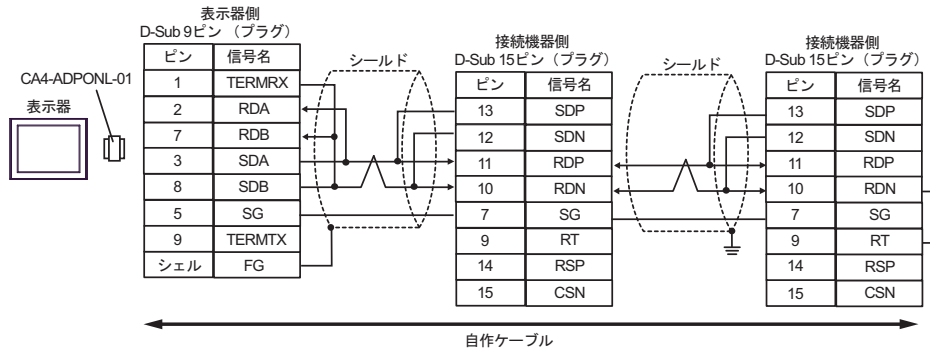


9D)

- 1 : 1 接続の場合

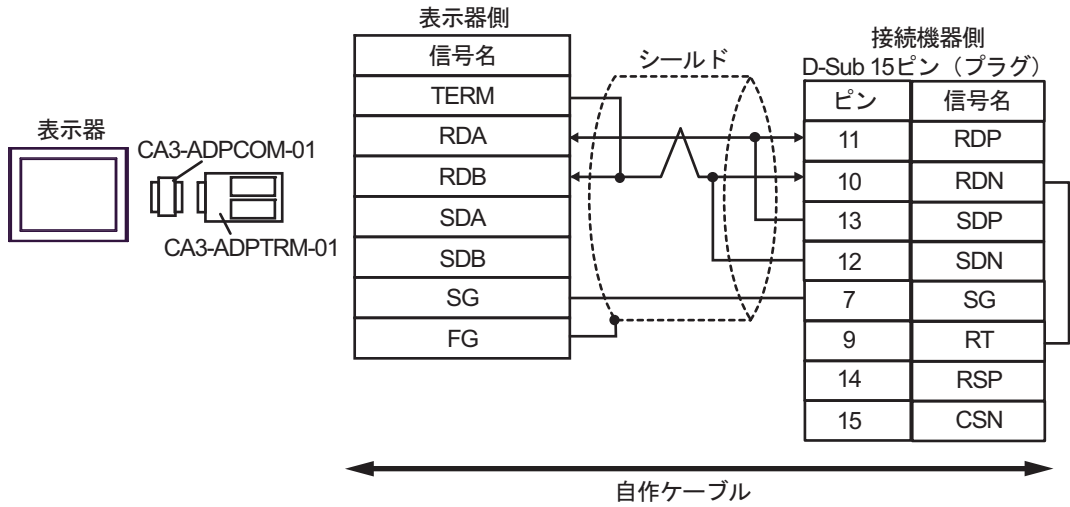


- 1 : n 接続の場合

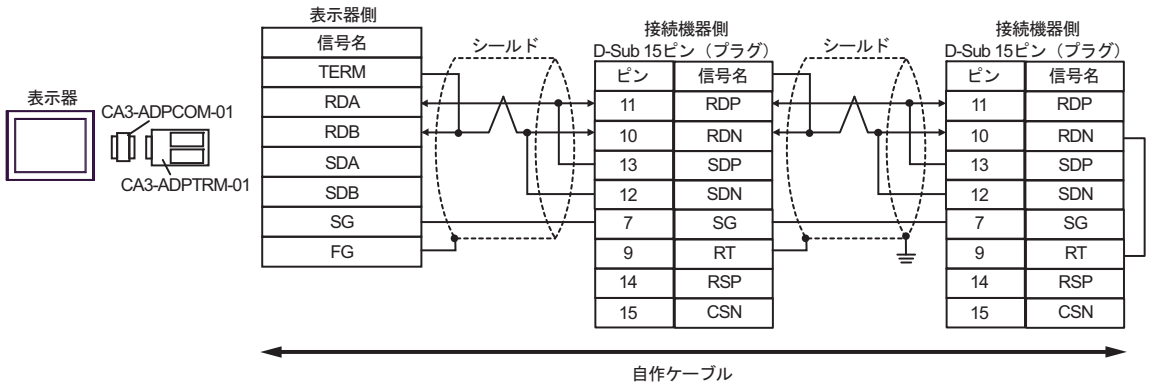


9E)

- 1 : 1 接続の場合

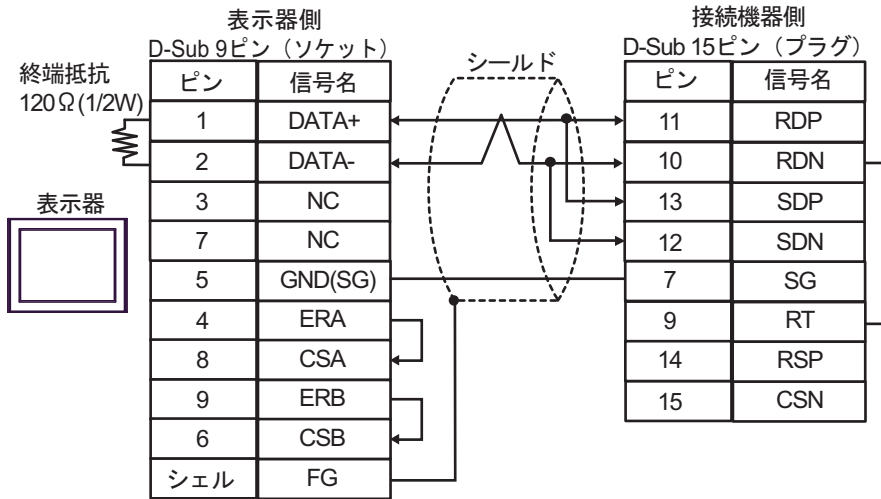


- 1 : n 接続の場合

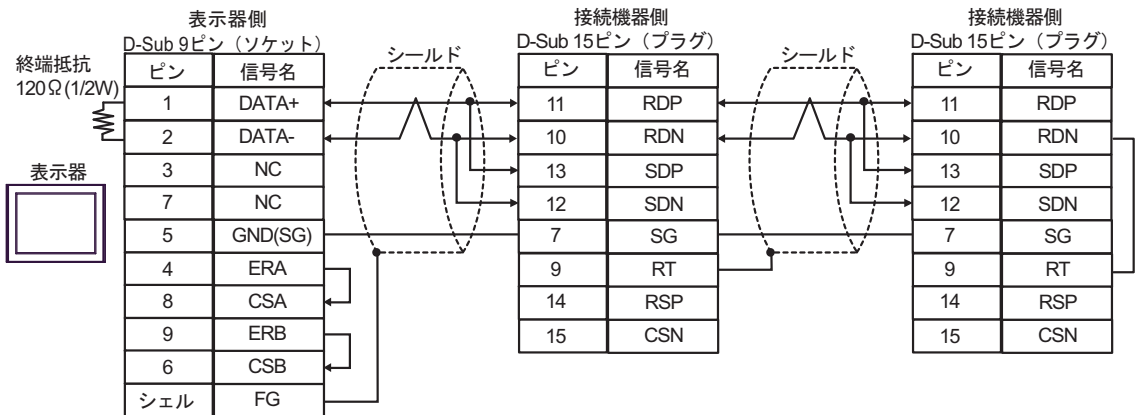


9F)

- 1 : 1 接続の場合

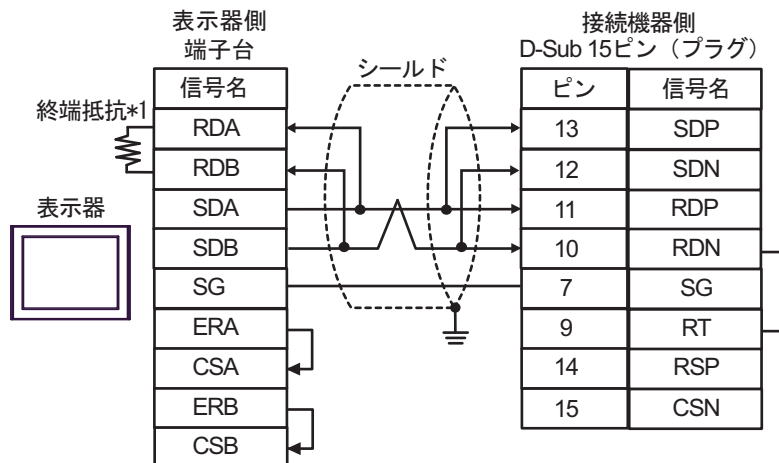


- 1 : n 接続の場合

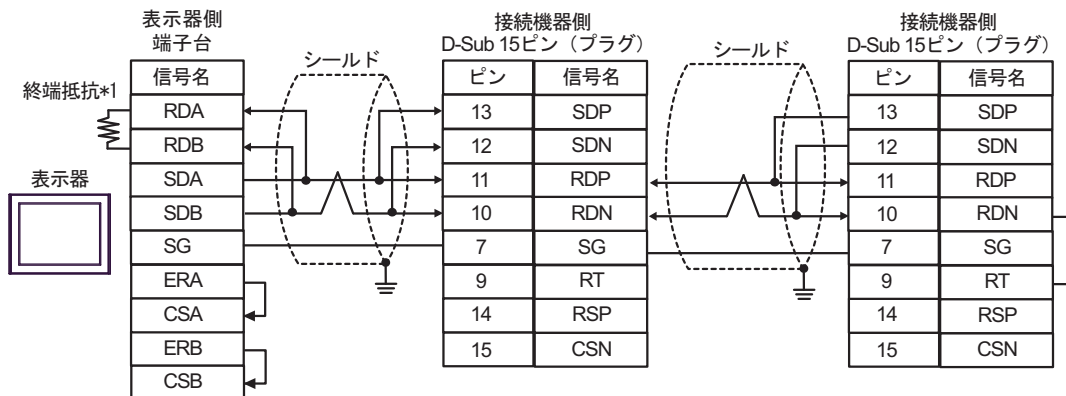


9G)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合

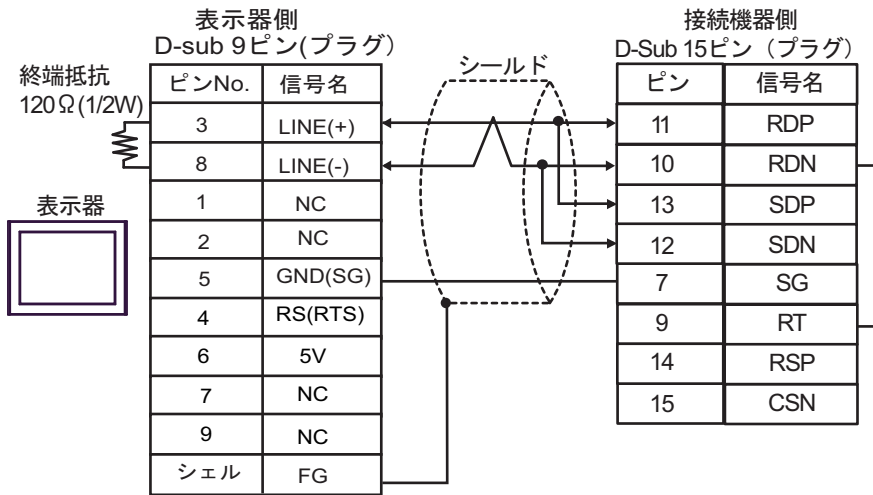


- \*1 表示器に内蔵している抵抗を終端抵抗として使用します。表示器背面のディップスイッチを以下のように設定してください。

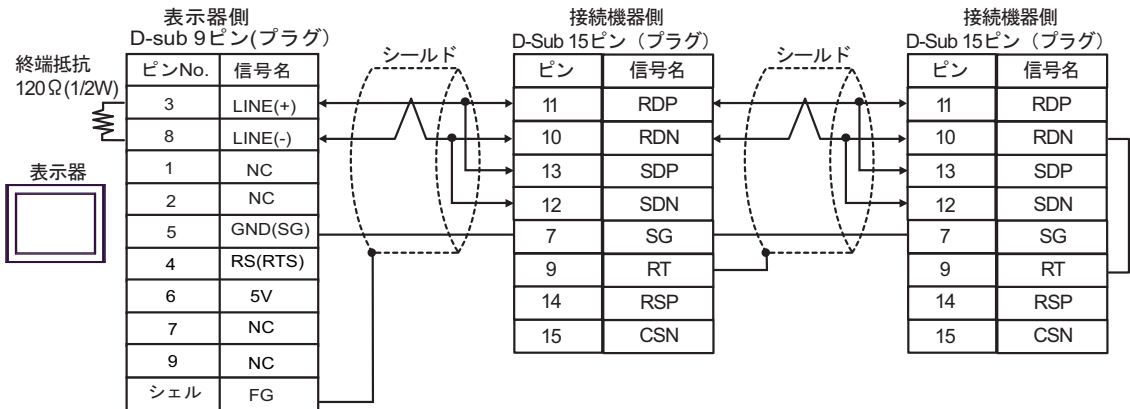
ディップスイッチ	設定内容
1	OFF
2	OFF
3	ON
4	ON

9H)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合

**重要**

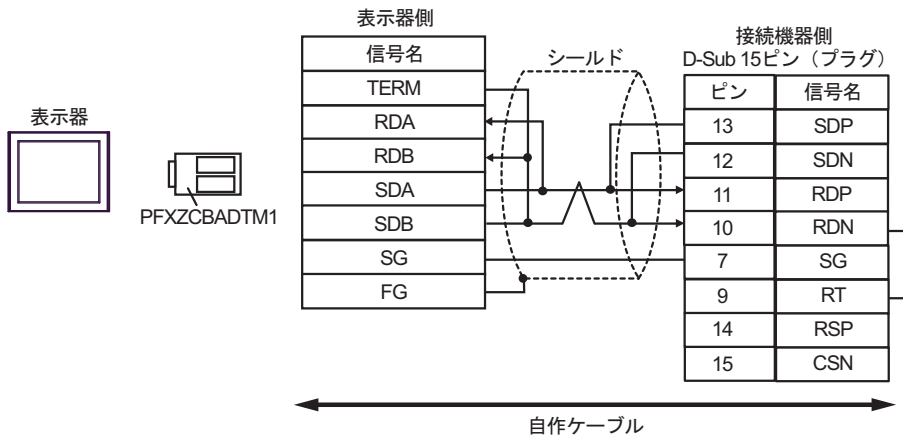
- 表示器の 5V 出力 (6 番ピン) は Siemens 製 PROFIBUS コネクタ用電源です。その他の機器の電源には使用できません。

**MEMO**

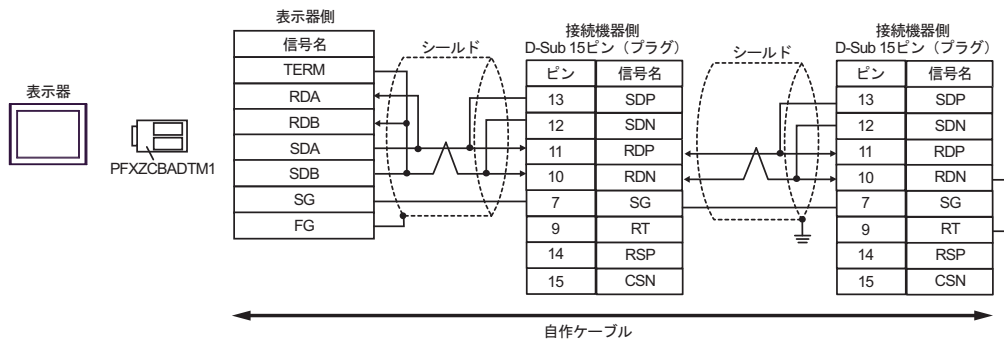
- GP-4107 の COM では SG と FG が絶縁されています。

9I)

- 1 : 1 接続の場合

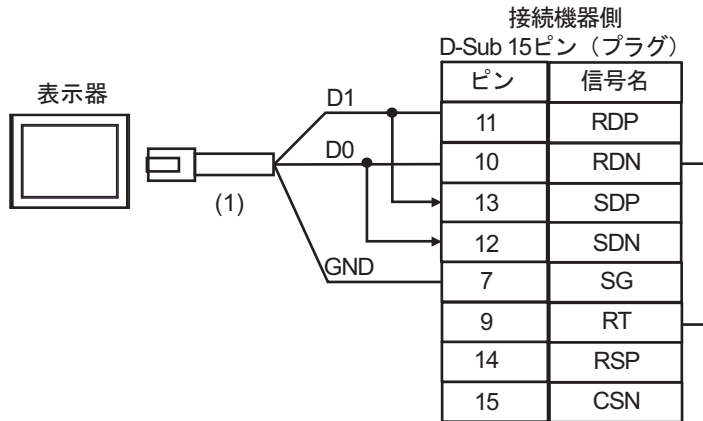


- 1 : n 接続の場合

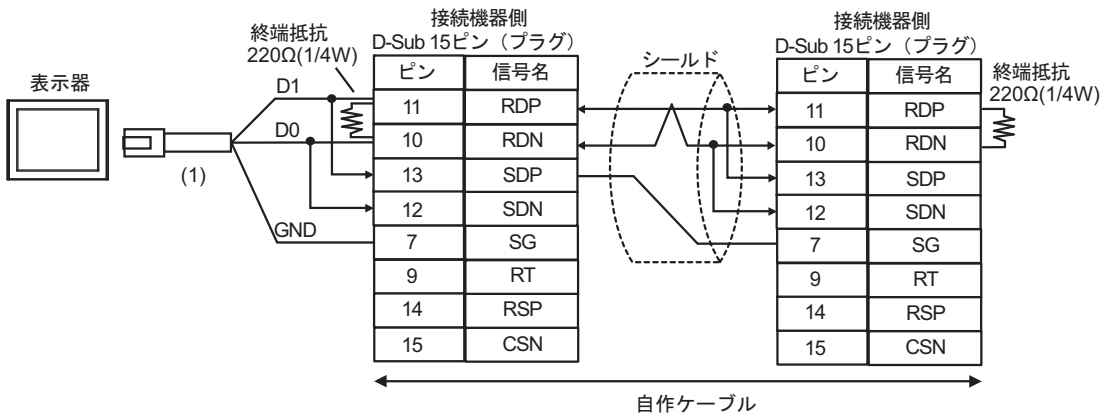


9J)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合



番号	名称	備考
(1)	(株) デジタル製 RJ45 RS-485 ケーブル (5m) PFXZLMCBRJ81	



結線図 10

表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP3000 <sup>※1</sup> (COM1) AGP-3302B (COM2) GP-4*01TM (COM1) ST <sup>※2</sup> (COM2) LT3000 (COM1) IPC <sup>※3</sup>	10A	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長： 500m 以内
	10B	自作ケーブル	
GP3000 <sup>※4</sup> (COM2)	10C	(株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長： 500m 以内
	10D	(株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + 自作ケーブル	
GP-4106 (COM1)	10E	自作ケーブル	ケーブル長： 500m 以内
GP4000 <sup>※5</sup> (COM2) GP-420IT (COM1) SP5000 (COM1/2)	10F	(株) デジタル製 RS-422 端子台変換アダプタ PFXZCBADTM1 <sup>※6</sup> + 自作ケーブル	ケーブル長： 500m 以内
	10B	自作ケーブル	

※1 AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

※2 AST-3211A および AST-3302B を除く全 ST 機種

※3 RS-422/485(4 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。

☞ ■ IPC の COM ポートについて (7 ページ)

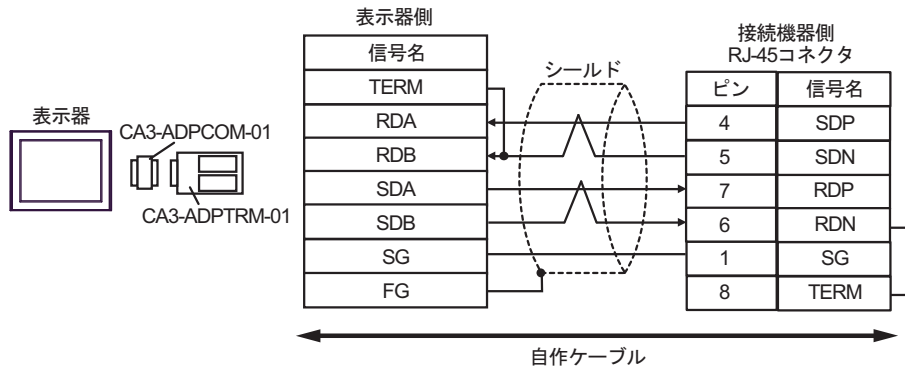
※4 GP-3200 シリーズおよび AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

※5 GP-4100 シリーズ、GP-4\*01TM、GP-420IT および GP-4\*03T を除く全 GP4000 機種

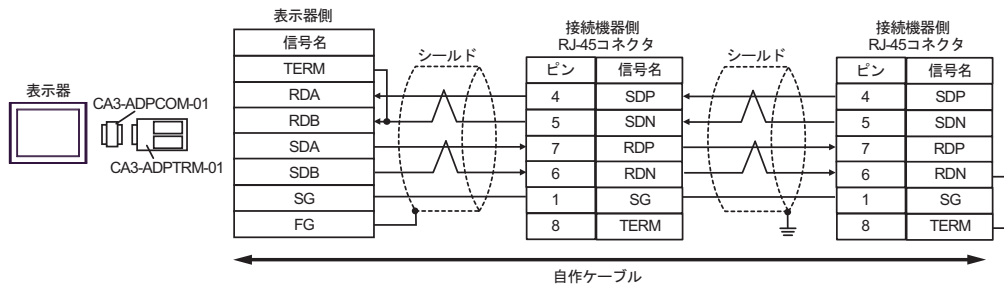
※6 RS-422 端子台変換アダプタの代わりにコネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01) を使用する  
場合、10A の結線図を参照してください。

10A)

- 1 : 1 接続の場合

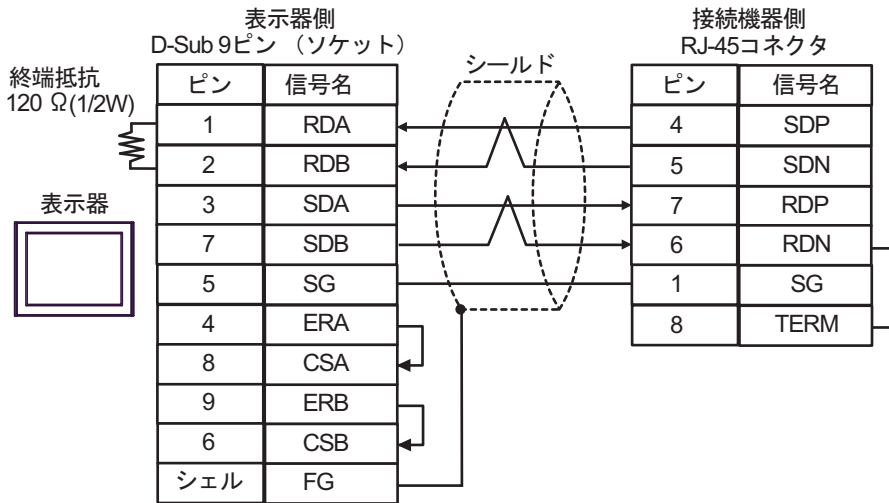


- 1 : n 接続の場合

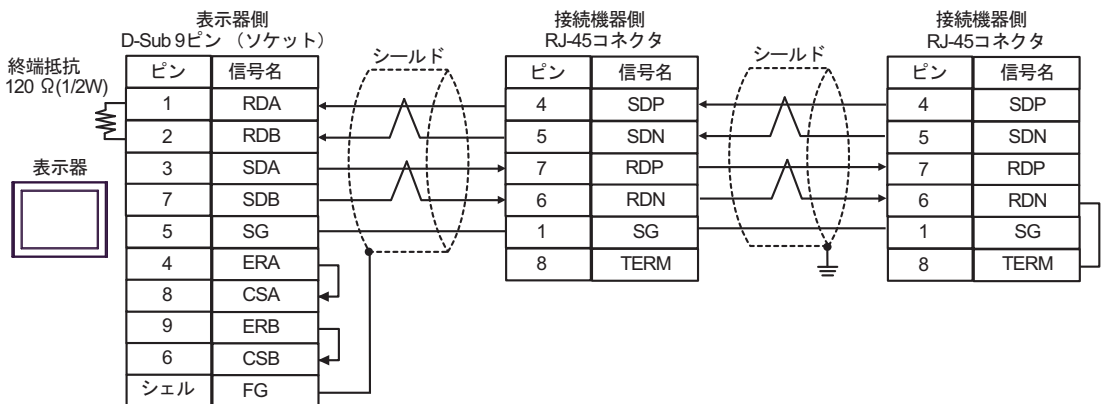


10B)

- 1 : 1 接続の場合

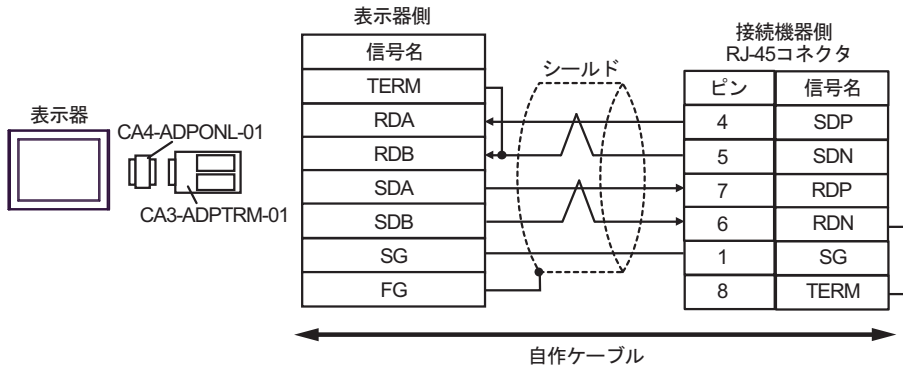


- 1 : n 接続の場合

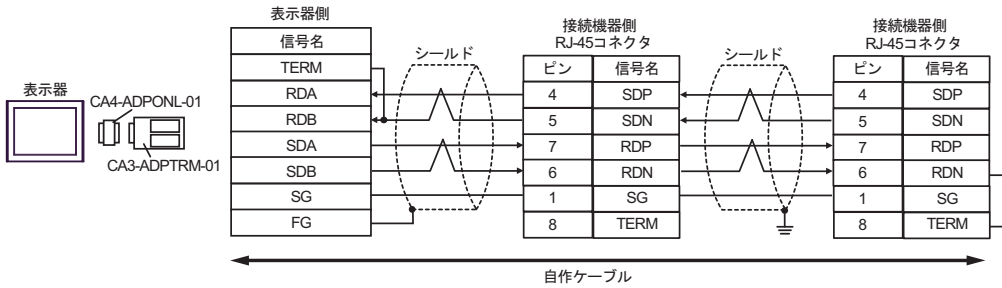


10C)

- 1 : 1 接続の場合

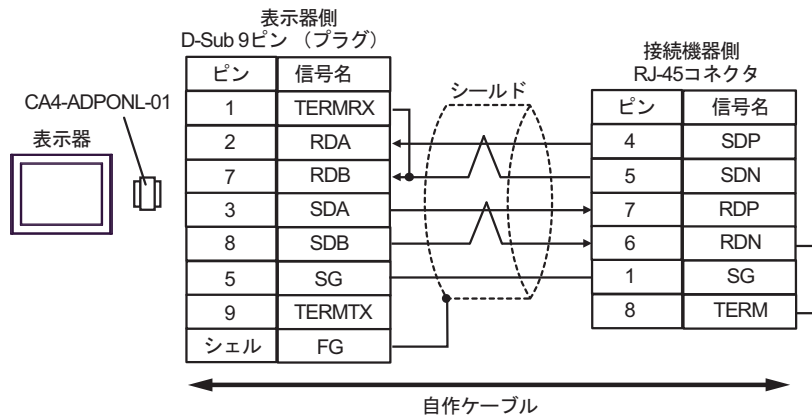


- 1 : n 接続の場合

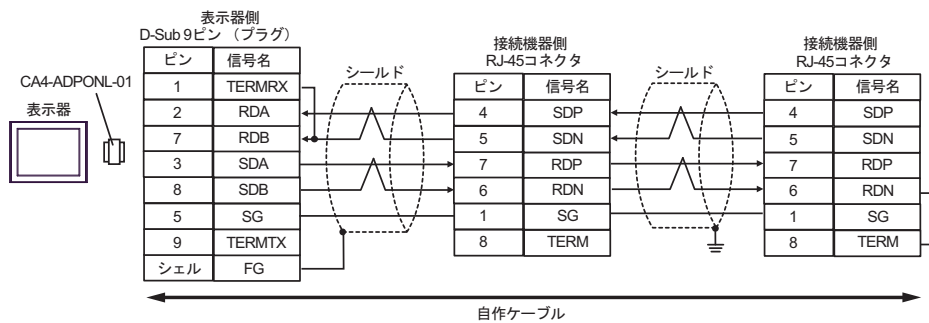


10D)

- 1 : 1 接続の場合

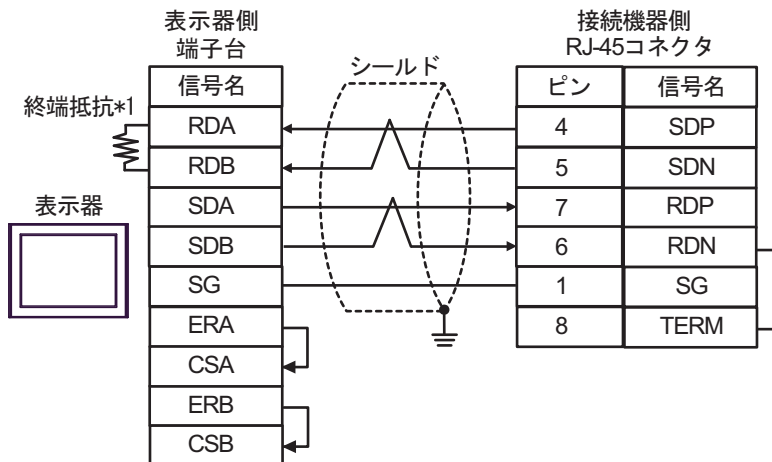


- 1 : n 接続の場合

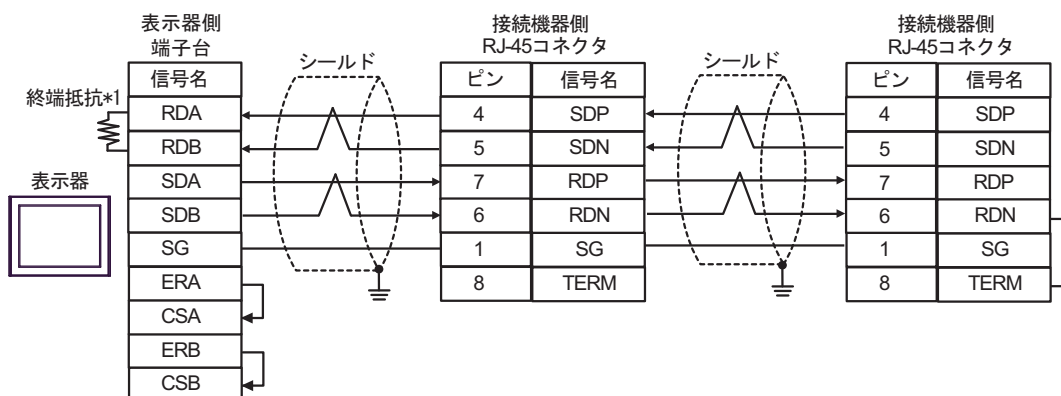


10E)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合

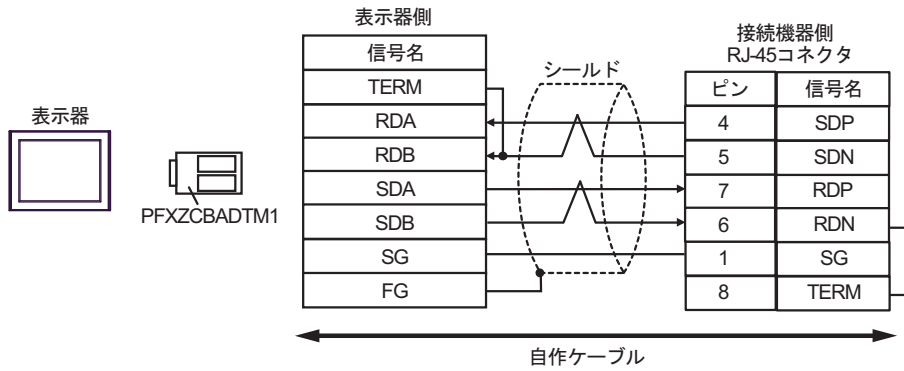


\*1 表示器に内蔵している抵抗を終端抵抗として使用します。表示器背面のディップスイッチを以下のように設定してください。

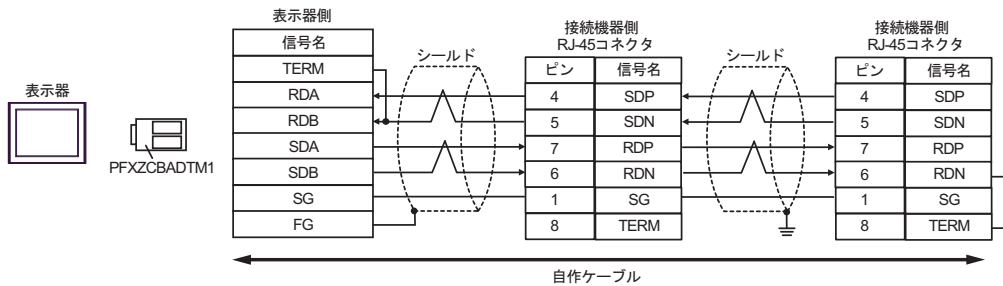
ディップスイッチ	設定内容
1	OFF
2	OFF
3	ON
4	ON

10F)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合



結線図 11


表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP3000 <sup>※1</sup> (COM1) AGP-3302B (COM2) GP-4*01TM (COM1) ST <sup>※2</sup> (COM2) LT3000 (COM1)	11A	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長： 500m 以内
	11B	自作ケーブル	
GP3000 <sup>※3</sup> (COM2)	11C	(株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長： 500m 以内
	11D	(株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + 自作ケーブル	
IPC <sup>※4</sup>	11E	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長： 500m 以内
	11F	自作ケーブル	
GP-4106 (COM1)	11G	自作ケーブル	ケーブル長： 500m 以内
GP-4107 (COM1) GP-4*03T <sup>※5</sup> (COM2) GP-4203T (COM1)	11H	自作ケーブル	ケーブル長： 500m 以内
GP4000 <sup>※6</sup> (COM2) GP-4201T (COM1) SP5000 (COM1/2)	11I	(株) デジタル製 RS-422 端子台変換アダプタ PFXZCBADTM1 <sup>※7</sup> + 自作ケーブル	ケーブル長： 500m 以内
	11B	自作ケーブル	
LT-4*01TM (COM1) LT-Rear Module (COM1)	11J	(株) デジタル製 RJ45 RS-485 ケーブル (5m) PFXZLMCBRJ81	ケーブル長： 200m 以内

※1 AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

※2 AST-3211A および AST-3302B を除く全 ST 機種

※3 GP-3200 シリーズおよび AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

※4 RS-422/485(2 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。

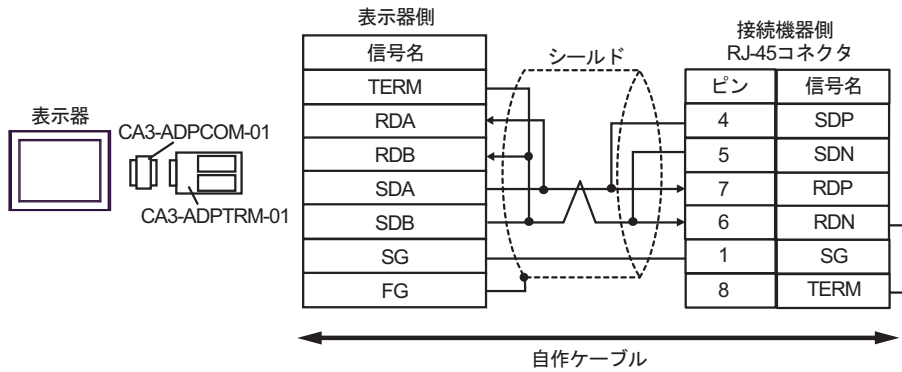
 ■ IPC の COM ポートについて (7 ページ)



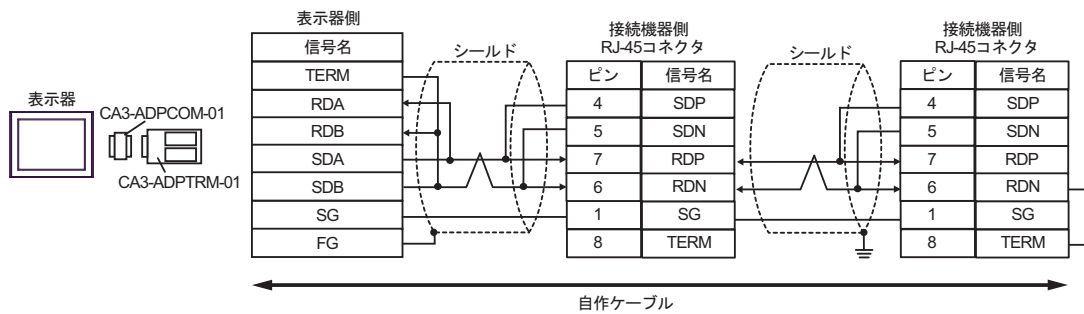
- ※ 5 GP-4203T を除く
- ※ 6 GP-4100 シリーズ、GP-4\*01TM、GP-4201T および GP-4\*03T を除く全 GP4000 機種
- ※ 7 RS-422 端子台変換アダプタの代わりにコネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01) を使用する  
場合、11A の結線図を参照してください。

11A)

- 1 : 1 接続の場合

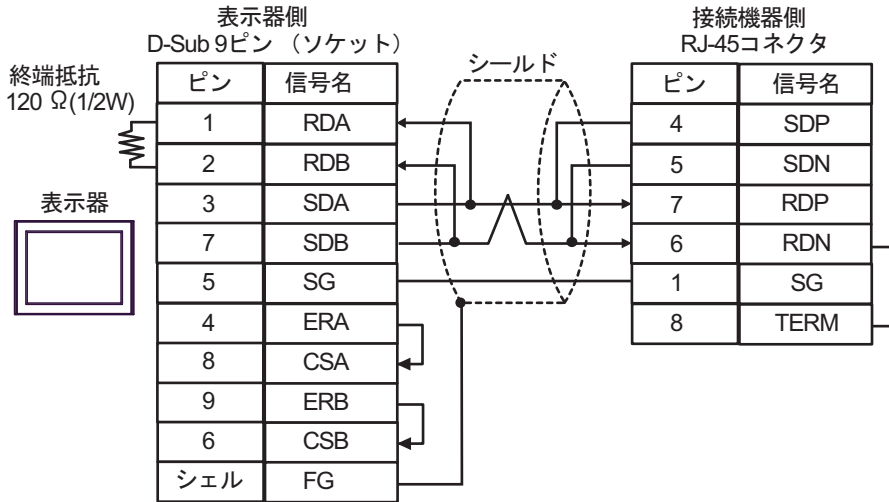


- 1 : n 接続の場合

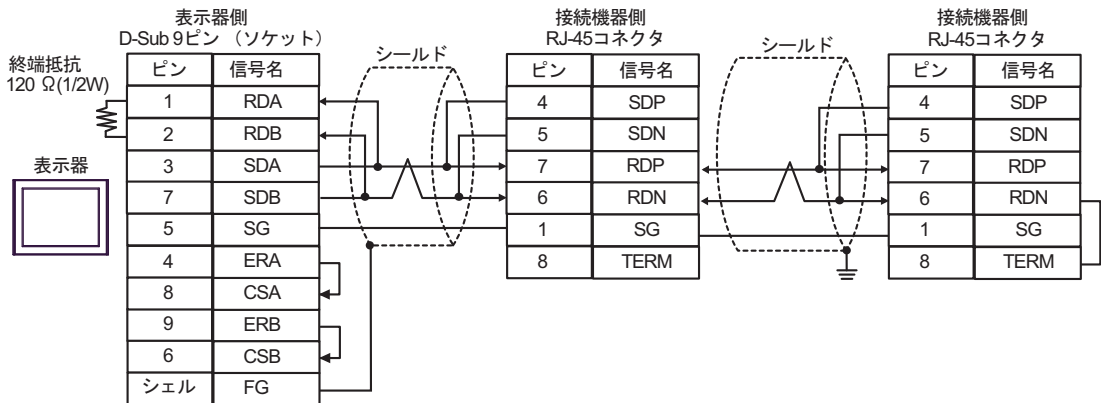


11B)

- 1 : 1 接続の場合

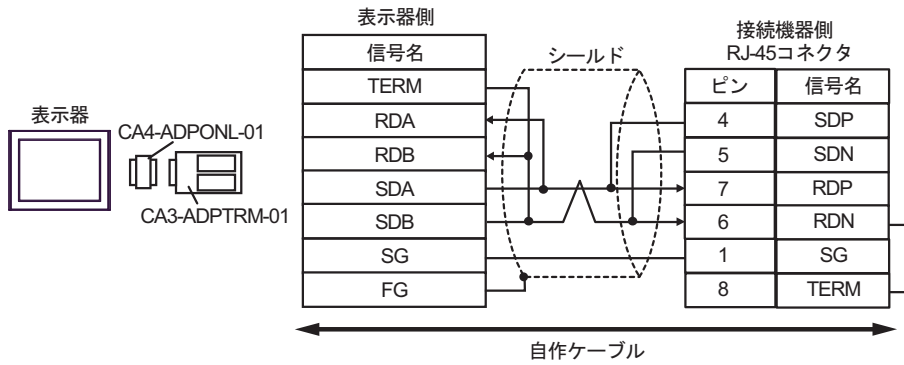


- 1 : n 接続の場合

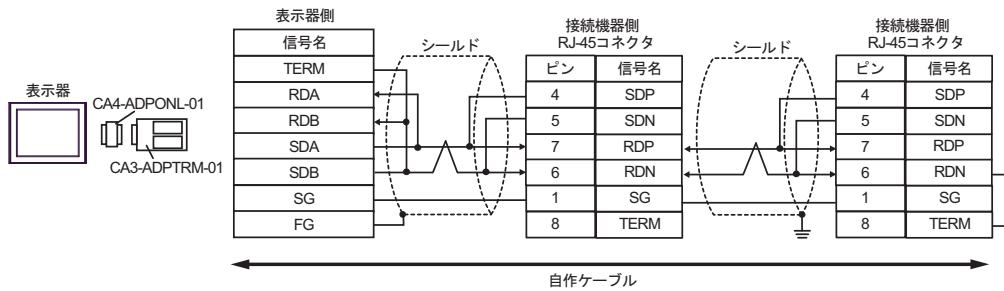


11C)

- 1 : 1 接続の場合

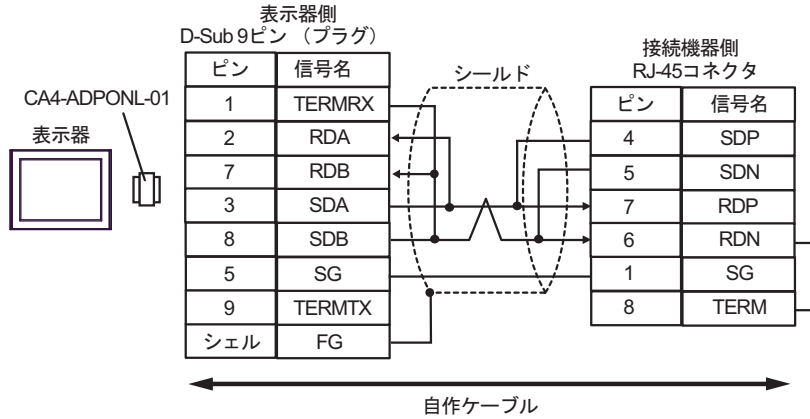


- 1 : n 接続の場合

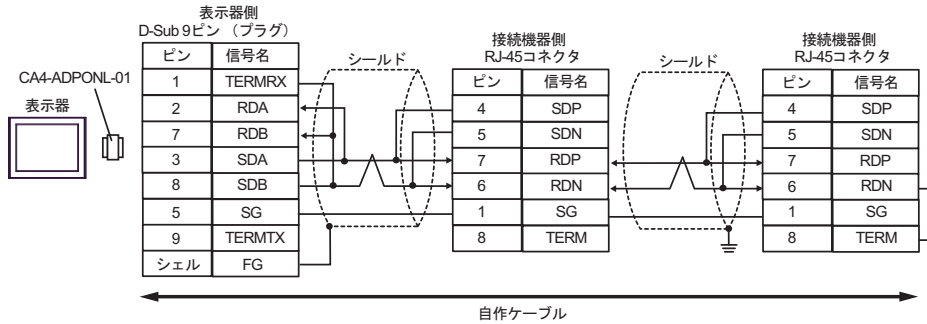


11D)

- 1 : 1 接続の場合

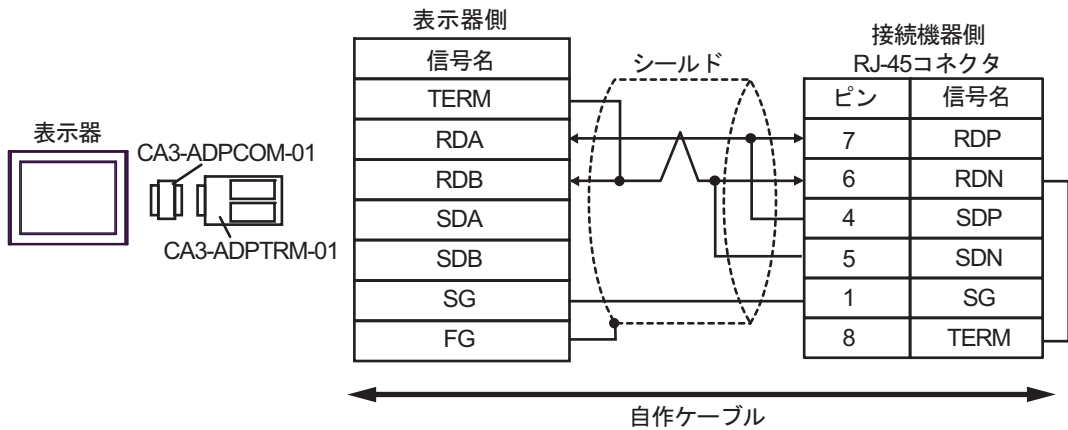


- 1 : n 接続の場合

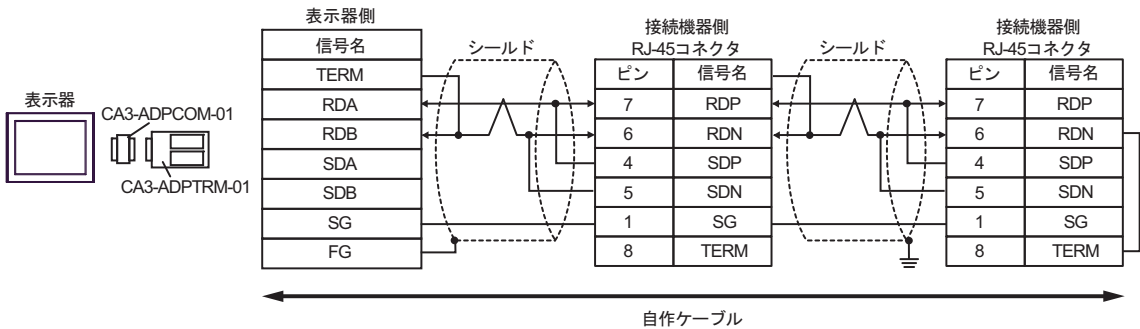


11E)

- 1 : 1 接続の場合

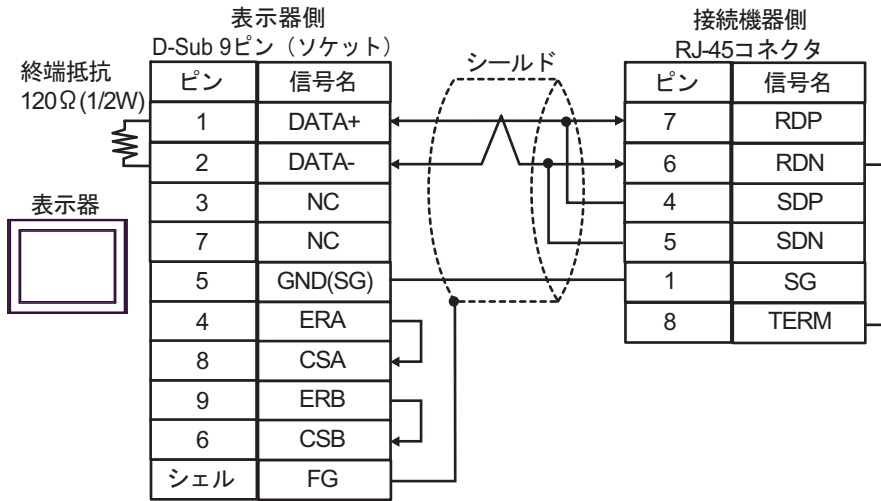


- 1 : n 接続の場合

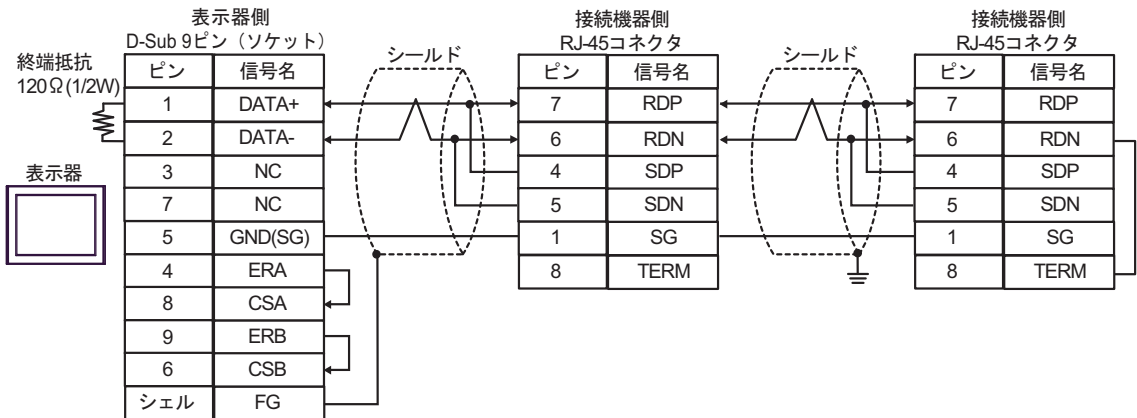


11F)

- 1 : 1 接続の場合

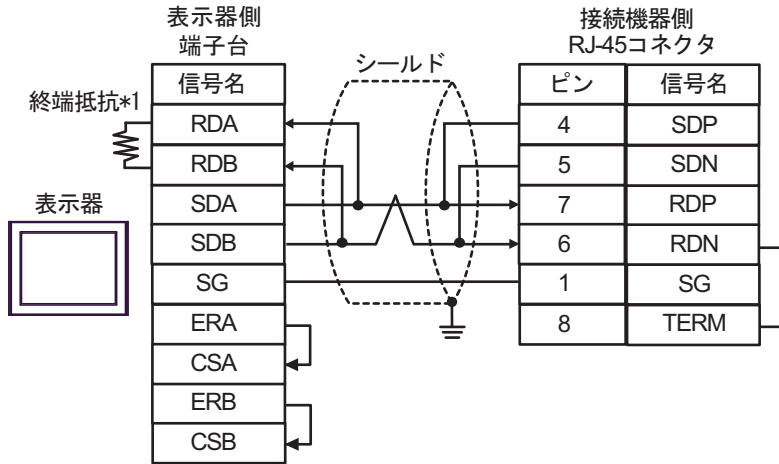


- 1 : n 接続の場合

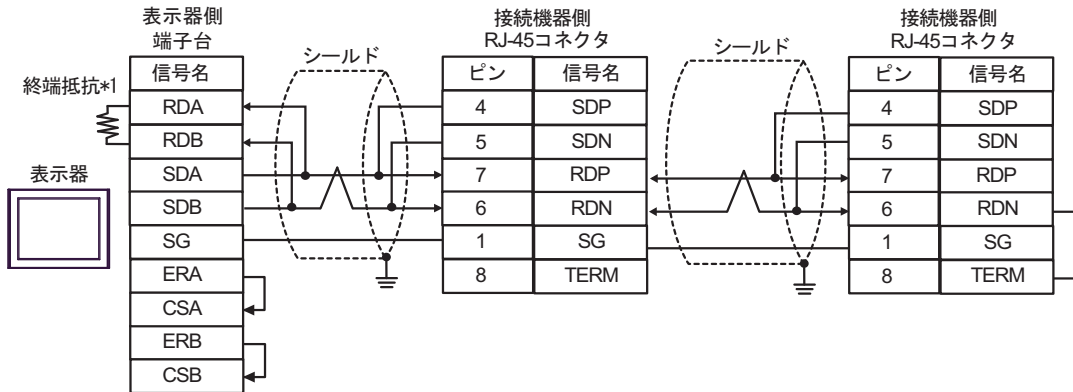


11G)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合



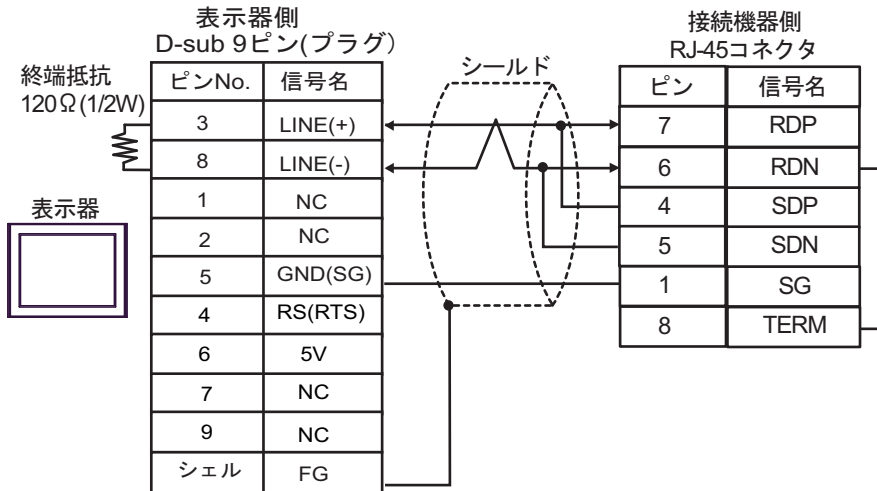
- \*1 表示器に内蔵している抵抗を終端抵抗として使用します。表示器背面のディップスイッチを以下のように設定してください。

ディップスイッチ	設定内容
1	OFF
2	OFF
3	ON
4	ON

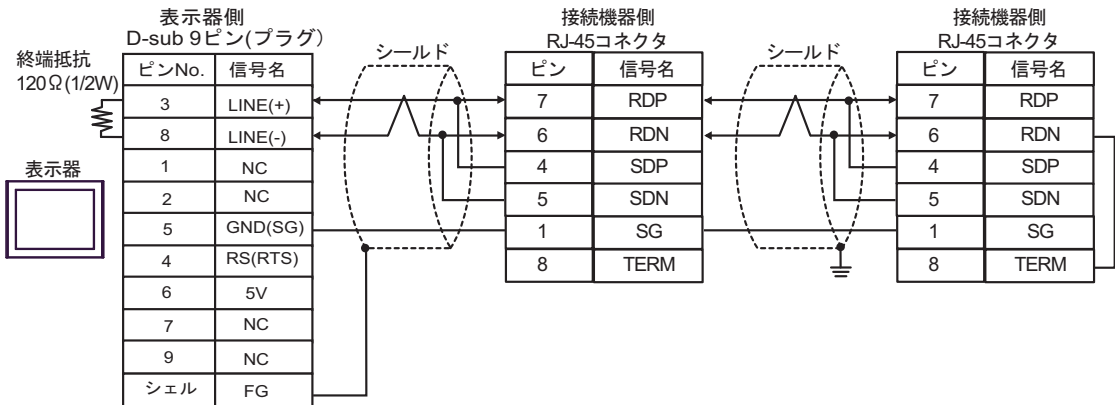


11H)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合

**重要**

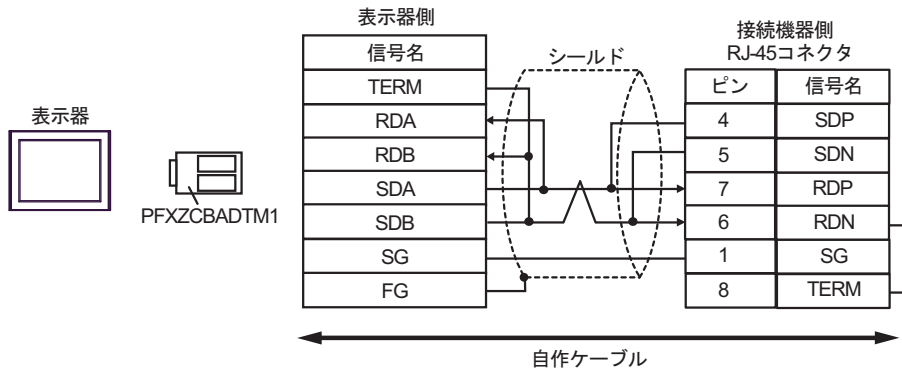
- 表示器の5V出力(6番ピン)はSiemens製PROFIBUSコネクタ用電源です。その他の機器の電源には使用できません。

**MEMO**

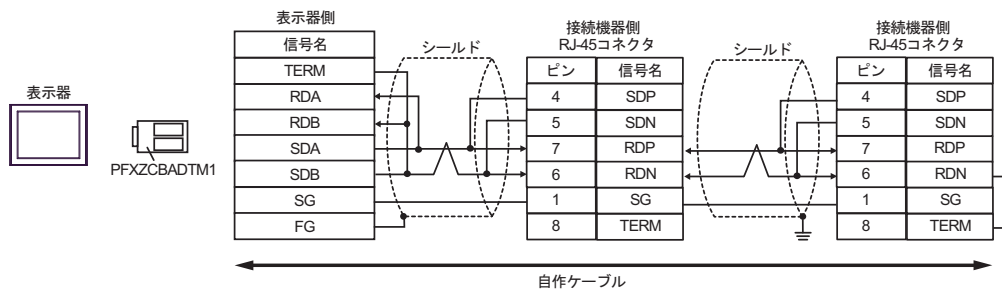
- GP-4107のCOMではSGとFGが絶縁されています。

III)

- 1 : 1 接続の場合

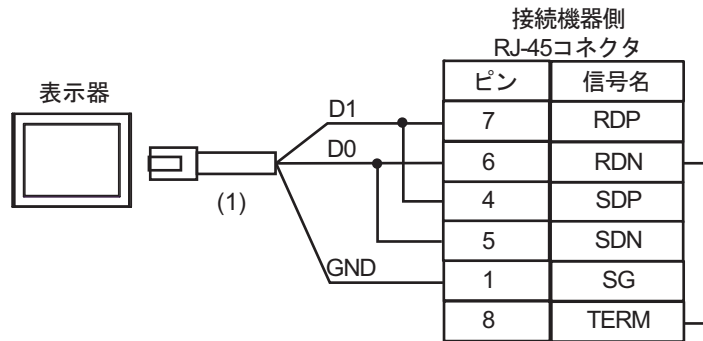


- 1 : n 接続の場合

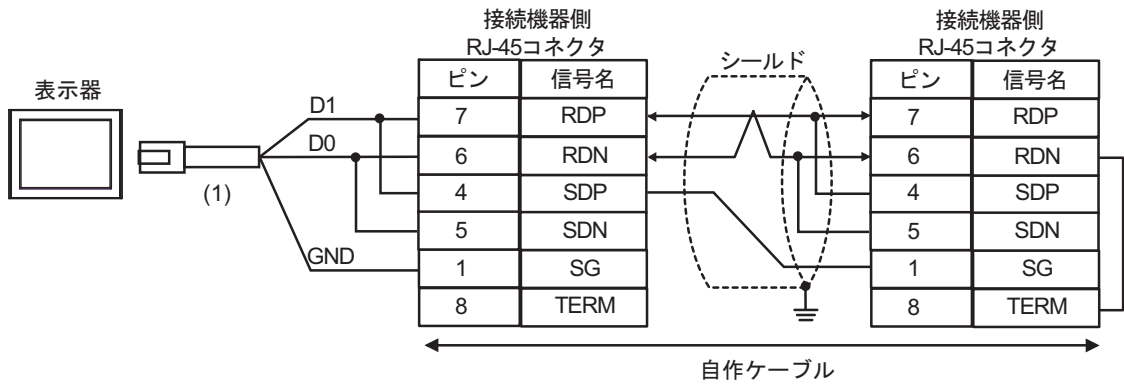


11J)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合



番号	名称	備考
(1)	(株) デジタル製 RJ45 RS-485 ケーブル (5m) PFXZLMCBRJ81	

結線図 12

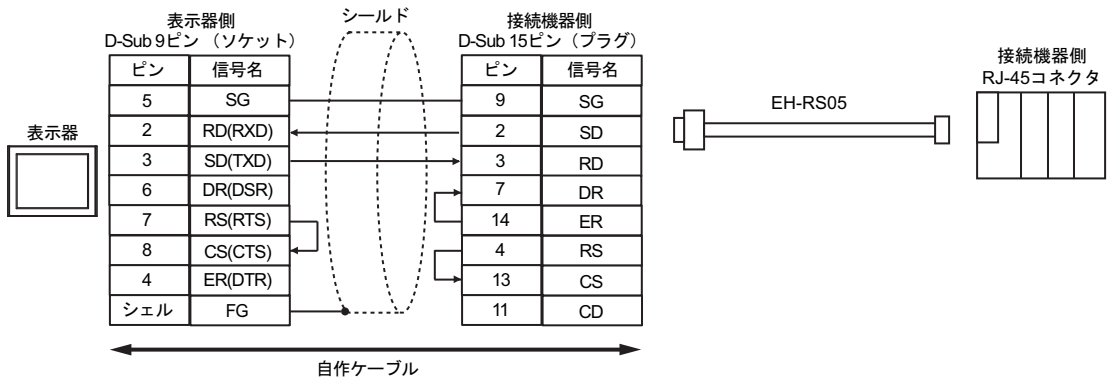
表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP3000 (COM1) GP4000 <sup>※1</sup> (COM1) SP5000 (COM1/2) ST (COM1) LT3000 (COM1) IPC <sup>※2</sup> PC/AT	12A	自作ケーブル + (株) 日立産機システム製変換ケーブル EH-RS05(0.5m)	ケーブル長： 15m 以内
GP-4105 (COM1)	12B	自作ケーブル + (株) 日立産機システム製変換ケーブル EH-RS05(0.5m)	ケーブル長： 15m 以内
LT-4*01TM (COM1) LT-Rear Module (COM1)	12C	(株) デジタル製 RJ45 RS-232C ケーブル (5m) PFXZLMCBRJ21 + (株) 日立産機システム製変換ケーブル EH-RS05(0.5m)	ケーブル長： 5m 以内

※1 GP-4100 シリーズ、GP-4203T を除く全 GP4000 機種

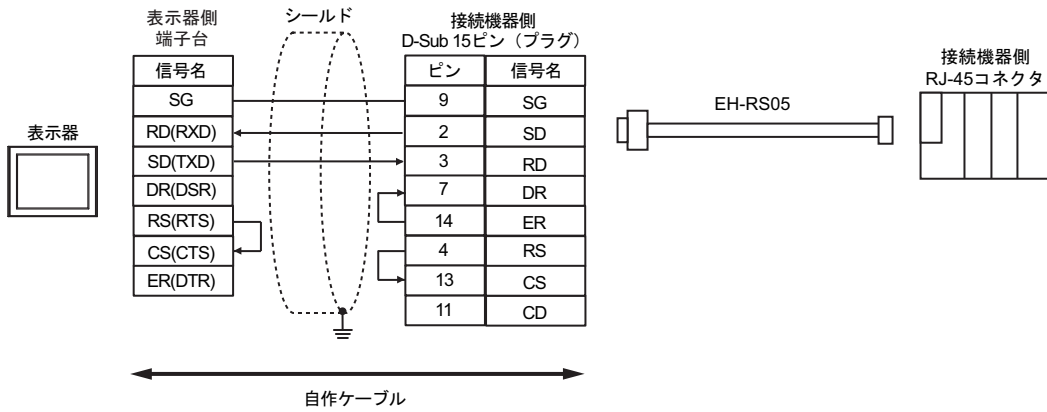
※2 RS-232C で通信できる COM ポートのみ使用できます。

☞ ■ IPC の COM ポートについて (7 ページ)

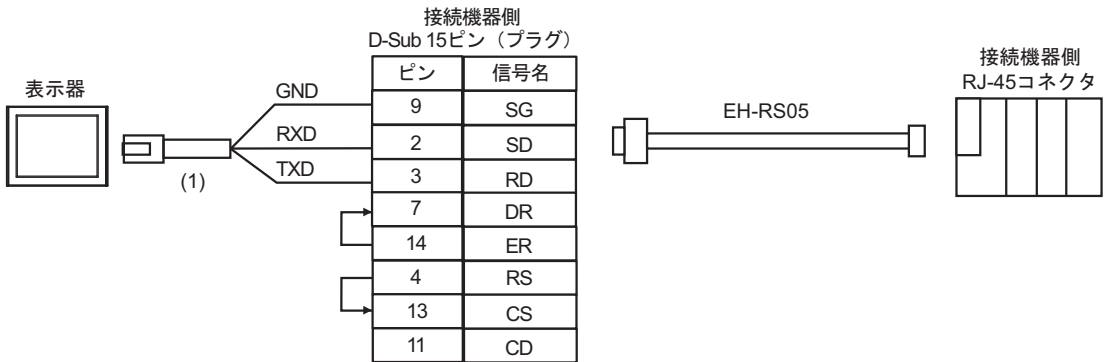
12A)



12B)



12C)



番号	名称	備考
(1)	(株) デジタル製 RJ45 RS-232C ケーブル (5m) PFXZLMCBRJ21	

結線図 13

表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP3000 <sup>※1</sup> (COM1) AGP-3302B (COM2) GP-4*01TM (COM1) ST <sup>※2</sup> (COM2) LT3000 (COM1) IPC <sup>※3</sup>	13A	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長： 500m 以内
	13B	自作ケーブル	
GP3000 <sup>※4</sup> (COM2)	13C	(株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長： 500m 以内
	13D	(株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + 自作ケーブル	
GP-4106 (COM1)	13E	自作ケーブル	ケーブル長： 500m 以内
GP4000 <sup>※5</sup> (COM2) GP-4201T (COM1) SP5000 (COM1/2)	13F	(株) デジタル製 RS-422 端子台変換アダプタ PFXZCBADTM1 <sup>※6</sup> + 自作ケーブル	ケーブル長： 500m 以内
	13B	自作ケーブル	

※1 AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

※2 AST-3211A および AST-3302B を除く全 ST 機種

※3 RS-422/485(4 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。

☞ ■ IPC の COM ポートについて (7 ページ)

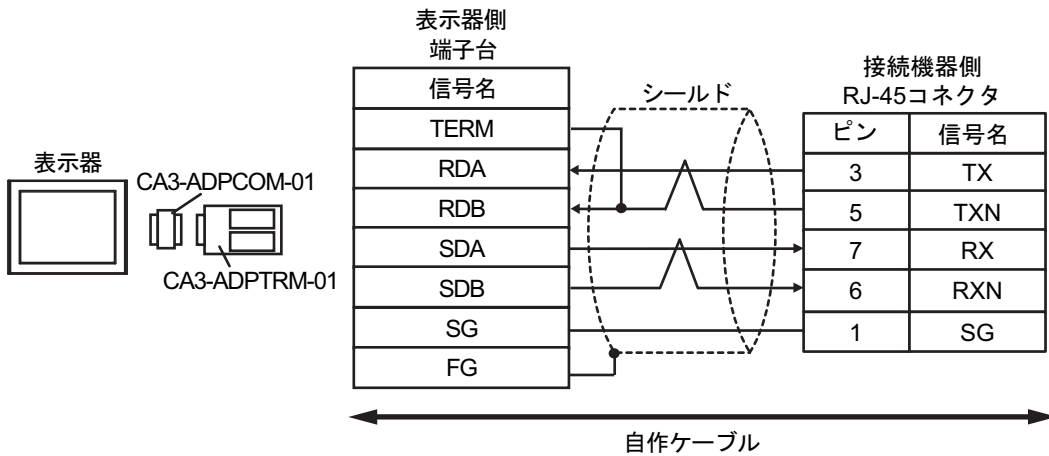
※4 GP-3200 シリーズおよび AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

※5 GP-4100 シリーズ、GP-4\*01TM、GP-4201T および GP-4\*03T を除く全 GP4000 機種

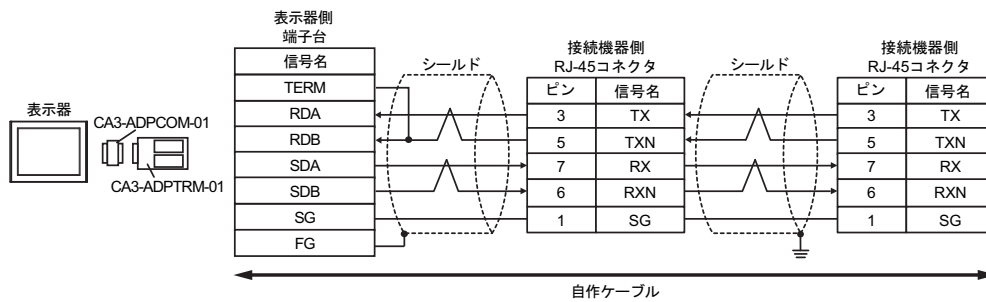
※6 RS-422 端子台変換アダプタの代わりにコネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01) を使用する  
場合、13A の結線図を参照してください。

13A)

- 1 : 1 接続の場合



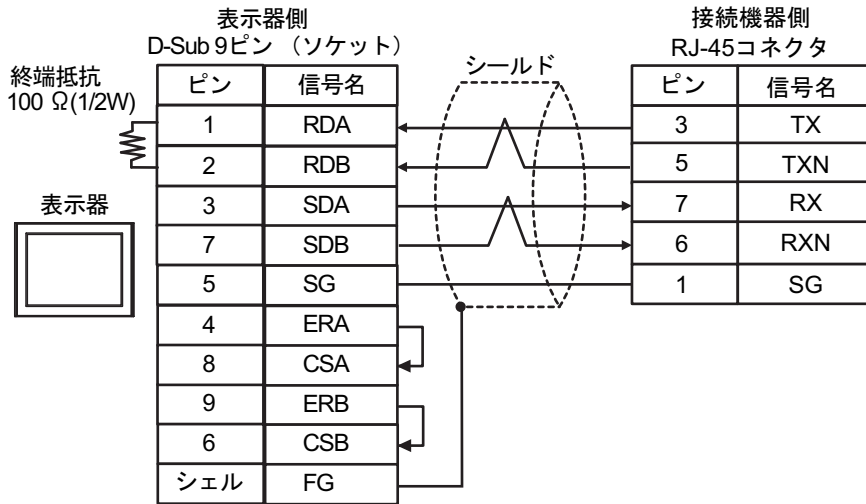
- 1 : n 接続の場合

**MEMO**

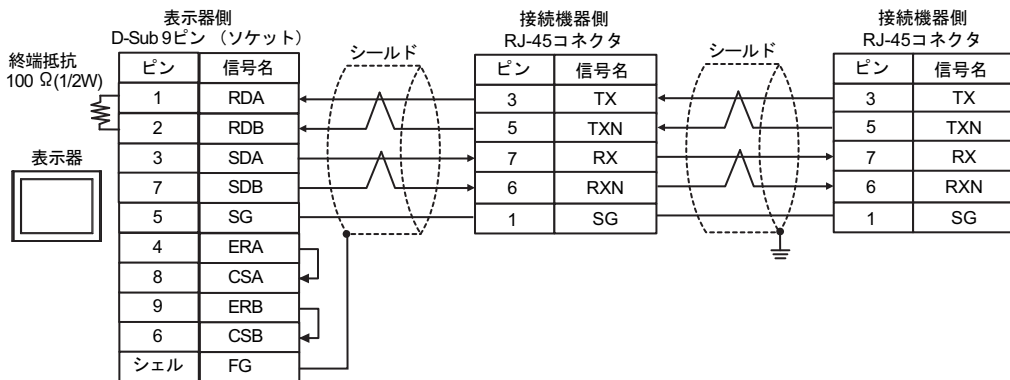
- 接続の終端となる接続機器のディップスイッチ 1 を ON にして終端抵抗 (100Ω) を挿入してください。

13B)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合

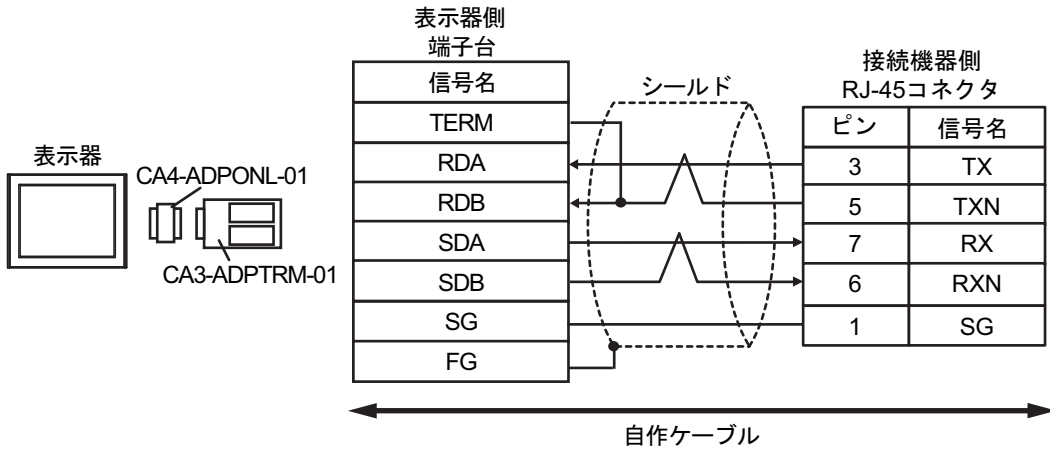
**MEMO**

- 接続の終端となる接続機器のディップスイッチ 1 を ON にして終端抵抗 (100Ω) を挿入してください。

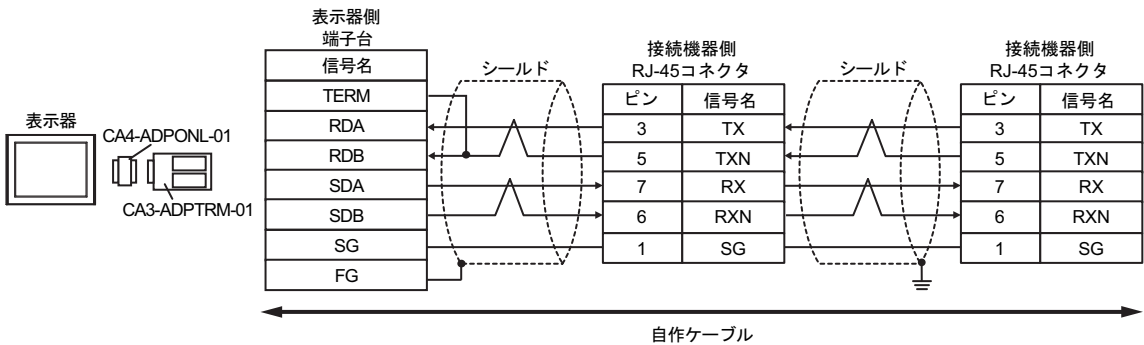


13C)

- 1 : 1 接続の場合



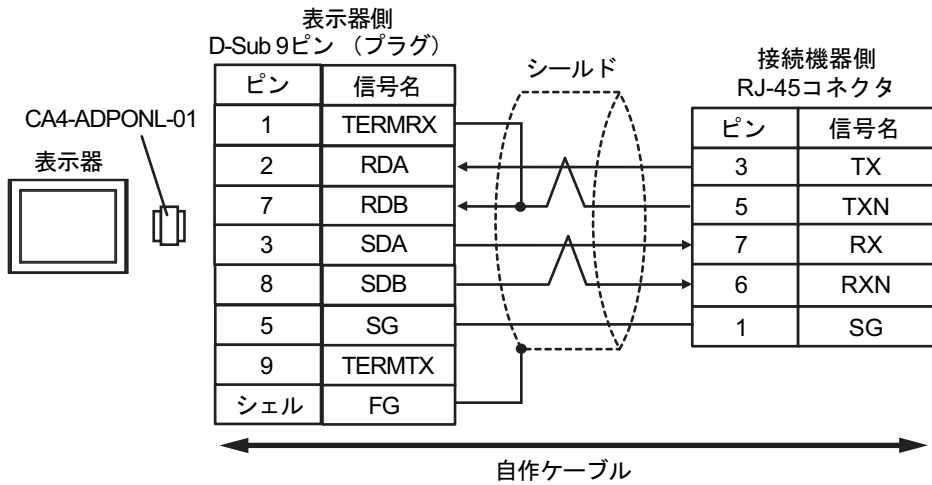
- 1 : n 接続の場合

**MEMO**

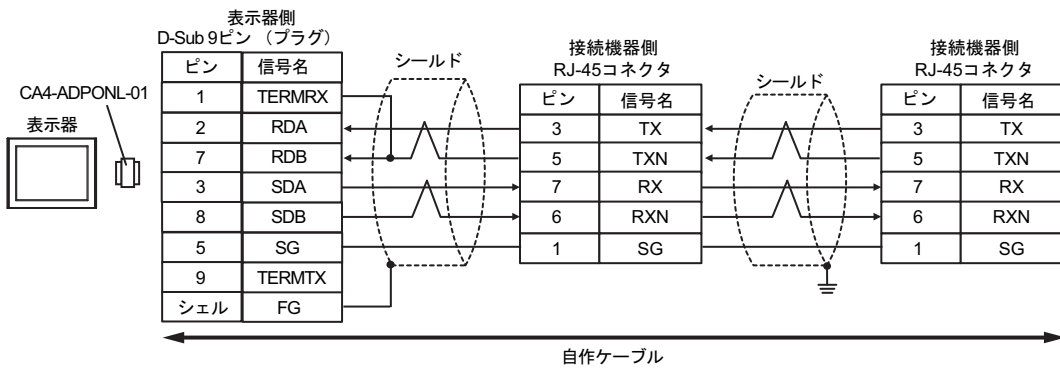
- 接続の終端となる接続機器のディップスイッチ 1 を ON にして終端抵抗 (100Ω) を挿入してください。

13D)

- 1 : 1 接続の場合



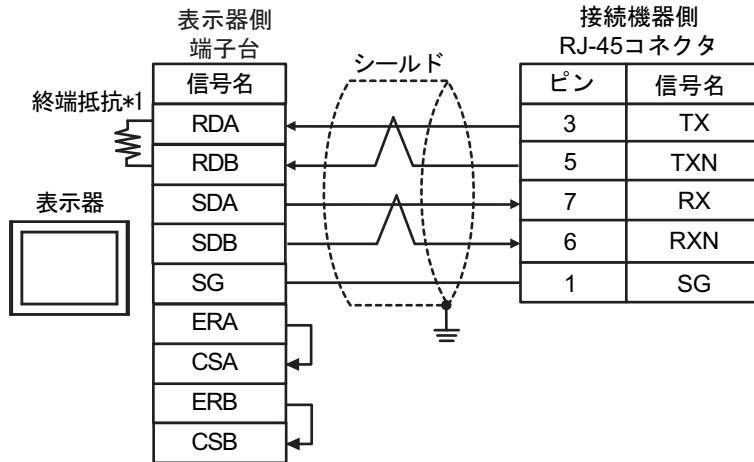
- 1 : n 接続の場合

**MEMO**

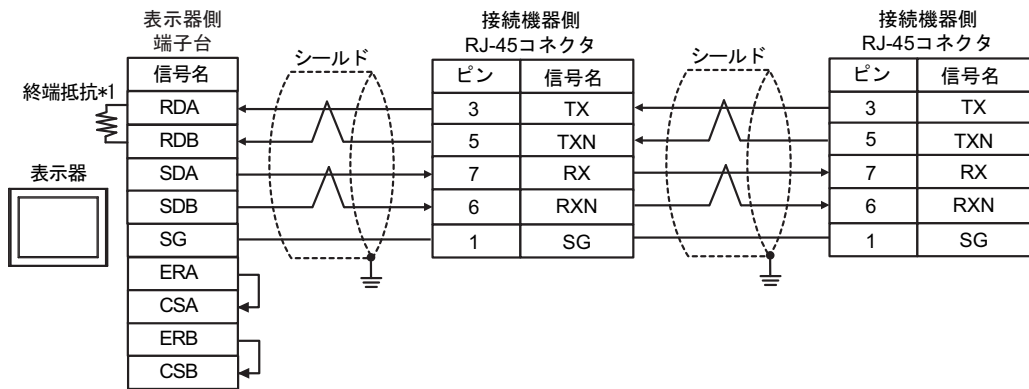
- 接続の終端となる接続機器のディップスイッチ 1 を ON にして終端抵抗 (100Ω) を挿入してください。

13E)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合

**MEMO**

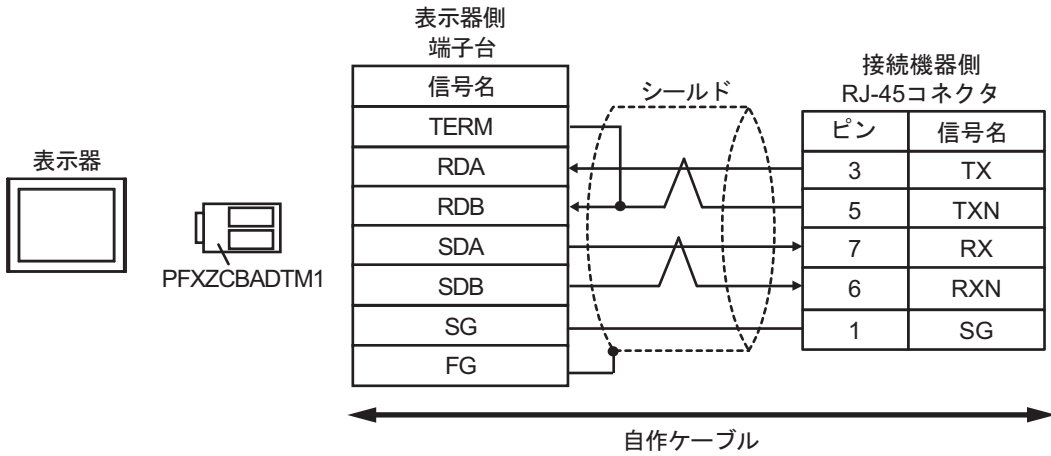
- 接続の終端となる接続機器のディップスイッチ 1 を ON にして終端抵抗 (100Ω) を挿入してください。

\*1 表示器に内蔵している抵抗を終端抵抗として使用します。表示器背面のディップスイッチを以下のように設定してください。

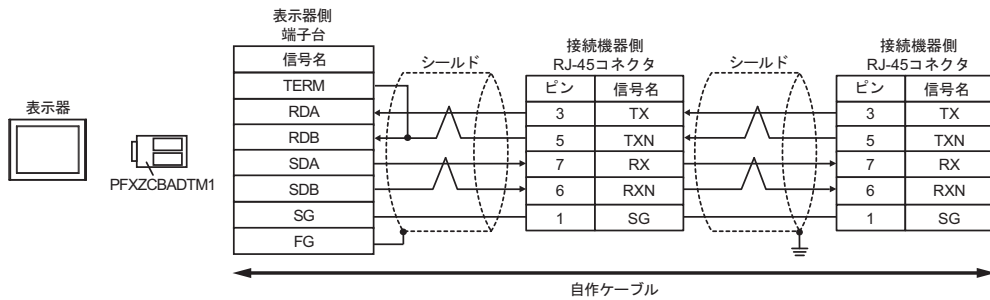
ディップスイッチ	設定内容
1	OFF
2	OFF
3	ON
4	ON

13F)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合

**MEMO**

- 接続の終端となる接続機器のディップスイッチ1をONにして終端抵抗(100Ω)を挿入してください。

結線図 14

表示器 (接続ポート)	ケーブル		備考
GP3000 <sup>※1</sup> (COM1) AGP-3302B (COM2) GP-4*01TM (COM1) ST <sup>※2</sup> (COM2) LT3000 (COM1)	14A	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長： 500m 以内
	14B	自作ケーブル	
GP3000 <sup>※3</sup> (COM2)	14C	(株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長： 500m 以内
	14D	(株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + 自作ケーブル	
IPC <sup>※4</sup>	14E	(株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル	ケーブル長： 500m 以内
	14F	自作ケーブル	
GP-4106 (COM1)	14G	自作ケーブル	ケーブル長： 500m 以内
GP-4107 (COM1) GP-4*03T <sup>※5</sup> (COM2) GP-4203T (COM1)	14H	自作ケーブル	ケーブル長： 500m 以内
GP4000 <sup>※6</sup> (COM2) GP-4201T (COM1) SP5000 (COM1/2)	14I	(株) デジタル製 RS-422 端子台変換アダプタ PFXZCBADTM1 <sup>※7</sup> + 自作ケーブル	ケーブル長： 500m 以内
	14B	自作ケーブル	
LT-4*01TM (COM1) LT-Rear Module (COM1)	14J	(株) デジタル製 RJ45 RS-485 ケーブル (5m) PFXZLMCBJR81	ケーブル長： 200m 以内

※1 AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

※2 AST-3211A および AST-3302B を除く全 ST 機種

※3 GP-3200 シリーズおよび AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

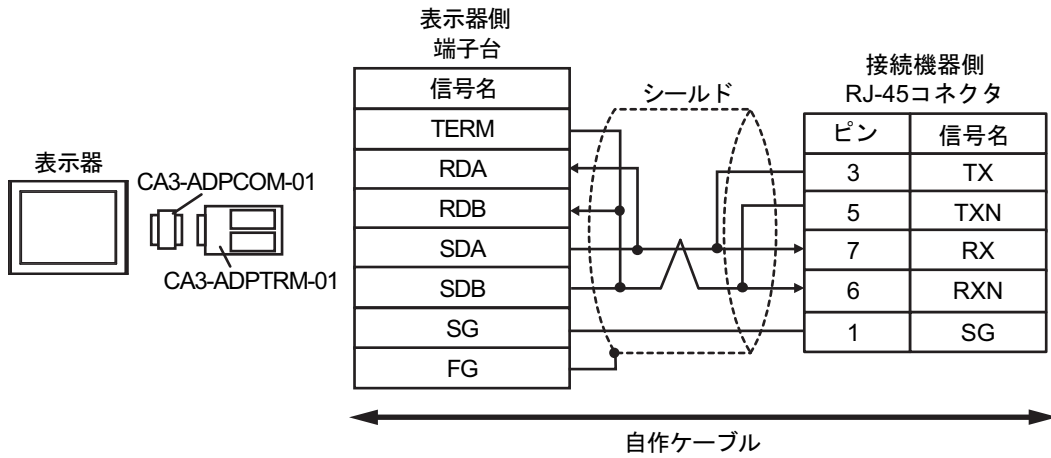
※4 RS-422/485(2 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。

☞ ■ IPC の COM ポートについて (7 ページ)

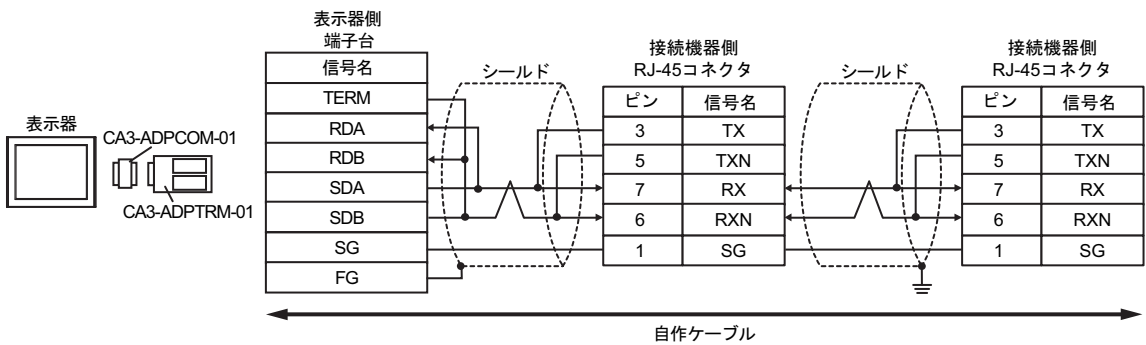
- ※ 5 GP-4203T を除く
- ※ 6 GP-4100 シリーズ、GP-4\*01TM、GP-4201T および GP-4\*03T を除く全 GP4000 機種
- ※ 7 RS-422 端子台変換アダプタの代わりにコネクタ端子台変換アダプタ (CA3-ADPTRM-01) を使用する  
場合、14A の結線図を参照してください。

14A)

- 1 : 1 接続の場合



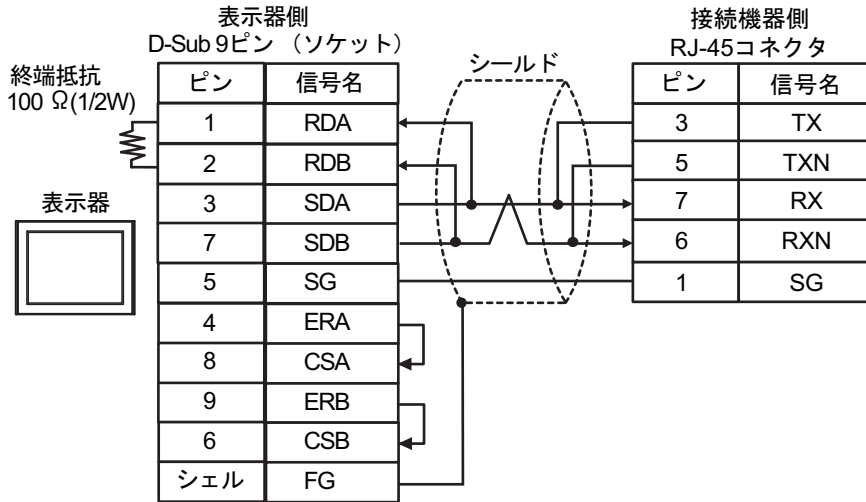
- 1 : n 接続の場合

**MEMO**

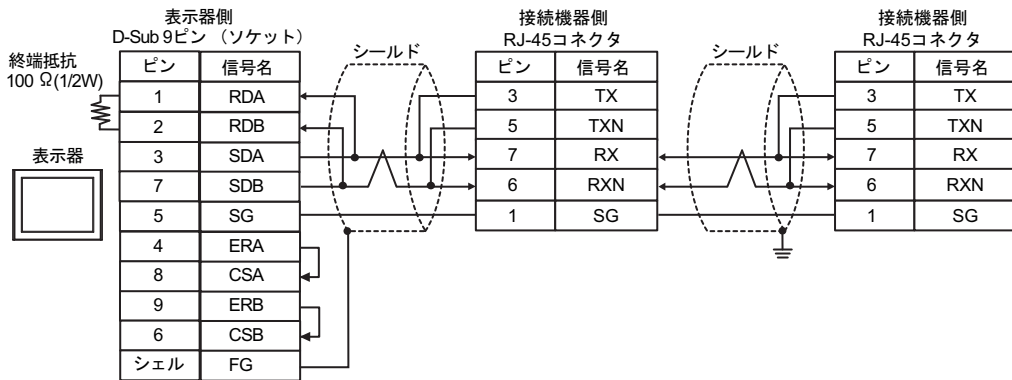
- 接続の終端となる接続機器のディップスイッチ 1 を ON にして終端抵抗 (100Ω) を挿入してください。

14B)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合

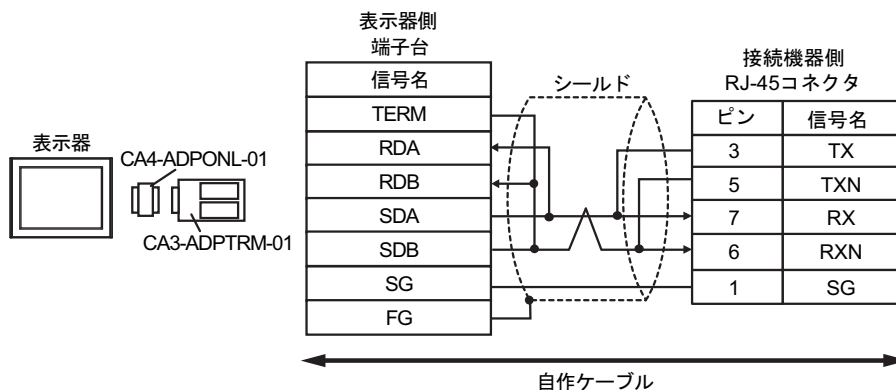
**MEMO**

- 接続の終端となる接続機器のディップスイッチ 1 を ON にして終端抵抗 (100Ω) を挿入してください。

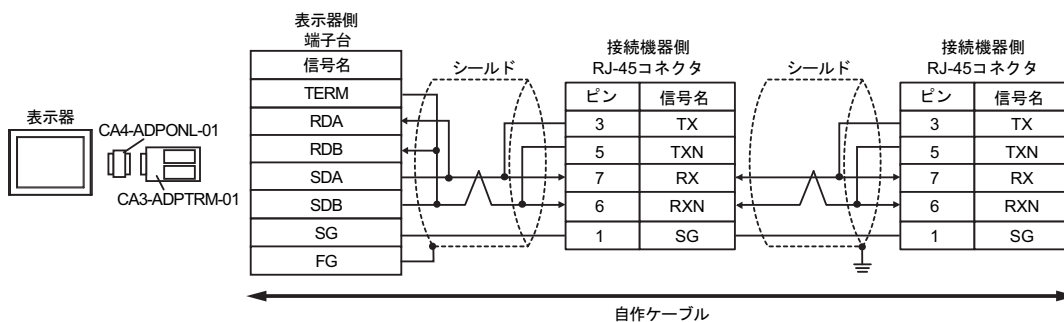


14C)

- 1 : 1 接続の場合



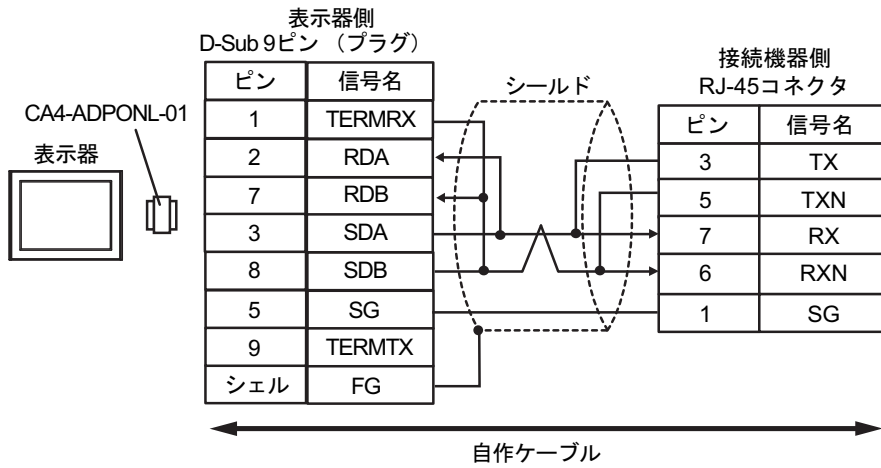
- 1 : n 接続の場合

**MEMO**

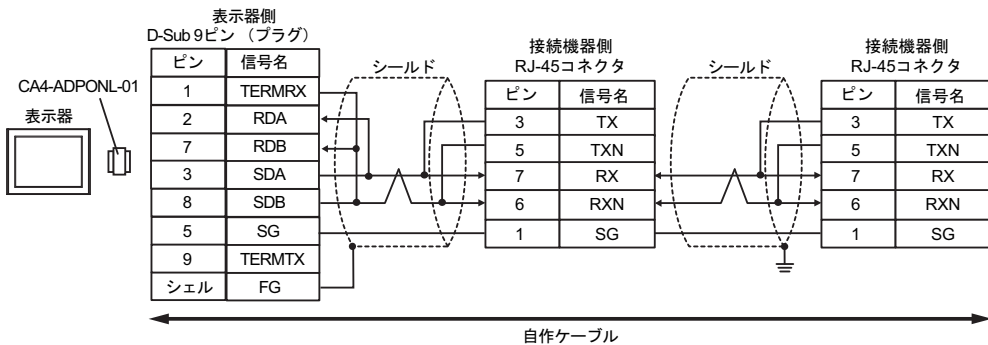
- 接続の終端となる接続機器のディップスイッチ 1 を ON にして終端抵抗 (100Ω) を挿入してください。

14D)

- 1 : 1 接続の場合



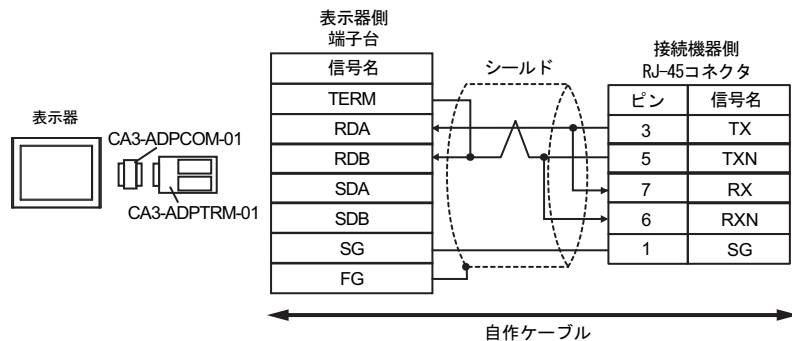
- 1 : n 接続の場合

**MEMO**

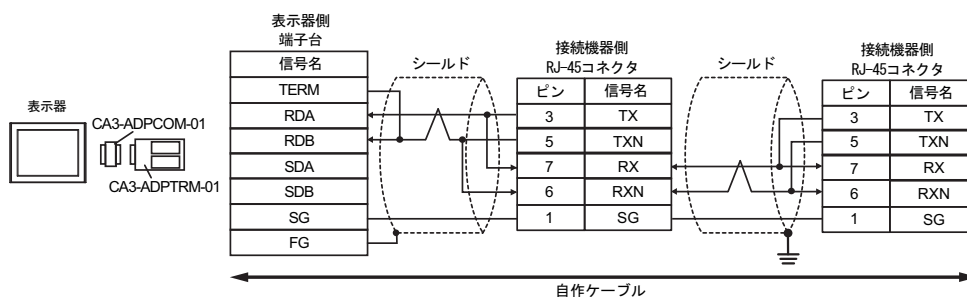
- 接続の終端となる接続機器のディップスイッチ 1 を ON にして終端抵抗 (100Ω) を挿入してください。

14E)

- 1 : 1 接続の場合



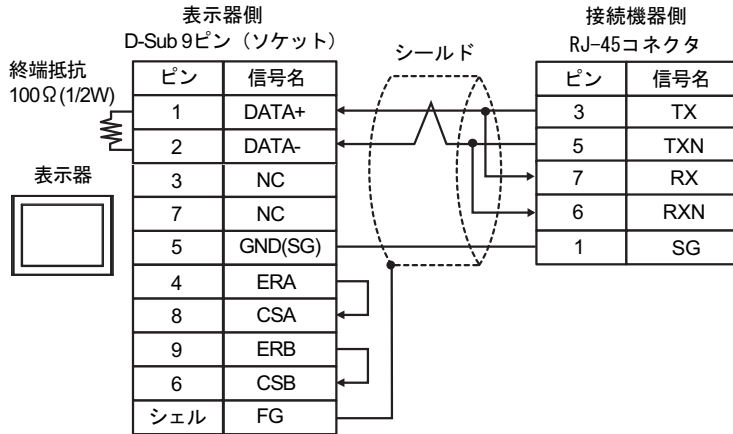
- 1 : n 接続の場合

**MEMO**

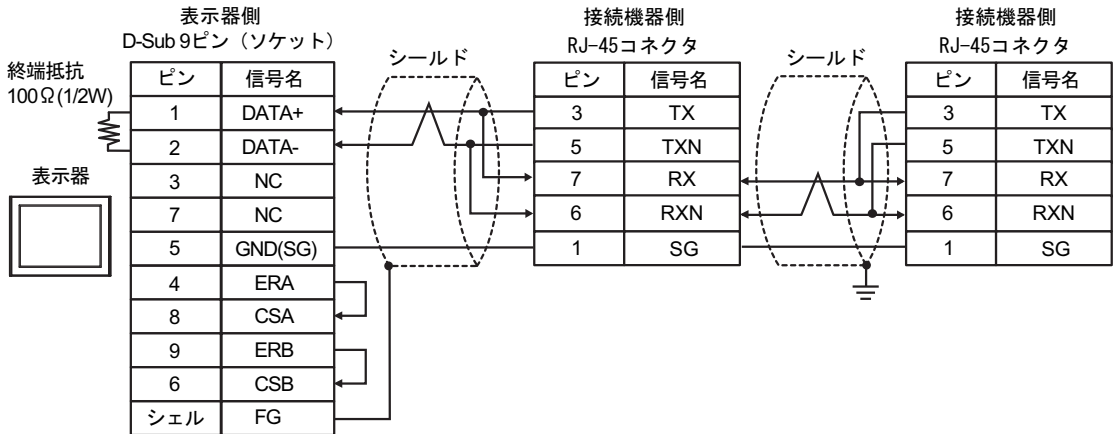
- 接続の終端となる接続機器のディップスイッチ 1 を ON にして終端抵抗 (100Ω) を挿入してください。

14F)

- 1 : 1 接続の場合



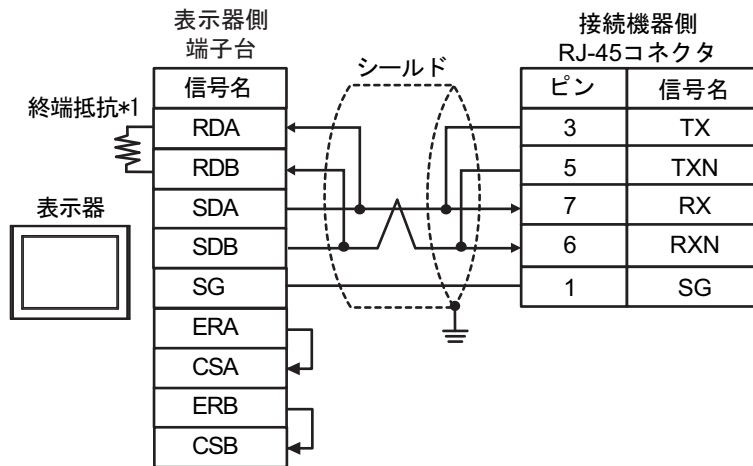
- 1 : n 接続の場合

**MEMO**

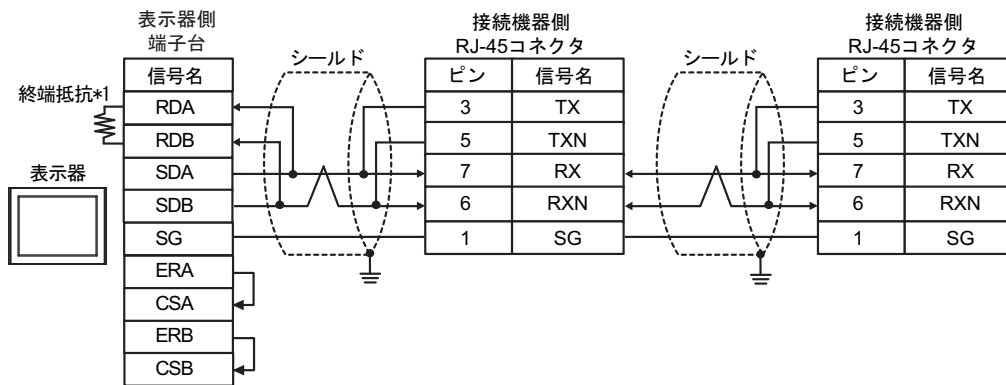
- 接続の終端となる接続機器のディップスイッチ 1 を ON にして終端抵抗 (100Ω) を挿入してください。

14G)

- 1:1 接続の場合



- 1:n 接続の場合

**MEMO**

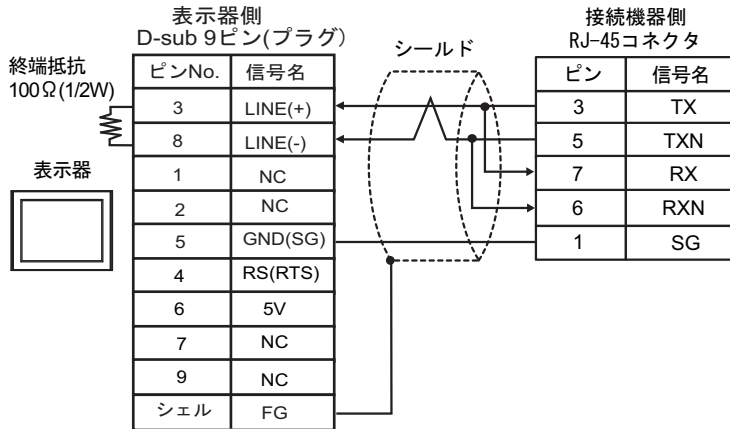
- 接続の終端となる接続機器のディップスイッチ 1 を ON にして終端抵抗 (100Ω) を挿入してください。

\*1 表示器に内蔵している抵抗を終端抵抗として使用します。表示器背面のディップスイッチを以下のように設定してください。

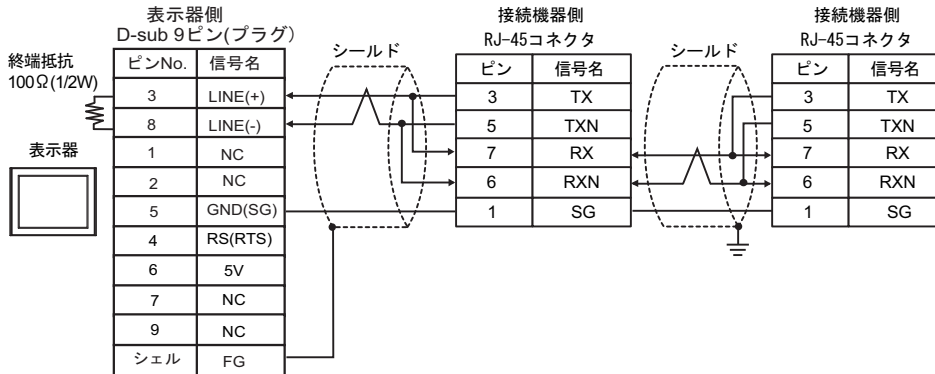
ディップスイッチ	設定内容
1	OFF
2	OFF
3	ON
4	ON

14H)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合

**重要**

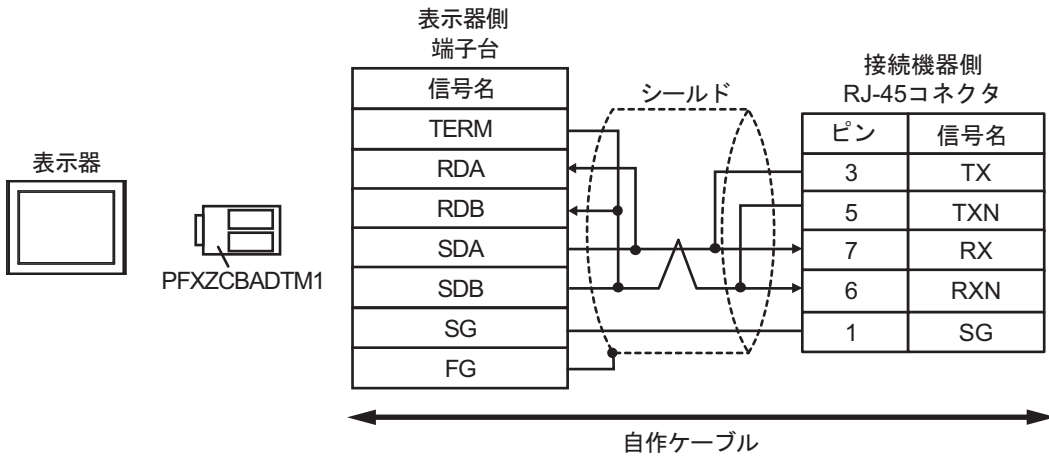
- 表示器の5V出力(6番ピン)はSiemens製PROFIBUSコネクタ用電源です。その他の機器の電源には使用できません。

**MEMO**

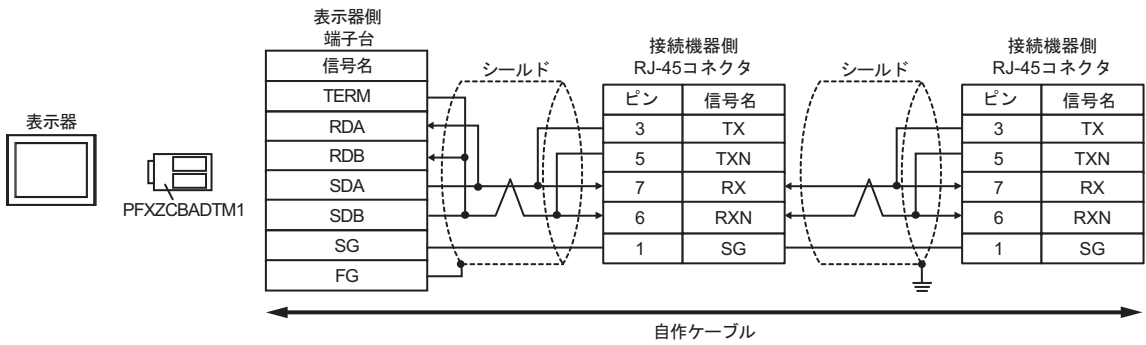
- 接続の終端となる接続機器のディップスイッチ1をONにして終端抵抗(100Ω)を挿入してください。
- GP-4107のCOMではSGとFGが絶縁されています。

14I)

- 1 : 1 接続の場合



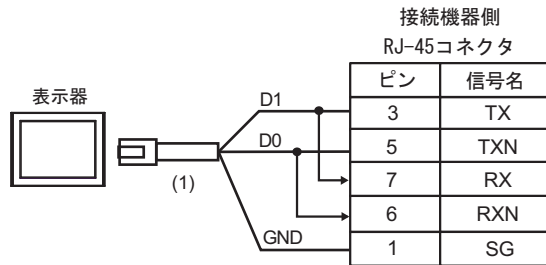
- 1 : n 接続の場合

**MEMO**

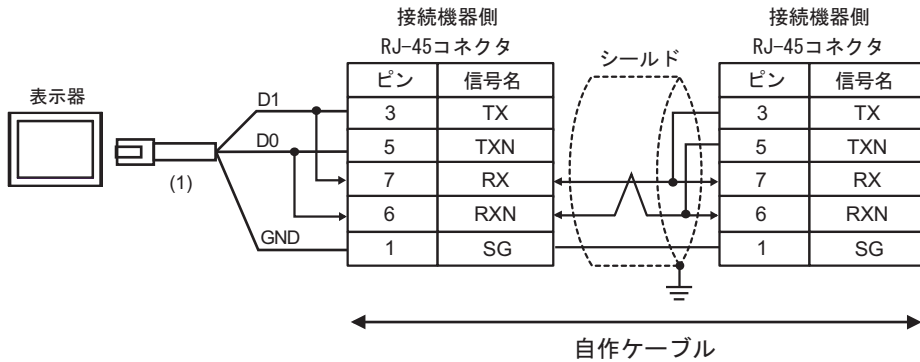
- 接続の終端となる接続機器のディップスイッチ 1 を ON にして終端抵抗 (100Ω) を挿入してください。

14J)

- 1 : 1 接続の場合



- 1 : n 接続の場合



番号	名称	備考
(1)	(株) デジタル製 RJ45 RS-485 ケーブル (5m) PFXZLMCBJR81	

**MEMO**

- 接続の終端となる接続機器のディップスイッチ 1 を ON にして終端抵抗 (100Ω) を挿入してください。



## 6 使用可能デバイス

使用可能なデバイスアドレスの範囲を下表に示します。

### 6.1 H/EH-150/MICRO-EH シリーズ

L/H はシステムデータエリアに指定できます。

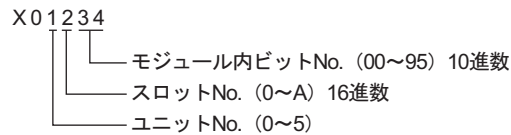
デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	ダブルワードアドレス	32 bit	備考
外部入力	X00000-X05A95	WX0000- WX05A7	DX0000-DX05A6	L/H	※1※2
外部出力	Y00000-Y05A95	WY0000- WY05A7	DY0000-DY05A6		※2
リモート入力リレー	X10000-X49995	WX1000-WX4997	DX1000-DX4996		※1※3
リモート出力リレー	Y10000-Y49995	WY1000-WY4997	DY1000-DY4996		※3
内部出力	R000-R7BF	—	—		
特殊内部出力	R7C0-R7FF	—	—		
データエリア	M0000-M3FFF	WM000-WM3FF	DM000-DM3FE		
第1 CPU リンク	L00000-L03FFF	WL0000-WL03FF	DL0000-DL03FE		
第2 CPU リンク	L10000-L13FFF	WL1000-WL13FF	DL1000-DL13FE		
オンディレータイマ	TD0000 -TD1023	—	—		
シングルショットタイマ	SS0000-SS1023	—	—		
ウォッチドッグタイマ	WDT0000- WDT1023	—	—		
モノステーブルタイマ	MS0000-MS1023	—	—		
積算タイマ	TMR0000- TMR1023	—	—		
アップカウンタ	CU0000-CU2047	—	—		
リングカウンタ	RCU0000- RCU2047	—	—		
アップダウンカウンタ	CT0000-CT2047	—	—		
拡張タイマ	TM0000 - TM2047	—	—		
タイマ・カウンタ (経過値)	—	TC0000-TC2047	—		
拡張タイマ (経過値)	—	TV0000 - TV2047	—		

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	ダブルワードアドレス	32 bit	備考
ワード内部出力	—	WR0000- WRC3FF	DR0000-DRC3FE	[L/H]	
特殊ワード内部出力	—	WRF000- WRF1FF	DRF000-DRF1FE		
ネットワークリンクエリア	—	WN0000- WN7FFF	DN0000-DN7FFE		

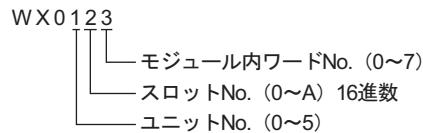
※1 書込み不可

※2 次のように指定します。

<例>外部入力ユニット No.1、スロット No.2、モジュール内ビット No.34 の場合

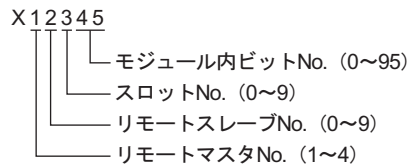


<例>外部入力ユニット No.1、スロット No.2、モジュール内ワード No.3 の場合

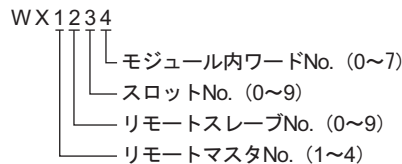


※3 次のように指定します。

<例>リモート外部入力リモートマスタ No.1、リモートスレーブ No.2、スロット No.3、モジュール内ビット No.45 の場合



<例>リモート外部入力リモートマスタ No.1、リモートスレーブ No.2、スロット No.3、モジュール内ワード No.4 の場合



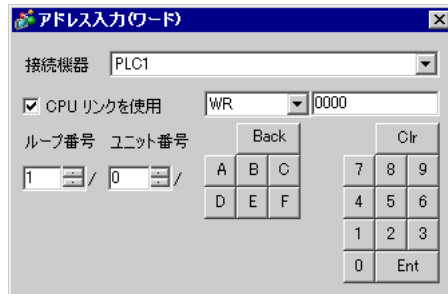
#### MEMO

- 使用できるデバイスの種類、範囲はCPUによって異なる場合があります。ご使用になられる前に、各CPUのマニュアルでご確認ください。

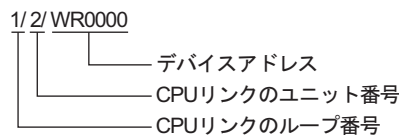
## ■ CPU リンクを使用する場合のアドレス設定方法

「CPU リンクを使用」のチェックボックスを ON にします。

CPU リンクを使用する場合は、アドレスにループ番号とユニット番号が付加されます。



<例>ループ番号 1、ユニット番号 2 の場合



### MEMO


- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア (ダイレクトアクセス方式専用エリア)」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

☞「表記のルール」

## 6.2 Web コントローラシリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	ダブルワードアドレス	32 bit	備考
外部入力	X0000-X0012 X1000-X1015 X2000-X2015 X3000-X3015 X4000-X4015	WX030-WX031 WX100-WX104 WX200-WX204 WX300-WX304 WX400-WX404	DX030 DX100-DX103 DX200-DX203 DX300-DX303 DX400-DX403	<b>[L/H]</b>	※ 1
外部出力	Y0100-Y0109 Y1016-Y1031 Y2016-Y2031 Y3016-Y3031 Y4016-Y4031	WY40 WY105-WY107 WY205-WY207 WY305-WY307 WY405-WY407	DY105-DY106 DY205-DY206 DY305-DY306 DY405-DY406		
内部出力	R000-R7BF	—	—		
特殊内部出力	R7C0-R7FF	—	—		
データエリア	M0000-M3FFF	WM000-WM3FF	DM000-DM3FE		
オンディレータイマ	TD000-TD255	—	—		※ 2
シングルショットタイマ	SS000-SS255	—	—		※ 2
アップカウンタ	CU000-CU255	—	—		※ 2
アップダウンカウンタ	CT000-CT255	—	—		※ 2※ 3
タイマ・カウンタ (経過値)	—	TC000-TC255	—		
ワード内部出力	—	<b>WR0000- WRC3FF</b>	DR0000-DRC3FE		※ 4 
ワード特殊内部出力		WRF000- WRF1FF	DRF000-DRF1FE		

※ 1 書込み不可

※ 2 ラダープログラム上でそれぞれのタイマ、カウンタを定義する必要があります。

※ 3 アップダウンカウンタアップ入力、アップダウンカウンタダウン入力は共に CT で指定しますが、接続機器でのデバイス名はそれぞれ CTU、CTD です。

CTU にアクセスする場合は、接続機器のラダープログラム上で該当のアドレスを CTU と定義します。同様に、CTD にアクセスする場合は、接続機器のラダープログラム上で該当のアドレスを CTD と定義します。

※ 4 EH-WD10DR の場合、アドレス範囲は「WR0000-WR3FFF」、「DR0000-DR3FFE」です。

**MEMO**


- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア (ダイレクトアクセス方式専用エリア)」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

 「表記のルール」

## 6.3 EHV シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

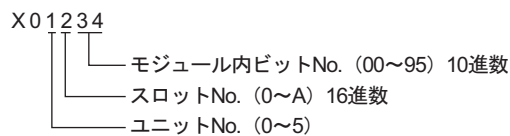
デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	ダブルワード アドレス	32 bit	備考
外部入力	X00000-X05A95	WX0000- WX05A7	DX0000-DX05A6	[L/H]	※1※2
外部出力	Y00000-Y05A95	WY0000- WY05A7	DY0000-DY05A6		※2
リモート入力リレー	X10000-X45A95	WX1000- WX45A7	DX1000-DX45A6		※1※3
リモート出力リレー	Y10000-Y45A95	WY1000- WY45A7	DY1000-DY45A6		※3
拡張外部入力	EX00000- EX5A7FF	WEX0000- WEX5A7F	DEX0000- DEX5A7E		※1
拡張外部出力	EY00000- EY5A7FF	WEY0000- WEY5A7F	DEY0000- DEY5A7E		
内部出力	R000-R7BF	—	—		
特殊内部出力	R7C0-RFFF	—	—		
データエリア	M00000-M7FFFF	WM0000- WM7FFF	DM0000- DM7FFE		
第1CPUリンク	L00000-L03FFF	WL0000-WL03FF	DL0000-DL03FE		
第2CPUリンク	L10000-L13FFF	WL1000-WL13FF	DL1000-DL13FE		
第3CPUリンク	L20000-L23FFF	WL2000-WL23FF	DL2000-DL23FE		
第4CPUリンク	L30000-L33FFF	WL3000-WL33FF	DL3000-DL33FE		
第5CPUリンク	L40000-L43FFF	WL4000-WL43FF	DL4000-DL43FE		
第6CPUリンク	L50000-L53FFF	WL5000-WL53FF	DL5000-DL53FE		
第7CPUリンク	L60000-L63FFF	WL6000-WL63FF	DL6000-DL63FE		
第8CPUリンク	L70000-L73FFF	WL7000-WL73FF	DL7000-DL73FE		
オンディレータイマ	TD0000-TD2559	—	—		
オフディレータイマ	TDN0000- TDN2559	—	—		
シングルショットタイマ	SS0000-SS2559	—	—		
ウォッチドッグタイマ	WDT0000- WDT2559	—	—		
モノステーブルタイマ	MS0000-MS2559	—	—		
積算タイマ	TMR0000- TMR2559	—	—		
アップダウンカウンタ	CT000-CT511	—	—		
アップカウンタ	CU000-CU511	—	—		

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	ダブルワードアドレス	32 bit	備考
リンクカウンタ	RCU000-RCU511	—	—	[L/H]	
タイマ・カウンタ (経過値)	—	TC0000-TC2559	—		
ワード内部出力	WR0000.0- WREFFF.F	WR0000- WREFFF	DR0000-DREFFE		
特殊ワード内部出力	WRF000.0- WRFFFF.F	WRF000- WRFFFF	DRF000-DRFFFE		
データエリア	WN00000.0- WN1FFFF.F	WN00000- WN1FFFF	DN00000- DN1FFFE		

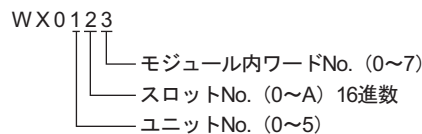
※1 書込み不可

※2 次のように指定します。

<例>外部入力ユニット No.1、スロット No.2、モジュール内ビット No.34 の場合

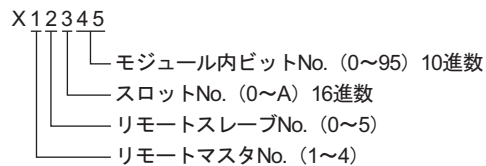


<例>外部入力ユニット No.1、スロット No.2、モジュール内ワード No.3 の場合

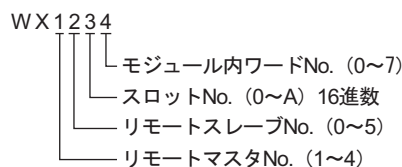


※3 次のように指定します。

<例>リモート外部入力リモートマスタ No.1、リモートスレーブ No.2、スロット No.3、モジュール内ビット No.45 の場合



<例>リモート外部入力リモートマスタ No.1、リモートスレーブ No.2、スロット No.3、モジュール内ワード No.4 の場合



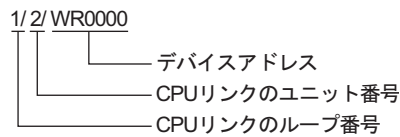
## ■ CPU リンクを使用する場合

「CPU リンクを使用」のチェックボックスを ON にします。

CPU リンクを使用する場合は、アドレスにループ番号とユニット番号が付加されます。



<例>ループ番号 1、ユニット番号 2 の場合



### MEMO

- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア (ダイレクトアクセス方式専用エリア)」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

☞ 「表記のルール」

## 7 デバイスコードとアドレスコード

デバイスコードとアドレスコードはデータ表示器などのアドレスタイプで「デバイスタイプ&アドレス」を設定している場合に使用します。

### 7.1 H/EH-150/MICRO-EH シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
外部入力	X	80	ワードアドレス
	WX		ワードアドレス
	DX	20	ワードアドレス
外部出力	Y	81	ワードアドレス
	WY		ワードアドレス
	DY	21	ワードアドレス
データエリア	M	82	ワードアドレス
	WM		ワードアドレス
	DM	22	ワードアドレス
CPU リンク	L	83	ワードアドレス
	WL		ワードアドレス
	DL	23	ワードアドレス
タイマ・カウンタ (経過値)	TC	60	ワードアドレス
拡張タイマ (経過値)	TV	61	ワードアドレス
ワード内部出力	WR	00	ワードアドレス
	DR	24	ワードアドレス
ネットワークリンクエリア	WN	01	ワードアドレス
	DN	25	ワードアドレス



## 7.2 Web コントローラシリーズ

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
外部入力	X	80	ワードアドレス
	WX		ワードアドレス
	DX	20	ワードアドレス
外部出力	Y	81	ワードアドレス
	WY		ワードアドレス
	DY	21	ワードアドレス
データエリア	M	82	ワードアドレス
	WM		ワードアドレス
	DM	22	ワードアドレス
タイマ・カウンタ (経過値)	TC	60	ワードアドレス
ワード内部出力 ワード特殊内部出力	WR	00	ワードアドレス
	DR	24	ワードアドレス

## 7.3 EHV シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
外部入力	X	80	ワードアドレス
	WX		ワードアドレス
	DX	20	ワードアドレス
外部出力	Y	81	ワードアドレス
	WY		ワードアドレス
	DY	21	ワードアドレス
拡張外部入力	EX	84	ワードアドレス
	WEX		ワードアドレス
	DEX	26	ワードアドレス
拡張外部出力	EY	85	ワードアドレス
	WEY		ワードアドレス
	DEY	27	ワードアドレス
データエリア	M	82	ワードアドレス
	WM		ワードアドレス
	DM	22	ワードアドレス
CPU リンク	L	83	ワードアドレス
	WL		ワードアドレス
	DL	23	ワードアドレス
ワード内部出力	WR	00	ワードアドレス
	DR	24	ワードアドレス
データエリア	WN	01	ワードアドレス
	DN	25	ワードアドレス
タイマ・カウンタ (経過値)	TC	60	ワードアドレス

## 8 エラーメッセージ

エラーメッセージは表示器の画面上に「番号:機器名:エラーメッセージ(エラー発生箇所)」のように表示されます。それぞれの内容は以下のとおりです。

項目	内容
番号	エラー番号
機器名	エラーが発生した接続機器の名称。接続機器名は GP-Pro EX で設定する接続機器の名称です。(初期値 [PLC1])
エラーメッセージ	発生したエラーに関するメッセージを表示します。
エラー発生箇所	<p>エラーが発生した接続機器の IP アドレスやデバイスアドレス、接続機器から受信したエラーコードを表示します。</p> <p><b>MEMO</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>IP アドレスは「IP アドレス (10 進数): MAC アドレス (16 進数)」のように表示されます。</li> <li>デバイスアドレスは「アドレス: デバイスアドレス」のように表示されます。</li> <li>受信エラーコードは「16 進数 [16 進]」のように表示されます。</li> </ul>

エラーメッセージの表示例

「RHAA035:PLC1: 書き込み要求でエラー応答を受信しました (受信エラーコード:[02H,02H])」

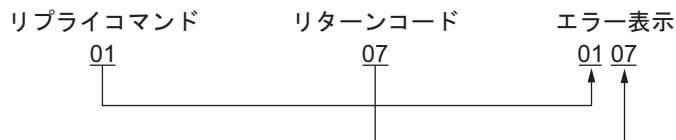
**MEMO**

- 受信したエラーコードの詳細は、接続機器のマニュアルを参照してください。
- ドライバ共通のエラーメッセージについては「保守/トラブル解決ガイド」の「表示器で表示されるエラー」を参照してください。

### ■ ドライバ固有のエラーコード

エラーコードは分割された 2 バイトのコードとして送信されます。表示器は 1 バイトコードを使用してエラー番号を表示します。

<例>



エラーコード	説明
01, 05	要求されたポイントの数が指定の範囲外である
01, 06	指定されたデバイスが存在しない
01, 07	指定されたデバイスアドレスが範囲外である

**MEMO**

- 受信したエラーコードの詳細は、接続機器のマニュアルを参照してください。

